

令和4年度

シラバス

茨城県立つくば看護専門学校

目次

教育理念・教育目標	1
求める入学生像・期待する卒業生像	1
カリキュラムの考え方	
1. はじめに	2
2. カリキュラムにおける人間・環境・健康・看護の概念	2
3. カリキュラム構成の考え方	3
4. カリキュラムの構成	7
5. 期待する卒業生像と教科目との関連	9
基礎分野	
科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	10
専門基礎分野	
人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	22
健康支援と社会保障制度	37
専門分野	
基礎看護学	44
地域・在宅看護論	61
成人看護学	71
老年看護学	80
小児看護学	86
母性看護学	93
精神看護学	99
看護の統合と実践	105

教育理念（教育目的含む）

看護職として必要な基礎的能力を養い、地域・社会に貢献できる質の高い看護師を育成します。
本校では、人々に深い関心を寄せ、誠実で柔軟な対応ができる豊かな人間性を育むことを重視します。
この人間性を基盤に、対象や地域・社会の変化に合わせて看護を創造し、実践できる人材の育成を目指します。

教育目標

1. 人とのかかわりを通して自己を見つめ、相手を尊重して人間関係を形成する能力を養う。
2. 看護職としての責務を自覚し、対象の立場に立って倫理に基づく看護を実践する基礎的能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
4. 健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復にかかわる看護を、健康の状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う。
5. 保健・医療・福祉システムにおける看護職および他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々へ看護を提供する基礎的能力を養う。
6. 看護の質の向上を図るために、探究心を持って主体的に学び続ける能力を養う。

求める入学生像

本校では、次の要件を備えた学生の入学を望んでいる。

1. 看護師になりたいという意志や動機が明確で、根気よく物事や学習に取り組める人
2. 人の考えや気持ちに関心を寄せ、他者の考えや意見を尊重できる人
3. 物事や学習に積極的・主体的に取り組み、自己の考えを表現できる人
4. 社会の変化や情報を自ら把握し、社会の一員として自律的に生活できる人

期待する卒業生像

教育理念を基に本校の教育課程にそって研鑽を積み、所定の単位数を修得した者に卒業を認定するとともに、専門士（看護専門課程）の称号を与える。卒業までに修得する基礎的能力の目安は、以下の通りである。

1. 人とのかかわりを通して自ら内省し、相手を尊重して円滑な人間関係を形成できる。
2. 看護の対象を身体的・精神的・スピリチュアル的・社会的側面をもった統合体としての存在と捉えることができる。
3. 人間とその生活に関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重し、倫理的判断に基づいた行動をとることができる。
4. 看護の実践に必要な基礎的知識や技術、そして誠実な態度を修得し、受け持つ対象とその家族に必要な看護について、助言を受けながら計画・実施・評価できる。
5. 保健・医療・福祉チームにおける看護職および他職種の役割を理解し、多職種との連携・協働について、助言を受けながら実施できる。
6. 地域・社会の情勢や医療の動向に目を向け、探究心を持って主体的に学び続けることができる。
7. これまでの学習や実習での経験を基に、看護に対する自己の考えをまとめ、表現することができる。

カリキュラムの考え方

1. はじめに

少子高齢社会の進展や疾病構造の変化等を踏まえ、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの構築が進められている。また、医療・介護分野における通信情報技術（ICT）の導入が急速に進んでおり、看護を取り巻く環境は大きく変化している。看護職が働く場は医療機関に限らず在宅や施設等へ拡がり、看護職が対応する対象の多様性・複雑性は増している。看護職には、多様な場において多職種と連携しながら看護を実践する能力や、対象の多様性・複雑性に合わせて看護を創造する能力が求められている。

これらの背景を踏まえ、看護基礎教育におけるカリキュラムを改正した。若い世代におけるコミュニケーション能力の低下や生活体験の不足が指摘されている現状から、コミュニケーション能力の向上や多様な対象のライフスタイル・文化等を理解できる内容とした。また、多様な場において、対象の多様性・複雑性に合わせた看護を実践するための基礎的知識や技術、臨床判断能力やICTを活用するための基礎的能力が養える内容とした。さらに、将来、保健・医療・福祉システムにおいて看護職としての役割が発揮できるよう、看護職および他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働していくための基礎的能力が養える内容とした。

本校では、医療機関に限らず地域で生活している多様な対象に看護が実践できる能力を備えた看護職を育成することを目的としている。学生には、人々に深い関心を寄せることができ、誠実さ、倫理観や責任感、柔軟性や創造性を持ち合わせた豊かな人間として成長することを期待している。

2. カリキュラムにおける人間・環境・健康・看護の概念

本校では、看護における「人間・環境・健康・看護」の概念を基盤として、教育目的および教育目標を達成できるためのカリキュラム構成を考えた。「人間・環境・健康・看護」の概念規定は、以下の通りである。

人間	<ul style="list-style-type: none"> ① 人間とは、身体的・精神的・スピリチュアル的・社会的側面をもつ存在である。 ② 人間の身体的・精神的・スピリチュアル的・社会的側面は、互いに影響し合っている。 ③ 人間とは、全体性をもった統合体である。 ④ 人間とは、環境との相互作用の中で適応し、生きていく存在である。 ⑤ 人間とは、可能性をもち、より高い欲求の達成を目指して生きていく存在である。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境とは、人間を含むすべてを指す。 ② 環境は外部環境と内部環境の2つの側面をもつ。内部環境とは、生体内の恒常性を維持する内的メカニズムである。外部環境とは、人間の生活と生存に影響を与える外的条件を含めたすべてを指し、化学的環境、物理的環境、生物的環境、社会的環境等がある。 ③ 環境と人間は互いに影響し合い、変化する。
健康	<ul style="list-style-type: none"> ① 健康とは、環境に適応し、身体的・精神的・スピリチュアル的・社会的機能を十分に発揮している状態をいう。 ② 健康とは、変化するものであり、連続的な現象である。 ③ 健康は内部環境と外部環境の相互作用によって成り立っている。 ④ 健康は個別的なものであり、それぞれが自らつくるものである。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護は、あらゆるライフサイクルや健康状態にある個人および家族、集団、地域を対象としている。 ② 看護とは、対象となる人間が望ましい健康状態を保持・増進、健康の回復、苦痛の緩和を図り、生涯を通してその人らしく生を全うすることができるように支援することである。 ③ 看護とは、健康問題に対する人間の反応を捉え、科学的・系統的に働きかけることである。 ④ 看護とは、対象となる人に関心を寄せてかかわることを通して苦痛や苦悩に気づき、人々の尊厳を守る人間的な配慮を行うことである。 ⑤ 看護とは、保健・医療・福祉システムの中で多職種と連携・協働しながら独自の役割・機能を果たすものである。

3. カリキュラム構成の考え方

1) カリキュラム全体の構成

カリキュラムを基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大別し、各分野を以下のように構成した。

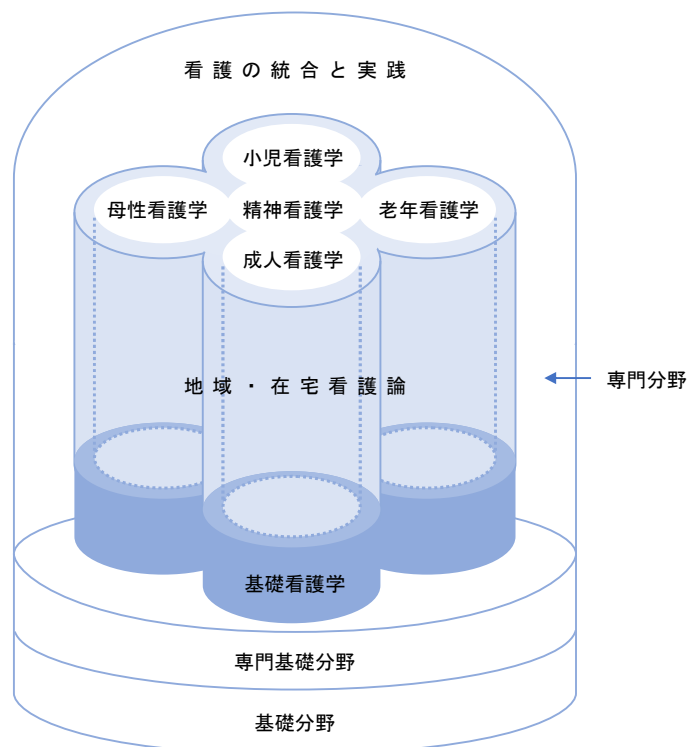
基礎分野には、看護を実践するために必要な科学的思考を身につける内容や、看護の対象を理解するために必要な人間の生活と社会を理解する内容が含まれる。基礎分野は看護の基盤を支える分野であると同時に、社会人としての教養を身につける分野でもある。基礎分野の科目は学生が看護職として成長していくための出発点であり、学生が基礎分野での学びを通して看護の土台を構築できることを願い、カリキュラムの根底に位置づけた。

専門基礎分野には、人体の構造と機能を系統立てて理解する内容や、疾病の成り立ちおよび回復を促進するために必要な基礎的知識を身につける内容が含まれる。また、人々の健康や障がいの状態に応じて社会資源が活用できるように支援できる力が養えるよう、健康支援や社会保障制度に関する内容を充実させた。学生が、基礎分野で培った学びを活かして専門基礎分野での学びが深められることを願い、基礎分野の上に専門基礎分野を位置づけた。

専門分野には、各看護学（基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践）が含まれる。ここでは、各看護学の講義や演習だけでなく、臨地実習も含まれる。学生が、基礎分野および専門基礎分野で培ってきた学びを土台として各看護学の理解が深められることを願い、基礎分野および専門基礎分野の上に専門分野を位置づけた。

専門分野には、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学を柱として位置づけた。すべてのライフサイクルに共通する精神看護学を中心に位置づけ、人間のライフサイクルに応じた母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学を、精神看護学に隣接するようなかたちで配置した。基礎看護学は各看護学の基盤となる領域であるため、各看護学の柱の土台に位置づけた。地域・在宅看護論は人間のライフサイクルに応じた母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学および精神看護学に共通する領域であるため、各看護学の外側を取り囲むように位置づけた。学生が、基礎分野や専門基礎分野、各看護学での学びを統合し、看護を創造して実践できる能力を養っていけるよう、看護学全体を覆うように看護の統合と実践を位置づけた。

カリキュラムの構成図



2) 各分野の基本的考え方および科目の選定

カリキュラム全体の構成を踏まえ、各分野の基本的考え方をもとに科目を選定した。

(1) 基礎分野

看護を実践するための「科学的思考の基盤」となる科目として、看護実践の科学的根拠となる物理学、人間の行動を科学的に理解するための心理学、コミュニケーション能力の基礎となる人間関係論を選定した。また、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を身につけられるよう情報科学を選定した。

看護の対象を理解するための「人間と生活・社会の理解」となる科目として、文学、倫理学、社会学、教育学、人間発達学を位置づけた。文学の中に描かれている人物の背景や心情を汲み取って感性を高めるとともに、文章表現力を養うために文学（文章表現法を含む）を選定した。倫理の基礎を学び、看護職として倫理的判断に基づいた行動ができるよう倫理学を選定した。人間と社会とのかかわりや家族・文化を理解するために社会学を、看護職として教育的役割を果たす基盤となる知識を学ぶために教育学を選定した。また、人間のライフサイクルにおける成長と発達、老化や死を理解するために人間発達学を選定した。

基礎分野は看護の基盤を支える分野であると同時に、社会人としての教養を身につける分野でもある。国際化へ対応しうる能力やコミュニケーション能力を高めるだけでなく、グローバルな視野で社会を理解し、心身ともに健やかで豊かな人間性を養うために英語と保健体育を選定した。

(2) 専門基礎分野

看護の視点から人体の構造と機能を系統立てて理解し、あらゆる健康状態にある人間を捉えることができるよう「人体の構造と機能」および「疾病の成り立ちと回復の促進」には、解剖生理学、生化学、栄養学、微生物学、薬理学、病理学を選定した。また、多様な対象に看護を実践するための基礎知識として、疾病の病態や症状発生の機序、検査や治療等の理解だけでなく、臨床判断能力の基盤となる知識や技術が身につけられるように病態生理学と疾病論を選定した。

看護職として人々の健康や障がいの状態に応じて必要な社会資源が活用できるように支援していくため、「健康支援と社会保障制度」には、保健医療論、健康と社会・生活、公衆衛生学、社会保障と社会福祉、関係法規（看護をめぐる法と制度）を位置づけた。保健・医療・介護に関する基本概念の理解や、他職種の役割の理解および多職種との連携・協働についても考えることができるよう、保健医療論を選定した。学生が人間の健康や社会・生活とのつながりを意識し、対象を幅広い視点から捉えることができるよう、健康支援と社会保障の基盤となる知識を学ぶ科目として、健康と社会・生活、公衆衛生学を選定した。また、地域包括ケアシステムにおいて看護職としての役割が発揮できるための基礎的能力を養えるよう、社会保障と社会福祉の内容を充実させた。さらに、看護職の基盤となる倫理や法的責任、医療安全等についても考えられるよう、関係法規（看護をめぐる法と制度）を選定した。

(3) 専門分野

専門分野では、看護の対象および看護の目的・方法等を理解する内容を含むと同時に、基礎分野および専門基礎分野で学んだ内容を十分に活かして看護を実践していくための基礎的能力が養えるよう、基礎分野・専門基礎分野・専門分野における科目との関連に配慮しながら学習内容や科目の順序性を考えた。

① 基礎看護学

基礎看護学は各看護学の基盤となる領域である。看護の対象となる人間を統合的に捉え、看護を実践していくための基礎となる知識・技術・態度が養えるよう、基礎看護学の学習内容を充実させた。

基礎看護学には、看護学概論、基礎看護技術、臨床看護総論、臨床看護技術という科目を位置づけた。看護学概論は、看護における人間・環境・健康・看護の概念や看護理論、看護の位置づけや看護職の役割等、これから学んでいく看護学の基盤となる基礎的知識が習得できる内容とした。基礎看護技術Ⅰ～Ⅶは、看護の対象を理解するための考え方や基礎看護技術の目的・方法等が習得できる内容とした。臨床看護総論には、

学生が看護の対象を理解し、対象の経過に合わせて看護が実践できる基礎的能力が養えるよう、家族看護と経過別看護を取り入れた。臨床看護技術Ⅰ～Ⅲは治療処置別看護とし、主に健康問題を持つ対象に応じて看護を実践していくための基礎的知識や技術を習得できる内容とした。

臨地実習として、基礎看護学実習Ⅰ～Ⅳを位置づけた。基礎看護学実習Ⅰは、病院の機能や看護職の役割、患者の療養環境について学ぶ内容とした。基礎看護学実習Ⅱは、患者とのかかわりを通して対象との援助関係を形成するための基礎的能力が養える内容とした。基礎看護学実習Ⅲは、患者の状態に合わせて日常生活援助を行うための基礎的能力が養える内容とした。基礎看護学実習Ⅳは、人間関係を考慮しながら看護過程を展開していくための基礎的能力が養える内容とした。

② 地域・在宅看護論

少子高齢化、生産年齢人口の減少に伴う公助・共助の限界から、自助・互助の重要性が増している。医療機関に限らず地域で生活している多様な対象に看護が実践できる能力が養えるよう、地域・在宅看護論の学習内容を充実させた。

地域・在宅看護論には、地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅵという科目を位置づけた。地域・在宅看護論Ⅰは、地域と暮らしを理解するとともに、地域の生活環境が健康に与える影響について学ぶ内容とした。地域・在宅看護論Ⅱ～Ⅴでは、地域・在宅看護の対象や看護の基盤となる概念、地域で生活する対象者が健康的に暮らせるための支援、多職種との連携・協働等、地域・在宅看護に関する基礎的知識・技術・態度について学ぶ内容とした。地域・在宅看護論Ⅵでは、学生が地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅴで学んだ内容を統合し、これからの地域・在宅看護について創造的に考える力が養える内容とした。

臨地実習として、地域・在宅看護論実習Ⅰ～Ⅲを位置づけた。地域・在宅看護論実習Ⅰは保健センターや地域包括支援センターで実習を行い、地域で暮らすあらゆる発達段階の人々への健康支援について学ぶ内容とした。地域・在宅看護論実習Ⅱは訪問看護の実習とし、地域で療養生活を送る対象者を統合的に捉え、対象者とその家族の健康と暮らしを支える看護を実践するための基礎的能力が養える内容とした。地域・在宅看護論実習Ⅲは、老人ホームや精神デイケア、多機能型重症児デイサービスで実習を行う。地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能、多様な場での多様な看護について学ぶ内容とした。

③ 成人看護学

成人看護学には、成人看護学Ⅰ～Ⅵという科目を位置づけた。成人看護学Ⅰは、成人各期の特徴や成人の生活と健康との関連、成人の健康レベルに対応した看護について学ぶ内容とした。成人看護学Ⅱは、成人看護に有用な概念や理論を活用しながら成人期にある対象への看護について学ぶ内容とした。成人看護学Ⅲ～Ⅵは疾患別看護とし、疾患をもつ成人期にある対象への看護に関する基礎的知識や技術を学ぶ内容とした。

臨地実習として、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱを位置づけた。成人看護学実習Ⅰは、成人期にある対象を統合的に理解し、看護を展開できる能力が養える内容とした。成人看護学実習Ⅱは急性期病棟での実習とし、生体機能の変化が著しい状態にある患者の特徴や急性期にある患者とその家族への看護について学ぶ内容とした。急性期における看護の経験を通して、学生が臨床判断能力を養う機会となることを期待する。

④ 老年看護学

超高齢社会を迎え、高齢者を地域で支える地域包括ケアシステムの構築が進められている。看護職として高齢者の尊厳の保持やその人らしい生活を支援していくためには、老年期にある対象の理解が重要である。老年看護学を通して、高齢者の加齢に伴う変化や特徴、疾病予防からエンド・オブ・ライフ・ケアに至る連続した経過における看護について学べる構成とした。

老年看護学には、老年看護学Ⅰ～Ⅳという科目を位置づけた。老年看護学Ⅰは、加齢に伴う身体・精神・社会的機能の変化や、高齢者の生活と健康との関連、高齢者をとりまく社会等、老年看護の基本となる知識について学ぶ内容とした。老年看護学Ⅱは、高齢者の疾病の特徴や、高齢者の健康を保持・増進するための看護について学ぶ内容とした。老年看護学Ⅲは、健康問題を抱えた高齢者への看護について学ぶ内容とした。老年看護学Ⅳは、感覚器疾患をもつ高齢者への看護、高齢者の暮らしや生きがいを支える看護について学ぶ内容とした。臨地実習として老年看護学実習を位置づけ、老年期にある対象を統合的に理解し、看護を展開できる能力が養える内容とした。

⑤ 小児看護学

小児看護の対象である子どもの理解を深めるためには、子どもの成長・発達の特徴や子どもと家族を取り巻く社会の理解が重要である。小児看護学では、子どもをひとりの人間として尊重し、社会の中で健全な人間形成ができるよう、子どもとその家族を包括的に捉えて看護を実践する能力が養える構成とした。

小児看護学には、小児看護学Ⅰ～Ⅳという科目を位置づけた。小児看護学Ⅰは、小児各期の成長・発達の特徴や子どもと家族を取り巻く社会、小児に関する保健や福祉等、小児看護の基盤となる知識を学ぶ内容とした。小児看護学Ⅱ～Ⅳでは、健康問題をもつ子どもとその家族への看護について学ぶ。疾病や診療・入院が子どもと家族に与える影響を学ぶとともに、子どもの安全・安楽を考えて看護が実践できる基礎的知識や技術、子どもの人権や倫理的課題についても学ぶ内容とした。

臨地実習として、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱを位置づけた。小児看護学実習Ⅰは保育所で実習を行い、小児各期の成長・発達の特徴、遊びや日常生活行動の実際を知り、子どもを理解する内容とした。小児看護学実習Ⅱは、小児各期にある対象とその家族を統合的に理解し、看護を展開できる能力が養える内容とした。

⑥ 母性看護学

母性看護の対象は、あらゆるライフサイクルにある女性、妊婦・産婦・褥婦および新生児、生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもを産み育てる家族とその家族が生活する地域社会をも含んでいる。リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤とし、母性看護の対象の特性や時代の変遷に合わせた看護について学べる構成とした。

母性看護学には、母性看護学Ⅰ～Ⅳという科目を位置づけた。母性看護学Ⅰは、母性看護の基盤となる概念や女性のライフサイクル各期における特徴と健康問題、対象を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ内容とした。母性看護学Ⅱ～Ⅳでは、妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過と看護、健康問題に対する看護について学ぶ内容とした。臨地実習として母性看護学実習を位置づけ、母性看護の対象とその家族を統合的に理解し、看護を展開できる能力が養える内容とした。

⑦ 精神看護学

近年における日本の精神保健医療福祉は変化しており、精神科病院を中心とした入院治療だけでなく、地域における精神看護が求められている。精神看護学では、あらゆるライフサイクルにおける人間の精神の働きを心身の相関や社会との関連から理解し、精神の健康の保持・増進および疾病からの回復を支援するための看護について幅広く学べる構成とした。

精神看護学には、精神看護学Ⅰ～Ⅳという科目を位置づけた。精神看護学Ⅰでは、精神の健康の概念や精神の構造と機能等、精神看護の基盤となる知識について学ぶ内容とした。精神看護学Ⅱでは、現代社会と精神の健康、精神保健医療福祉に関わる法や施策、社会資源等について学ぶ内容とした。精神看護学Ⅲで精神疾患・精神障害の病態と診断・治療について学び、精神看護学Ⅳで精神障害をもつ対象とその家族への看護について学ぶ内容とした。臨地実習として精神看護学実習を位置づけ、精神障害をもつ対象をその家族を統合的に理解し、看護を展開できる能力が養える内容とした。

⑧ 看護の統合と実践

看護の統合と実践には、看護基礎教育における学びを臨床での看護実践に活用できるよう、学生がこれまで学んできた知識・技術・態度を統合して看護を実践していく能力が養える構成とした。

看護の統合と実践には、看護の統合と実践Ⅰ～Ⅳという科目を位置づけた。看護の統合と実践Ⅰでは、臨床判断に必要な基礎的知識や技術について事例を通して学ぶ内容とした。看護の統合と実践Ⅱでは、看護管理、医療安全、感染管理に関する基礎的知識について学ぶ内容とした。看護の統合と実践Ⅲでは、災害看護・国際看護に関する基礎的知識だけでなく、救急看護において基本となる知識や技術についても学べる内容とした。看護の統合と実践Ⅳでは、看護研究に関する基礎的知識や技術を学び、看護を科学的に実践し、看護の質の向上を図るための研究的態度が養える内容とした。臨地実習として看護の統合と実践実習を位置づけ、医療チームの一員としての看護の役割を理解し、既習の知識・技術・態度を統合して看護が実践できる能力が養える内容とした。

看護の統合と実践での学びを通して学生が看護観を培い、看護職としての将来が描けることを期待する。

4. カリキュラムの構成

【基礎分野】

科学的思考の基盤
物理学
心理学
人間関係論
情報科学

人間と生活・社会の理解

文学と文章表現法
倫理学
社会学
教育学
人間発達学
外国語（英語）Ⅰ・Ⅱ
保健体育Ⅰ～Ⅲ

【専門基礎分野】

人体の構造と機能
疾病の成り立ちと回復の促進
解剖生理学Ⅰ～Ⅴ
生化学
栄養学
微生物学
薬理学
病理学
病態生理学
疾病論Ⅰ～Ⅶ

健康支援と社会保障制度

保健医療論
健康と社会・生活
公衆衛生学
社会保障と社会福祉Ⅰ・Ⅱ
看護をめぐる法と制度

【専門分野】

基礎看護学

看護学概論
基礎看護技術Ⅰ～Ⅶ
臨床看護総論
臨床看護技術Ⅰ～Ⅲ
基礎看護学実習Ⅰ～Ⅳ

地域・在宅看護論

地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ [対象論・目的論]
地域・在宅看護論Ⅲ～Ⅵ [方法論]
地域・在宅看護論実習Ⅰ [臨地実習]
地域・在宅看護論実習Ⅱ [臨地実習]
地域・在宅看護論実習Ⅲ [臨地実習]

保健センター、地域包括支援センター
訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、医療福祉相談課
特別養護老人ホーム、精神デイケア、多機能型重症児デイサービス

成人看護学

成人看護学Ⅰ [概論・保健]
成人看護学Ⅱ～Ⅵ [方法論]
成人看護学実習Ⅰ [臨地実習]
成人看護学実習Ⅱ [臨地実習]

一般病棟、健診センター
急性期病棟、手術室、救急外来

老年看護学

老年看護学Ⅰ [概論・保健]
老年看護学Ⅱ～Ⅳ [方法論]
老年看護学実習 [臨地実習]

一般病棟、緩和ケア病棟

小児看護学

小児看護学Ⅰ [概論・保健]
小児看護学Ⅱ～Ⅳ [方法論]
小児看護学実習Ⅰ [臨地実習]
小児看護学実習Ⅱ [臨地実習]

保育所
小児病棟

母性看護学

母性看護学Ⅰ [概論・保健]
母性看護学Ⅱ～Ⅳ [方法論]
母性看護学実習 [臨地実習]

産科病棟

精神看護学

精神看護学Ⅰ・Ⅱ [概論・保健]
精神看護学Ⅲ・Ⅳ [方法論]
精神看護学実習 [臨地実習]

精神科病棟

看護の統合と実践

看護の統合と実践Ⅰ [臨床判断]
看護の統合と実践Ⅱ [看護管理]
看護の統合と実践Ⅲ [災害・国際看護]
看護の統合と実践Ⅳ [看護研究]
看護の統合と実践実習 [臨地実習]

一般病棟（管理実習、複数受け持ち、夜間実習）

教育課程

令和4年4月付

分野	科目	単位数	時間数	分野	科目	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基盤	(4)	(100)	専門分野	基礎看護学実習 I	1	35	
	物理学	1	25		基礎看護学実習 II	1	35	
	心理学	1	25		基礎看護学実習 III	1	35	
	人間関係論	1	25		基礎看護学実習 IV	2	70	
	情報科学	1	25		地域・在宅看護論	(11)	(325)	
	人間と生活・社会の理解	(10)	(250)		地域・在宅看護論 I	1	25	
	文学と文章表現法	1	25		地域・在宅看護論 II	1	25	
	倫理学	1	25		地域・在宅看護論 III	1	25	
	社会学	1	25		地域・在宅看護論 IV	1	25	
	教育学	1	25		地域・在宅看護論 V	1	25	
人間発達学	1	25	地域・在宅看護論 VI	1	25			
外国語(英語) I	1	25	地域・在宅看護論実習 I	1	35			
外国語(英語) II	1	25	地域・在宅看護論実習 II	2	70			
保健体育 I	1	25	地域・在宅看護論実習 III	2	70			
保健体育 II	1	25	成人看護学 I	(10)	(290)			
保健体育 III	1	25	成人看護学 I	1	25			
基礎分野 小計	14	350	成人看護学 II	1	25			
人体の構造と機能	(18) (450)	(450)	専門分野	成人看護学 III	1	25		
疾病の成り立ちと回復の促進				成人看護学 IV	1	25		
解剖生理学 I				1	25	成人看護学 V	1	25
解剖生理学 II				1	25	成人看護学 VI	1	25
解剖生理学 III				1	25	成人看護論実習 I	2	70
解剖生理学 IV				1	25	成人看護論実習 II	2	70
解剖生理学 V				1	25	老年看護学	(7)	(205)
生化学				1	25	老年看護学 I	1	25
栄養学				1	25	老年看護学 II	1	25
微生物学				1	25	老年看護学 III	1	25
薬理学				1	25	老年看護学 IV	1	25
病理学				1	25	老年看護学実習	3	105
病態生理学				1	25	小児看護学	(7)	(205)
疾病論 I				1	25	小児看護学 I	1	25
疾病論 II				1	25	小児看護学 II	1	25
疾病論 III				1	25	小児看護学 III	1	25
疾病論 IV				1	25	小児看護学 IV	1	25
疾病論 V				1	25	小児看護学実習 I	1	35
疾病論 VI	1	25	小児看護学実習 II	2	70			
疾病論 VII	1	25	母性看護学	(6)	(170)			
健康支援と社会保障制度	(6)	(150)	母性看護学 I	1	25			
保健医療論	1	25	母性看護学 II	1	25			
健康と社会・生活	1	25	母性看護学 III	1	25			
公衆衛生学	1	25	母性看護学 IV	1	25			
社会保障と社会福祉 I	1	25	母性看護学実習	2	70			
社会保障と社会福祉 II	1	25	精神看護学	(6)	(170)			
看護をめぐる法と制度	1	25	精神看護学 I	1	25			
専門基礎分野 小計	24	600	精神看護学 II	1	25			
専門分野	基礎看護学	(17)	(475)	精神看護学 III	1	25		
	看護学概論	1	25	精神看護学 IV	1	25		
	基礎看護技術 I	1	25	精神看護学実習	2	70		
	基礎看護技術 II	1	25	看護の統合と実践	(6)	(170)		
	基礎看護技術 III	1	25	看護の統合と実践 I	1	25		
	基礎看護技術 IV	1	25	看護の統合と実践 II	1	25		
	基礎看護技術 V	1	25	看護の統合と実践 III	1	25		
	基礎看護技術 VI	1	25	看護の統合と実践 IV	1	25		
	基礎看護技術 VII	1	25	看護の統合と実践実習	2	70		
	臨床看護総論	1	25	専門分野	[講義・演習]	44	1100	
	臨床看護技術 I	1	25	[臨床実習]	26	910		
	臨床看護技術 II	1	25	小計	70	2010		
	臨床看護技術 III	1	25	総合計	108	2960		

5. 期待する卒業生像と教科目との関連

期待する卒業生像		関連する科目		
		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
1	人とのかかわりを通して自ら内省し、相手を尊重して円滑な人間関係を形成できる。	心理学 人間関係論 倫理学 保健体育Ⅰ～Ⅲ	健康と社会・生活	基礎看護技術Ⅰ 臨床看護技術Ⅰ 精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ 臨地実習
2	看護の対象を身体的・精神的・スピリチュアル的・社会的側面としてみた統合体としての存在を捉えることができる。	物理学 心理学 社会学 人間発達学	解剖生理学Ⅰ～Ⅴ 生化学 栄養学 微生物学 薬理学 病理学 病態生理学 疾病論Ⅰ～Ⅶ	看護学概論 基礎看護技術Ⅶ 臨床看護総論 臨床看護技術Ⅰ 地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅲ 成人看護学Ⅰ 老年看護学Ⅰ 小児看護学Ⅰ 母子看護学Ⅰ 精神看護学Ⅰ～Ⅳ 看護の統合と実践Ⅰ 臨地実習
3	人間とその生活に関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重し、倫理的判断に基づいた行動をとることができる。	情報科学 文学と文章表現法 倫理学 社会学	保健医療論 健康と社会・生活 公衆衛生学 社会保障と社会福祉Ⅰ・Ⅱ 看護をめぐる法と制度	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ～Ⅶ 地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学Ⅰ 老年看護学Ⅰ～Ⅲ 小児看護学Ⅰ・Ⅳ 母性看護学Ⅰ 精神看護学Ⅰ～Ⅳ 臨地実習
4	看護の実践に必要な基礎的知識や技術、そして誠実な態度を修得し、受け持つ対象とその家族に必要な看護について、助言を受けながら計画・実施・評価できる。	倫理学 教育学 人間発達学	解剖生理学Ⅰ～Ⅴ 栄養学 微生物学 薬理学 病理学 病態生理学 疾病論Ⅰ～Ⅶ 保健医療論 健康と社会・生活 公衆衛生学 社会保障と社会福祉Ⅰ・Ⅱ 看護をめぐる法と制度	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ～Ⅶ 臨床看護総論 臨床看護技術Ⅰ～Ⅲ 地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学Ⅰ～Ⅵ 老年看護学Ⅰ～Ⅳ 小児看護学Ⅰ～Ⅳ 母性看護学Ⅰ～Ⅳ 精神看護学Ⅰ～Ⅳ 看護の統合と実践Ⅰ～Ⅲ 臨地実習
5	保健・医療・福祉チームにおける看護職および他職種の役割を理解し、多職種との連携・協働について、助言を受けながら実施できる。	人間関係論	保健医療論 社会保障と社会福祉Ⅰ・Ⅱ 看護をめぐる法と制度	看護学概論 地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学Ⅰ～Ⅵ 老年看護学Ⅰ～Ⅳ 小児看護学Ⅰ～Ⅳ 母性看護学Ⅰ～Ⅳ 精神看護学Ⅰ～Ⅳ 看護の統合と実践Ⅰ～Ⅲ 臨地実習
6	地域・社会の情勢や医療の動向に目を向け、探究心を持って主体的に学び続けることができる。	情報科学 社会学 教育学	保健医療論 健康と社会・生活 公衆衛生学 社会保障と社会福祉Ⅰ・Ⅱ 看護をめぐる法と制度	地域・在宅看護論Ⅰ～Ⅵ 成人看護学Ⅰ 老年看護学Ⅰ 小児看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ 精神看護学Ⅰ 看護の統合と実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 臨地実習
7	これまでの学習や実習での経験を基に、看護に対する自己の考えをまとめ、表現することができる。	文学と文章表現法	保健医療論	看護学概論 地域・在宅看護論Ⅵ 看護の統合と実践Ⅳ 臨地実習

基礎分野

－ 科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解 －

【 目的 】

看護実践の基盤となる科学的思考を行うための基礎的知識や技術を習得する。看護の対象である多様な人間および人間を取り巻く社会や生活を理解する。また、看護職として必要なコミュニケーション能力や感性を高め、心身ともに健やかで豊かな人間性を養うことを目的とする。

【 基礎分野の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
科学的思考の基盤	物理学	1	25	1年次	前期
	心理学	1	25	1年次	前期
	人間関係論	1	25	1年次	後期
	情報科学	1	25	1年次	後期
人間と生活・社会 の理解	文学と文章表現法	1	25	1年次	前期
	倫理学	1	25	3年次	前期・後期
	社会学	1	25	1年次	前期
	教育学	1	25	3年次	前期・後期
	人間発達学	1	25	1年次	前期
	外国語（英語）Ⅰ	1	25	1年次	前期・後期
	外国語（英語）Ⅱ	1	25	2年次	前期・後期
	保健体育Ⅰ	1	25	1年次	前期・後期
	保健体育Ⅱ	1	25	2年次	前期・後期
	保健体育Ⅲ	1	25	3年次	前期・後期
合計		14	350		

物理学

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理学現象の原理や法則について理解できる。 2. 物理学の知識を活用し、医療・看護の場面で応用されている現象を理解できる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重いものを持つにはどうしたらよいか <ol style="list-style-type: none"> 1) 力のモーメント 2) てこの原理の人体中での応用 3) 筋肉の張力と関節にはたらく力 4) 腰にかかる力 2. 看護ボディメカニクスの物理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 重心と安定 2) 患者の体位と看護師の動作との関係 3) 看護ボディメカニクスの物理的重点事項 3. 身近な圧力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 圧力とは何か 2) 圧力の変化による人体への影響 3) 入浴とベッドの圧力効果 4. 呼吸器と吸引の物理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸運動のメカニズム 2) 吸引（ドレナージ） 3) サイフォンの原理 5. 点滴静脈内注射の物理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 点滴静脈内注射のセッティング 2) 流量の調節、バッグの高さ 6. 循環器の物理 <ol style="list-style-type: none"> 1) ポンプとしての心臓、血液循環と血圧 2) 血圧が測定できる理由 3) 血圧の重力による影響 7. 感覚器の物理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感覚の大きさ 2) 聴覚の大きさ 3) 視覚の機能 8. 体温制御の物理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の熱流モデル 2) 体温調節のための機能 9. 電気・磁気に関する基礎知識 10. 放射線の特性と基礎知識、医療における放射線の利用 				
使用教材	・看護学生のための物理学 第6版（医学書院）				
備考	医療や看護、人体に関連した現象には、物理学の要素が多数あり、物理学の観点から考えると明快に理解が深まることが多い。一般教養として物理学を学ぶだけでなく、物理学での学びを医療や看護、人体の現象についての理解に役立ててほしい。				

心理学

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 看護の対象である人間を理解するための基盤となる心理学の基本概念を理解できる。 2. 人間の心理や自己および他者を理解するための基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	1. 心理学とは 1) 対人援助と心理学 2) 心理学の歴史、現在の心理学 2. 感覚と知覚 1) 感覚のしくみとはたらき 2) 知覚のしくみとはたらき 3. 記憶 1) 記憶のメカニズム 2) 感覚・短期記憶と作業記憶 3) 長期記憶と忘却 4. 思考・言語・知能 1) 思考（思考、問題解決、推論） 2) 言語とコミュニケーション 3) 知能 5. 学習 1) 学習とは 2) 古典的条件づけ、オペラント条件づけと学習の理論 3) 社会的学習と効果的な学習方法 6. 感情と動機づけ 1) 感情の諸相 2) 感情のメカニズム 3) 動機づけ、動機づけの理論 7. 性格とパーソナリティ 1) 性格の理論 2) 性格の測定 8. 集団 1) 集団のしくみとはたらき 2) リーダーシップ 9. 心理臨床 1) 心の適応と不適応 2) 心理療法 10. 医療・看護と心理				
使用教材	・系統看護学講座：基礎分野 心理学 第6版（医学書院）				
備考	心理学は、人間の心や行動を理解するための学問である。看護職として必要なコミュニケーション能力を養うためには、他者だけでなく自己を知ることでもある。心理学を学ぶことによって看護の対象である人間（他者と自己）を理解するための基礎的知識や技術を身につけてほしい。				

人間関係論

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の中での自己および他者のあり方や特徴について気づくことができる。 2. 多様な対象と人間関係を形成していくために必要な基礎的知識やコミュニケーションの技法を習得できる。 3. 様々な場面において自己の思いや考えを適切に相手に伝える方法を習得できる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の中の自己と他者 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間関係論とは 2) 自己認知と対人認知 2. 対人関係と役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係の成立 2) 対人関係の維持と崩壊、対人葛藤と対処 3) 社会的役割 3. 態度と対人行動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 態度と態度変化 2) 説得的コミュニケーション 3) 攻撃 4) 援助 4. 集団と個人 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団の特性 2) 集団での課題遂行、集団での問題解決と意志決定 3) リーダーシップ 5. 人間関係をつくる理論と技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーション 2) カウンセリング・心理療法の理論とスキル 3) コーチングの理論とスキル 4) アサーティブ・コミュニケーション（アサーションの理論とスキル） 5) 看護への応用 6. 保健医療チームにおける人間関係 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療チームの人間関係 2) 患者を支える人間関係 3) 家族を含めた人間関係 4) 地域をつくる人間関係 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：基礎分野 人間関係論 第3版（医学書院） 						
備考	<p>人間関係論は、看護の場面だけでなく、人とかかわるすべての場面において活用できる知識やコミュニケーションの技法等を学ぶ科目である。人間関係論での学びを通して日頃の人間関係を振り返り、自己および他者の理解や良好な人間関係の構築へと役立ててほしい。</p>						

情報科学

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護で取り扱う情報に関する基礎的知識が理解できる。 2. 医療・看護における情報社会の現状が理解できる。 3. 看護職として情報を取り扱うために必要な情報倫理の基礎的知識や倫理的態度を身につけることができる。 4. 情報の収集、整理、発表のために必要なパソコンの基本操作方法を習得できる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の定義と特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報とは 2) 情報の特性 3) 情報の認知と意志決定 4) 情報の伝達とコミュニケーション 2. 社会と情報 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報社会の成立と発展 2) 情報社会で求められること 3. 保健医療と情報 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療における情報 2) エビデンス情報に基づいた保健医療 3) ヘルスプロモーションと情報 4. 医療・看護における情報 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護における情報 2) 情報社会と看護 3) 医療における情報システム 5. 情報と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報倫理と医療 2) 患者の権利と情報 3) 個人情報の保護 4) コンピュータリテラシーとセキュリティ 6. 情報処理の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 既存の情報の収集方法（文献検索、インターネット上で役立つ情報へのアクセス） 2) パソコンの基本操作（Microsoft Word/Excel/Power Point） 3) 文字情報の整理のポイント 4) レポートの書き方の基礎 7. 情報の発表とコミュニケーション 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：別巻 看護情報学 第3版（医学書院） 						
備考	<p>医療分野における通信情報技術（ICT）の導入が急速に進んでおり、看護職にはICTを活用できる能力が求められている。対象の情報を安全に活用し、情報をもとにコミュニケーションをとる力を養うだけでなく、看護職として情報を正しく取り扱える倫理的な態度を身につけてほしい。</p>						

文学と文章表現法

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学の中に描かれている医療や看護の場面をもとに、人間の「生・老・病・死」について考えることができる。 2. 文学の中に描かれている人物の背景や心情を汲み取り、看護の対象である多様な人間の理解に役立てることができる。 3. 言葉に対する意識や感性を高める必要性について理解できる。 4. 文章で表現するための基礎的知識や技術を習得できる。 						
学習概要	<p>[文学]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：文学と医療・看護 2. 文学作品を通して、人間の「生・老・病・死」について考える <hr/> <p>[文章表現法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文の基本（主語・述語、助詞、接続詞、修飾語、副詞、句読点の使い方） 2. 文章の組み立て <ol style="list-style-type: none"> 1) 段落の作り方 2) 段落間の論理と段落内の論理 3) 段落の基本的構造の理解 3. 論文・レポートの作法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 目的と方法の書き方 2) 結果の記述の基本原則 3) 考察の記述方法、意味のある論理展開 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・伝わる！文章力が身につく本（高橋書店） 						
備考	<p>文学の中に描かれている人間の様々な生き方や考え方を通して自己の感性を高めるとともに、他者や自分自身の内面を理解する機会としてほしい。また「読む・聞く・書く・話す」といった言語活動を通して、物事を正しく認識・判断し、適切な発信ができる能力を身につけてほしい。</p>						

倫理学

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理の基礎について理解できる。 2. 看護職として倫理的判断に基づいた行動がとれるよう、看護倫理の基礎的知識が習得できる。 3. 看護の現場にある倫理的課題を分析・解決するための考え方や方法を理解できる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理とは 2) 価値、価値観の形成に影響するもの 3) 倫理と道徳 4) 倫理と法 5) 倫理理論 2. 看護倫理の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護倫理とは 2) 看護倫理のアイデンティティ 3) 看護倫理の必要性 4) 看護倫理を学ぶ意義 3. 看護倫理のアプローチ <ol style="list-style-type: none"> 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理（倫理原則、倫理原則の意義および問題点と注意） 3) ケアの倫理（ケア、ケアリング、看護実践におけるケアの倫理の特徴と限界） 4. 看護倫理に関する重要な言葉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 和 2) コンパッションー思いやりの心 3) 共感 4) 道徳的感受性と道徳的レジリエンス 5) 対象と中心とした看護 6) 患者の尊厳 7) 看護アドボカシー 8) 協力と協働 9) パターナリズム 10) 個人の権利 11) 看護職の責任ー倫理的責任と法的責任 12) インフォームド・コンセント 13) 情報プライバシーと守秘義務 5. 倫理的意志決定のステップと事例検討 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学テキストNiCE 看護倫理 改定第3版（南江堂） 				
備考	<p>倫理学での学びを通して、人間の存在や価値観、ものの見方や考えについて考える機会としてほしい。看護職として倫理的判断に基づいた行動がとれる能力が求められているため、看護の場面における倫理的課題に気づける感性や倫理的課題について考える思考を身につけてほしい。</p>				

社会学

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 社会学的なものの見方や考え方をすることができる。 2. 人間の生活や社会の基本的構造・機能について理解できる。 3. 人間と社会とのかかわりや家族・地域、文化について理解できる。						
学習概要	1. 社会と社会学 1) 社会学とは何か、社会学的視点とモデル 2) 人間と社会 2. 家族 1) 家族の概念とその変遷、家族の形態と機能 2) 現代家族の諸問題 3. 地域社会 1) 地域社会における生活とその変化、農村社会と都市社会 2) 社会的ネットワークとその意義 4. 地位と役割、職業と労働 1) 社会構造と社会組織・組織集団 2) 組織集団における地位と役割 5. 現代社会と現代文化 1) 現代社会の形成過程 2) 文化の社会的機能 6. 社会の病理 1) 社会における正常と異常 2) 予言の自己成就とラベリング論 3) 社会問題の構築主義 7. 高齢社会と福祉 1) 高齢社会 2) 社会福祉と社会保障 8. 障がいのありか 1) 障がいと文化 2) 地域福祉と共生文化 9. 性・ジェンダー 1) 多次的現象としての女／男であること 2) 性別についての「常識」 10. 看護と社会学理論 1) ケアと行為、援助者としての人間 2) 役割理論と病者役割 11. 現代社会の課題						
使用教材							
備考	人間と社会とのかかわりや家族・地域、文化等の考え方は、多様で複雑である。社会学的なものの見方や考え方を知り、看護の対象である人間や人々が暮らす地域・社会を多角的な視点で捉え、考える機会としてほしい。						

教育学

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 教育の本質と機能について理解できる。 2. 教育の場の特徴と現状を理解できる。 3. 医療・看護の場面における教育の必要性和方法を理解できる。						
学習概要	1. 教育学を学ぶために 1) 社会の中の教育と看護 2) 教育の概念 3) 教育の対象 4) 教育の組織化－学校 2. 教育を成り立たせるもの 1) 教授一人を教えるということ 2) 訓育－他者とのかかわりを導く 3) 養護－教育の受け手をみまもる 4) 発達－教育を受けて成長する 3. 教育の営みを考える 1) 学びの場－家庭と学校 2) 教育の目標と評価 3) 教育のメディア－教育をデザインする 4) 教育の担い手－専門性と専門職性 5) 教育の場の変動 4. 現代教育の課題 1) ジェンダーとセクシュアリティ 2) 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育 3) シティズンシップ教育 5. 看護における教育 1) 学習の原理と特徴 2) 知識・技能・態度の学習 3) 指導者の役割と姿勢の理解 4) 指導の設計と効果的な指導方法 5) 学習の評価 6) さまざまな指導の工夫 6. 学習とキャリア開発 1) 生涯学習の必要性 2) 看護職の生涯学習 3) キャリア開発に向けた学習						
使用教材	・系統看護学講座：基礎分野 教育学 第8版（医学書院）						
備考	看護と教育には様々な共通点がある。教育という視点から社会や人の営みを考える機会としてほしい。看護職として教育的役割を担うための基礎的知識や技術を学ぶとともに、ひとりの人間として生涯学び続ける必要性を認識し、自ら学ぶ姿勢を養ってほしい。						

人間発達学

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義	評価		別紙参照	
学習目標	1. 発達的一般原則や法則、発達に影響する因子や発達理論について理解できる。 2. 乳児期から老年期までの身体的、精神的発達の特徴と行動の発達の推移が理解できる。 3. 乳児期から老年期までの各々の段階における各器官の生理的変化を理解できる。						
学習概要	1. 人間と発達 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間発達学とその意義 2) 人間を理解するための視点 3) 人間発達学における発達と発達を取り巻く関連用語 4) 人間の発達における共通性（発達の方向性、連続性、臨界期、発達の個人差） 5) 発達に影響を及ぼす因子 2. 発達理論とその歴史的展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達理論の歴史的展開 2) 現代の発達理論 3. 人間のライフサイクルと発達 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胎児期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理的側面の発達、発達の評価、胎児の発達にかかわる問題と発達に影響を及ぼす因子、発達に必要な支援 2) 乳幼児期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達、発達の評価、発達にかかわる健康上の問題、発達に必要な支援 3) 学童期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達、発達にかかわる健康上の問題、発達に必要な支援 4) 思春期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達、発達にかかわる健康上の問題、発達に必要な支援 5) 青年期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達、発達にかかわる健康上の問題、発達に必要な支援 6) 成人期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達、発達にかかわる健康上の問題、発達に必要な支援 7) 老年期の心と身体 形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達、発達の評価、発達にかかわる健康上の問題、発達に必要な支援 						
使用教材	・看護のための人間発達学 第5版（医学書院）						
備考	人間は生涯にわたって成長・発達していく存在である。人間の各期における身体・心理・社会的側面の発達や各期の発達の特徴について学び、人間を幅広い側面から捉える機会としてほしい。学生には人間発達学で学んだことを各看護学の学習に役立て、人間の理解を深めていくことを期待する。						

外国語（英語）Ⅰ

単位数	1単位	時期	1年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基礎知識や英文を正確に訳すことを学習し、英文を正しく理解できる。 2. 英語を母国語とする国の文化等についての基礎的知識を身につけることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な英文法の復習 2) 日本語と英語の比較 2. 英文読解 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ English for Medicine : Revised Edition (金星堂) 				
備考	<p>国際化へ対応しうる能力やコミュニケーション能力を高める科目として英語を選定した。外国語（英語）Ⅰでは、英文法の基礎知識を身につけるとともに、英文読解を通して英語を母国語とする国の文化について理解を深め、グローバルな視野で社会や文化を捉える機会としてほしい。</p>				

外国語（英語）Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護の現場における英会話に必要な基礎的知識を身につけることができる。 2. 英語のリーディング力、リスニング力、語彙力、表現力を身につけることができる。 3. 英語を母国語とする国や文化等についての基礎的知識を身につけることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英会話に必要な基礎知識 2. 医療・看護の場面で使用する英語表現 3. 医療・看護の場面における英会話の実際（プレゼンテーションを含む） 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院） 				
備考	<p>医療・看護の現場における英会話に必要な基礎知識を身につけるだけでなく、英会話の実際を通してリーディング力やリスニング力、語彙力や表現力を身につけてほしい。看護職には国際化へ対応しうる能力が求められていることを認識し、興味を持って英語を学んでほしい。</p>				

保健体育Ⅰ

単位数	1単位	時期	1年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとってのスポーツの意義を理解できる。 2. スポーツを通して自己の身体を知るとともに、基礎体力の向上を図ることができる。 3. スポーツを通して仲間とのコミュニケーション方法を身につけることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとってのスポーツの意義 2. スポーツを通してのコミュニケーション・仲間づくり 3. 体育実技（基礎体力づくり、球技等） 				
使用教材					
備考	自己の「身体を知る・使う」ことを通して人間の身体や健康への関心を高めてほしい。また、スポーツを通して仲間とのコミュニケーションや人間関係を構築するためのスキルを身につけてほしい。				

保健体育Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職として必要な基礎体力と運動習慣を身につけることができる。 2. 集団での活動を通して仲間とのコミュニケーションを学び、仲間と協力して成し遂げることの重要性や楽しさを理解できる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体育実技（基礎体力づくり、球技等） 2. レクリエーションの企画と実際 				
使用教材					
備考	看護職として必要な基礎体力や運動習慣を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力や協調性を学ぶ機会としてほしい。スポーツを通して心身ともに健やかで豊かな人間性を養ってほしい。				

保健体育Ⅲ

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職に必要な基礎体力と運動習慣を身につけることができる。 2. 集団での活動を通して仲間とのコミュニケーションを学び、仲間と協力して成し遂げる力を身につけることができる。 3. 障がい者スポーツの体験を通して多様な対象を理解し、障がいの有無にかかわらず人間がより良く生きるための支援について考えることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体育実技（基礎体力づくり、球技等） 2. レクリエーションの企画と実際 3. 障がい者スポーツの理解と実際 				
使用教材					
備考	スポーツを通して、看護の対象である多様な人間の理解や、障がいの有無にかかわらず人間がより良く生きるための支援や社会のあり方等について考える機会としてほしい。				

専門基礎分野

－ 人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 －

【 目的 】

看護の視点から人体の構造と機能を系統立てて理解し、あらゆる健康状態にある人間を捉えるための基礎的知識や技術を習得する。また、多様な対象に看護を実践するための基礎知識として、疾病の病態や症状発生の機序、検査や治療等の理解だけでなく、臨床判断能力の基盤となる知識や技術を習得することを目的とする。

【 専門基礎分野（人体の構造と機能／疾病の成り立ちと回復の促進）の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
人体の構造と機能 疾病の成り立ちと 回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	25	1年次	前期
	解剖生理学Ⅱ	1	25	1年次	前期
	解剖生理学Ⅲ	1	25	1年次	後期
	解剖生理学Ⅳ	1	25	1年次	後期
	解剖生理学Ⅴ	1	25	1年次	後期
	生化学	1	25	1年次	後期
	栄養学	1	25	2年次	後期
	微生物学	1	25	1年次	前期
	薬理学	1	25	1年次	後期
	病理学	1	25	1年次	後期
	病態生理学	1	25	3年次	前期・後期
	疾病論Ⅰ	1	25	2年次	前期
	疾病論Ⅱ	1	25	2年次	前期
	疾病論Ⅲ	1	25	2年次	前期
	疾病論Ⅳ	1	25	2年次	前期
	疾病論Ⅴ	1	25	2年次	前期
	疾病論Ⅵ	1	25	2年次	後期
	疾病論Ⅶ	1	25	3年次	前期
合計		18	450		

解剖生理学 I ・ II ・ III ・ IV ・ V

単位数	5単位	時期	1年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	125時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 人体の構造と機能について理解できる。 2. 解剖見学実習やかえるの解剖を通して解剖生理学の知識を理解するとともに、生命倫理について考えることができる。						
学習概要	解剖生理学 I 〔解剖学 1〕	1. 人体の基本構造 1) 細胞 2) 組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織） 2. 運動器系（骨格、関節、骨格筋の構造） 3. 神経系の構造とはたらき <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">※ 解剖見学実習（骨学・筋学）を含む</div>					
	解剖生理学 II 〔生理学 1〕	1. 細胞と組織 2. 体液とホメオスタシス 3. 筋系の機能（骨格筋が収縮するしくみ） 4. 神経系の機能（脊髄と脊髄神経、伝導路、脳神経） 5. 感覚器系の機能（体性感覚、特殊感覚） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">※ かえるの解剖を含む</div>					
	解剖生理学 III 〔解剖学 2〕	1. 感覚器系の構造とはたらき 2. 内分泌系の構造とはたらき 3. 循環器系の構造とはたらき 4. 呼吸器系の構造とはたらき 5. 消化器系の構造とはたらき					
	解剖生理学 IV 〔生理学 2〕	1. 呼吸器系の機能 2. 循環器系の機能 3. 血液・免疫系の機能 4. 消化器系の機能 5. 腎・泌尿器系の機能 6. 電解質のはたらき					
	解剖生理学 V 〔解剖学 3〕 〔生理学 3〕	1. 消化器系の構造とはたらき 2. 腎・尿路系（泌尿器系）の構造とはたらき 3. 生殖器系の構造とはたらき <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">※ 解剖見学実習（内臓学・神経解剖学）を含む</div> 4. 酸・塩基平衡 5. 体温調節機能 6. 内分泌系の機能 7. 生殖器系の機能					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ トートラ人体解剖生理学 原書11版（丸善出版） ・ ぜんぶわかる人体解剖図（成美堂出版） 						
備考	人間の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を学ぶ科目である。看護の対象である人間の身体、疾病や治療を理解するためには解剖生理学の知識が基盤となるため、興味を持って学んでほしい。						

生化学

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義	評価		別紙参照	
学習目標	1. 人体を構成している物質の構造とそのしくみについて理解できる。 2. 人間の生命維持に欠かすことのできない物質代謝のしくみについて理解できる。						
学習概要	1. 生体の成り立ちと生体分子 1) 生体の成り立ち、個体、器官、細胞と組織 2) 生体を構成する物質、生体で起こっている化学反応 2. タンパク質の性質 1) タンパク質の分類 2) タンパク質を構成するアミノ酸、アミノ酸の種類、アミノ酸のイオン化 3) タンパク質の高次構造、タンパク質の変性 3. 酵素の性質とはたらき 4. 糖質の代謝 1) 糖の分類 2) 糖質の消化と吸収、糖質は重要なエネルギー源、グルコースとグリコーゲン合成 3) 血糖の調節 5. 脂質の代謝 1) 脂質の種類とその性質 2) 脂質の代謝 6. アミノ酸およびタンパク質の代謝 1) タンパク質の代謝 2) アミノ酸骨格の異化 3) 非必須アミノ酸の合成、アミノ酸から合成される主な生理活性物質 7. 核酸の役割 1) 核酸の種類とその性質 2) タンパク質をつくるための遺伝情報 3) 核酸の生合成と不要になった核酸の分解 4) 細胞分裂とDNA複製の関係 8. ホルモン 1) ホルモンの種類、ホルモン分泌の調節 2) 各種のホルモン、ホルモン関連物質 9. ビタミン 10. 体液（水、無機質と微量元素、酸・塩基平衡） 11. 腎臓の機能 12. 血液の構成とそのはたらき						
使用教材	・わかりやすい生化学 第5版（ヌーヴェルヒロカワ）						
備考	生化学は、生体のしくみ、疾病と代謝・栄養を理解するために必要な科目である。人体のマクロ（全体）からミクロ（部分）に向かって、どこでどのような生化学反応が行われているのかを知り、生命現象の意義について考える機会として欲しい。						

栄養学

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 人間が健康な生活を営むために必要な栄養学の基礎的知識について理解できる。 2. 臨床栄養の基礎的知識について理解できる。 3. 調理実習や食事指導の演習を通して、栄養学の基礎的知識や技術を習得できる。						
学習概要	1. 人間栄養学と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間にとっての栄養と栄養素 2) 保健・医療における栄養学 3) 看護と栄養 2. 栄養素の種類とはたらき（糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維） 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 4. エネルギー代謝 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食品のエネルギー、体内のエネルギー 2) エネルギー代謝の測定 3) エネルギー消費 5. 食事と食品 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事とその変遷、日本人の食生活 2) 食事摂取基準 3) 食品群とその分類 4) 食品に含まれる栄養素 5) 食品の調理 6. 栄養所要量、基礎代謝 7. 栄養状態の評価・判定 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養アセスメントの意義 2) 栄養アセスメントの方法 8. ライフステージと栄養 9. 臨床栄養 <ol style="list-style-type: none"> 1) チームで取り組む栄養管理 2) 病院食 3) 栄養補給法 4) 経腸栄養製品、静脈栄養剤 5) 疾患・症状別食事療法、場面別の栄養管理 10. 健康づくりと食生活 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: right;"> ※ 調理実習、食事指導の演習を含む </div>						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 系統看護学講座：専門基礎分野 栄養学 第13版（医学書院） ・ はじめての食品成分表 第2版（女子栄養大学出版部） ・ 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版（文光堂） 						
備考	看護職として、対象の栄養状態をアセスメントしたり、食生活に関する相談や指導を行ったりするためには、栄養学の知識が不可欠である。栄養学に関する基礎的知識や技術を習得するだけでなく、自身の食生活を振り返り、健康な生活を送るために必要な栄養について考える機会としてほしい。						

微生物学

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 微生物の種類とその性質について理解できる。 2. 病原微生物が生体に及ぼす影響について理解できる。 3. 細菌培養実験を通して微生物学の知識を理解するとともに、感染症や感染防止対策への意識を高めることができる。						
学習概要	1. 微生物学の概念と変遷 2. 微生物の生化学・分子生物学の基礎 3. 微生物の構造と機能 4. 細菌学 5. ウイルス学 6. 真菌学 7. 原虫学 8. 感染と免疫 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染とは 2) 感染の伝播、感染症伝播の要因 3) 感染をめぐる微生物と宿主の反応 4) 免疫反応の特徴、免疫応答の概要 5) 抗体および感作リンパ球による反応の発現 9. 滅菌と消毒 <ol style="list-style-type: none"> 1) 滅菌と消毒の違い 2) 滅菌と消毒の方法 3) 消毒剤 10. 化学療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 化学療法の概念と歴史 2) 望ましい化学療法剤の条件 3) 作用のメカニズム 4) 主な化学療法剤の特徴 5) 薬剤耐性菌 6) 副作用 11. 感染症の予防 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染源対策 2) 感染経路対策 3) 感染症に対する行政的対応 4) 予防接種 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">※ 細菌培養実験を含む</div>						
使用教材	・ビジュアル微生物学 第2版（ヌーヴェルヒロカワ）						
備考	看護の対象を感染から守るためには、微生物学の基礎的知識が必要である。微生物学の講義を通して感染予防に必要な知識を習得するだけでなく、自身の環境や生活習慣を振り返る機会としてほしい。感染症や感染防止対策への意識を高め、自ら考えて予防行動が行えるようになることを期待する。						

薬理学

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義	評価		別紙参照	
学習目標	1. 薬理学の基礎知識について理解できる。 2. 主な薬物の作用機序およびその影響、投与経路について理解できる。 3. 薬物の基本的な取り扱いと管理の仕方について理解できる。						
学習概要	1. 薬理学の基礎知識 1) 薬が作用するしくみ（薬力学） 2) 薬の体内挙動（薬物動態学） 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 薬理作用と副作用 6) 薬と法律 2. 薬理学各論 1) 抗感染症薬（抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗寄生虫薬） 2) 抗がん薬 3) 免疫治療薬（免疫抑制薬、免疫増強薬、予防接種薬） 4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5) 末梢での神経活動に作用する薬物（自律神経作用薬、交感神経作用薬等） 6) 中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、抗不安薬、抗うつ薬等） 7) 循環器系に作用する薬物（降圧薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬等） 8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9) 物質代謝に作用する薬物（糖尿病治療薬、ホルモンとホルモン拮抗薬、ビタミン剤） 10) 皮膚科用薬・眼科用薬 11) 救急の際に使用する薬物 12) 漢方薬 13) 消毒薬						
使用教材	・系統看護学講座：専門基礎分野 薬理学 第15版（医学書院）						
備考	医療現場において患者と接する時間や機会が多い看護職には、薬物の作用や副作用、投与時の注意点等を十分に理解して薬物の作用を十分に引き出すとともに、医療事故の防止に寄与することが求められている。対象が安全に治療を受けることができるよう薬理学の知識をしっかりと身につけてほしい。						

病理学

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義	評価		別紙参照	
学習目標	1. 人体における病的現象の成因、発生機序、経過について理解できる。						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の領域 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病理学の概要 2) 疾病の概要、疾病の要因（内因・外因） 2. 細胞・組織とその障害、再生と修復 <ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞障害（萎縮、変性、肥大、壊死とアポトーシス） 2) 再生と修復（化生、創傷治癒と肉芽組織、肥大と過形成） 3. 循環障害 <ol style="list-style-type: none"> 1) 充血とうっ血、出血 2) 血液凝固と血栓症、塞栓症、虚血と梗塞 3) 浮腫 4. 炎症 <ol style="list-style-type: none"> 1) 炎症の基本病変 2) 急性炎症・慢性炎症のしくみ、炎症の全身への影響 5. 免疫とアレルギー <ol style="list-style-type: none"> 1) アレルギー 2) 自己免疫疾患、免疫不全症 6. 感染症 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症の基礎知識（感染様式、感染経路、潜伏期間、感染防御能） 2) ヒトの生体に共生する微生物、病原微生物の種類とその特徴 3) 感染の予防と制御 7. 代謝異常 <ol style="list-style-type: none"> 1) 代謝異常と動脈硬化 2) 脂質代謝異常、糖質代謝異常、タンパク質代謝異常、核酸代謝異常 8. 老化と老年病 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化のしくみ 2) 諸臓器の老化と病気、老年病、老年症候群 9. 先天異常 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天異常の原因・要因 2) 主な先天異常 10. 腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腫瘍の分類、腫瘍の形態、腫瘍の発生と発育、悪性腫瘍の進展と転移 2) 腫瘍の原因と発生のメカニズム 11. 生命の危機（ショックの臨床症状と対応方針、死の徴候） 						
使用教材	・カラーで学べる病理学 第5版（ヌーヴェルヒロカワ）						
備考	病理学は、疾病の原因やその成り立ちを理解するために必要な科目であり、後に学ぶ疾病論や病態生理学を理解していくためには病理学の知識が基盤となる。病理学では専門用語が多く出てくるが、その一つ一つの内容や意味を確認しながら、丁寧に学習を進めてほしい。						

病態生理学

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 疾病の症状や徴候が起こるメカニズムについて理解できる。 2. 症状が人体に及ぼす影響について理解できる。						
学習概要	1. 病態生理学を学ぶための基礎知識 1) 正常と病気の状態、正常性をゆがめる要因 2) 循環障害、細胞・組織の障害、感染症、腫瘍、先天異常と遺伝子異常、老化と死 2. 免疫のしくみと病態生理 1) 免疫のしくみ 2) 免疫反応の低下、免疫反応の過剰 3. 体液調節のしくみと病態生理 1) 体液・電解質の調節とその異常 2) 酸・塩基平衡のしくみとその異常 4. 血液のはたらきと病態生理 5. 循環のしくみと病態生理 1) 心臓のポンプ機能と病態生理 2) 血圧調節と末梢循環のしくみと病態生理 6. 呼吸のしくみと病態生理 1) 呼吸器のしくみ 2) 呼吸器の障害（換気、ガスの拡散、肺循環、呼吸調節の障害） 7. 消化・吸収のしくみと病態生理 1) 消化管のしくみとその障害（咀嚼・嚥下の障害、消化・吸収の障害） 2) 肝臓・胆嚢・膵臓のしくみとその障害 3) 腹膜腔・腹膜・腸間膜のしくみとその障害 8. 腎・泌尿器のしくみと病態生理 9. 内分泌・代謝のしくみと病態生理 10. 生殖のしくみと病態生理 11. 脳・神経、筋肉のはたらきと病態生理 1) 脳循環のしくみとその障害 2) 髄膜・髄液のはたらきとその障害 3) 意識と認知の障害 4) 運動制御、筋収縮のしくみとその障害 12. 感覚器のはたらきと病態生理						
使用教材	・系統看護学講座：専門基礎分野 病態生理学 第2版（医学書院）						
備考	科学的根拠に基づいた看護を実践していくためには、疾病の成り立ちや症状の発生機序等を理解しておく必要がある。解剖生理学や生化学、病理学等、これまで学んできた知識を活用しながら病態生理学を学んでほしい。						

疾病論 I

－ 疾病論総論 呼吸器疾患 －

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 疾病の診断や治療に関する基礎知識について理解できる。 2. 呼吸器疾患の病態と診断・治療について理解できる。						
学習概要	疾病論総論 6時間（3回）	1. 疾病論総論 1) 疾病の診断の基本と方法 医療面接、身体診察、検体検査、生体機能検査、画像検査、内視鏡検査 2) 疾病に対する治療 薬物療法、手術、麻酔、放射線治療、輸血、リハビリテーション、食事療法、臓器移植、再生医療、人工臓器・透析、緩和医療					
	呼吸器内科 10時間（5回） 呼吸器外科 8時間（4回）	2. 呼吸器疾患 1) 呼吸器の構造と機能 2) 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患（気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎） 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 肺循環障害（肺高血圧症、肺血栓塞栓症） 肺結核 気胸 腫瘍（肺癌、中皮腫）					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：別巻 臨床検査 第8版（医学書院） ・系統看護学講座：別巻 臨床外科看護総論 第11版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 呼吸器 第15版（医学書院） 						

疾病論Ⅱ

－ 循環器疾患 血液・造血器疾患 －

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 循環器疾患の病態と診断・治療について理解できる。 2. 血液・造血器疾患の病態と診断・治療について理解できる。						
学習概要	循環器内科 10時間（5回） 循環器外科 8時間（4回）	1. 循環器疾患 1) 循環器の構造と機能 2) 心臓の疾患の病態と診断・治療 先天性心疾患（心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症） 虚血性心疾患（狭心症、急性冠症候群） 心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症） 心不全（急性心不全、慢性心不全） 心タンポナーデ 不整脈（上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈） 炎症性疾患（感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎） 弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患） 3) 血管系の疾患の病態と診断・治療 大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、静脈瘤 4) 血圧異常の病態と診断・治療 動脈硬化症、本態性高血圧、二次性高血圧、起立性低血圧 5) ショックの病態と診断・治療					
	血液内科 6時間（3回）	2. 血液・造血器疾患 1) 血液・造血器の構造と機能 2) 血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髓異形成症候群、二次性貧血） 白血球減少症 出血性疾患（播種性血管内凝固症候群、血小板減少性紫斑病） 腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 循環器 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 血液・造血器 第15版（医学書院） 						

疾病論Ⅲ

－ 消化器疾患 －

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 消化器疾患の病態と診断・治療について理解できる。						
学習概要	消化器内科 12時間（6回） 消化器外科 12時間（6回）	1. 消化器疾患 1) 消化器の構造と機能 2) 上部消化管の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患（胃食道逆流症、急性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症） 潰瘍性疾患（胃潰瘍、十二指腸潰瘍） 腫瘍（食道がん、胃がん） 3) 下部消化管の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻） 腸閉塞症 腫瘍（腸管ポリープおよびポリポース、大腸がん） 排便障害（便秘、下痢） 4) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療 炎症性疾患（肝炎、急性胆嚢炎および胆管炎、膵炎） 肝硬変症 腫瘍（肝がん、胆管がん、胆嚢がん、膵臓がん） アルコール性肝障害、脂肪肝 胆石症 5) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療 腹膜炎、ヘルニア					
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 消化器 第15版（医学書院）						

疾病論Ⅳ

－ 内分泌・代謝疾患 脳・神経疾患（神経内科） －

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 内分泌・代謝疾患の病態と診断・治療について理解できる。 2. 脳・神経疾患（神経内科）の病態と診断・治療について理解できる。						
学習概要	内分泌・代謝内科 10時間（5回） 内分泌・代謝外科 6時間（3回）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌・代謝器官の構造と機能 2) 内分泌系の疾患の病態と診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> 視床下部－下垂体疾患 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎） 副甲状腺疾患 副腎疾患 腫瘍（下垂体腫瘍、甲状腺腫瘍、多発性内分泌腫瘍症） 3) 代謝異常の疾患の病態と診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> 肥満症とメタボリックシンドローム 糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症、痛風 4) 乳腺の疾患の病態と診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> 乳腺良性腫瘍性疾患、乳がん 					
	神経内科 8時間（4回）	<ol style="list-style-type: none"> 2. 脳・神経疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳・神経の構造と機能 2) 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> 変性疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症） 脱髄疾患（多発性硬化症） 感染症（脳炎、脊髄炎） 機能性疾患（てんかん） 3) 末梢神経系の疾患の病態と診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> ギラン・バレー症候群 単ニューロパチー 顔面神経麻痺 自律神経失調症 4) 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> 筋ジストロフィー 重症筋無力症 					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 内分泌・代謝 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 女性生殖器 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 脳・神経 第15版（医学書院） 						

疾病論V

－ 脳・神経疾患（脳神経外科） 運動器疾患 －

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 脳・神経疾患（脳神経外科）の病態と診断・治療について理解できる。 2. 運動器疾患の病態と診断・治療について理解できる。						
学習概要	脳神経外科 12時間（6回）	1. 脳・神経疾患 1) 脳・神経の構造と機能 2) 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療 脳血管障害（脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、もやもや病） 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 脳腫瘍 頭部外傷 脳脊髄液（髄液）の異常					
	整形外科 12時間（6回）	2. 運動器疾患 1) 運動器の構造と機能 2) 運動器の疾患の病態と診断・治療 外傷性の運動疾患（骨折、脱臼、捻挫） 骨粗鬆症 骨腫瘍および軟部腫瘍 変形性関節症 腰痛症（腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア） 骨・関節の炎症性疾患（骨・骨髄炎、関節炎） 脊髄損傷					
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 脳・神経 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 運動器 第15版（医学書院）						

疾病論VI

－ 腎・泌尿器疾患 婦人科疾患 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患 －

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師		
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照		
学習目標	1. 腎・泌尿器疾患の病態と診断・治療について理解できる。 2. 婦人科疾患の病態と診断・治療について理解できる。 3. 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患の病態と診断・治療について理解できる。							
学習概要	腎臓内科 6時間 (3回) 泌尿器科 8時間 (4回)	1. 腎・泌尿器疾患 1) 腎・泌尿器の構造と機能 2) 腎・泌尿器の疾患の病態と診断・治療 慢性腎臓病、糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害 尿路・性器の感染症 (腎盂腎炎、膀胱炎) 腫瘍 (腎がん、尿管がん、膀胱がん) 尿路結石症 排泄障害 (過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症) 腎不全とAKI・CKD 3) 男性生殖器の疾患の病態と診断・治療 前立腺炎、前立腺肥大症 腫瘍 (前立腺がん) 精巣および性機能障害						
	婦人科 6時間 (3回)	2. 婦人科疾患 1) 女性生殖器の構造と機能 2) 女性生殖器の疾患の病態と診断・治療 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣の良性腫瘍 腫瘍 (子宮頸がん、子宮体がん、卵巣の悪性腫瘍) 生殖機能障害 (月経異常、月経随伴症状、更年期障害)						
	膠原病・リウマチ・ アレルギー内科 4時間 (2回)	3. 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患 1) 免疫のしくみとアレルギー 2) 自己免疫疾患の病態と診断・治療 全身性エリテマトーデス 関節リウマチ シェーグレン症候群 3) アレルギー性疾患の病態と診断・治療 花粉症 (アレルギー性鼻炎・結膜炎) アナフィラキシー						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 腎・泌尿器 第15版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 女性生殖器 第15版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 第15版 (医学書院) 							

疾病論Ⅶ

－ 感覚器疾患 小児疾患(小児外科) －

単位数	1単位	時期	3年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 感覚器疾患の病態と診断・治療について理解できる。 2. 小児疾患（小児外科）の病態と診断・治療について理解できる。						
学習概要	皮膚科 4時間（2回）	1. 皮膚疾患 1) 皮膚の構造と機能 2) 皮膚疾患の病態と診断・治療 湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎 腫瘍および色素異常症					
	眼科 4時間（2回）	2. 眼疾患 1) 眼の構造と機能 2) 眼疾患の病態と診断・治療 白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症					
	耳鼻咽喉科 4時間（2回）	3. 耳鼻咽喉疾患 1) 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2) 耳鼻咽喉疾患の病態と診断・治療 難聴、メニエール病、嗅覚障害、味覚障害、咽頭炎、扁桃炎、腫瘍（咽頭がん）					
	歯科口腔外科 4時間（2回）	4. 歯・口腔疾患 1) 歯・口腔の構造と機能 2) 歯・口腔疾患の病態と診断・治療 う歯、歯周病、口腔内の腫瘍（舌がん等）					
	小児外科 8時間（4回）	5. 小児疾患（小児外科） 1) 小児外科疾患の病態と診断・治療 先天性食道閉鎖症、先天性胆道閉鎖症、ヒルシュスプルング病、二分脊椎、鼠径ヘルニア 悪性腫瘍（神経芽腫、ウィルムス腫瘍）					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 皮膚 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 眼 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 耳鼻咽喉 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 歯・口腔 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 小児臨床看護各論 第14版（医学書院） 						

専門基礎分野

－ 健康支援と社会保障制度 －

【 目的 】

看護職として人々の健康や障がいの状態に応じて必要な社会資源が活用できるように支援していくため、健康支援と社会保障の基盤となる知識を習得する。また、地域包括ケアシステムにおいて看護職としての役割が發揮できるよう、看護職および他職種の役割の理解や多職種との連携・協働について学ぶことを目的とする。

【 専門基礎分野（健康支援と社会保障制度）の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
健康支援と 社会保障制度	保健医療論	1	25	1年次	前期
	健康と社会・生活	1	25	1年次	後期
	公衆衛生学	1	25	2年次	前期
	社会保障と社会福祉Ⅰ	1	25	2年次	後期
	社会保障と社会福祉Ⅱ	1	25	3年次	前期・後期
	看護をめぐる法と制度	1	25	3年次	前期・後期
合計		6	150		

保健医療論

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間が「生きることと死ぬこと」について考えることができる。 2. 保健・医療・介護に関する基本概念について理解できる。 3. 現代の医療にかかわる諸問題と今日的課題について考えることができる。 4. 医療と経済・政策とのかかわりについて知ることができる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生きることと死ぬこと <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命を尊ぶ心 2) 健やかに生きる 3) 老いてこそ人生 4) おだやかに死ぬことー終末期を考える 2. 医学と医療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 温故知新ー医学の歴史に学ぶ 2) 臨床疫学とEBM 3. 保健・医療・介護ー切れ目のないサポートの実現 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 2) 社会保障制度 3) 公衆衛生と保健 4) わが国の医療システム 5) 救急医療・集中医療 6) がん治療 7) チーム医療、他職種との役割、多職種との連携・協働 8) リハビリテーション 9) 介護 4. 医療と社会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医の倫理 2) 医療安全 3) 医薬品 4) 最先端医療 5) 医療情報 5. 医療経済学と医療政策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療サービスの特殊性 2) 公的医療保険がなぜ必要か 3) 医療の質評価と情報公開 4) 転換を迫られる医療政策 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門基礎分野 医療概論 第1版（医学書院） 						
備考	<p>看護職として対象の健康上のニーズに対応していくためには、保健・医療・介護に関する基本概念や現代の医療が抱えている諸問題を理解しておく必要がある。将来医療に携わる者としての心構えを身につけていくためにも、医療にかかわる話題に日頃から興味・関心を寄せてほしい。</p>						

健康と社会・生活

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 社会生活を視点とした個人・家族・地域社会の機能や変化について理解できる。 2. 社会的な健康に関する概念について理解できる。						
学習概要	1. 看護と生活・社会とのかかわり 1) 健康・社会を念頭に置いたしくみの再構築 2) 看護が対象とする人々の生活と社会 2. 社会 1) 「社会」の意味 2) 社会の成り立ち：個人－集団－社会 3) 現代社会の特徴と社会変動 3. 個人の生活の理解 1) 日常生活と日常性 2) 日常生活と健康問題 3) 多面的な日常生活のとらえ方 4) 対象者の生活の理解と把握 5) 保健医療専門職の生活をとらえる姿勢 6) 生活の諸相と生活の理論 7) ライフスタイル・生活様式と保健・医療・看護 8) 保健・医療・看護とQOL 4. 家族の機能やライフスタイルの変化 1) 家族の機能（夫婦、親子、育児、介護、家事） 2) ライフスタイルの変化（雇用形態、女性の労働、少子化、晩婚化、晩産化、地域活動への参加、家族観の多様化） 5. 社会的な健康 1) 社会的な健康：ソーシャルキャピタル 2) 安全・安寧が保証される社会 3) ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 6. 地域社会 1) 人々の地域社会とのかかわり（ソーシャルサポートネットワーク） 2) 地域集団（コミュニティ・グループ）の諸相 3) コミュニティ形成とその諸課題 7. 科学からとらえた健康行動 1) 行動科学と行動、行動の成立と変化のメカニズム 2) 段階的行動変容モデル 3) 集団の中での人の行動特性						
使用教材	・ナーシング・グラフィカ：健康支援と社会保障(1) 健康と社会・生活 第4版（メディカ出版）						
備考	看護の対象である人間の多様性・複雑性に対応できるよう、日頃から人間の健康と社会・生活に興味・関心を寄せ、多角的な視点で物事を考える機会としてほしい。人間の健康と生活・社会について学び、看護の対象を生活者として捉える力を養ってほしい。						

公衆衛生学

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 公衆衛生に関する概念や疫学的方法、公衆衛生活動について理解できる。 2. 公衆衛生学の視点から、人間が健康な生活を営むための環境、人間と社会とのかかわりについて考えることができる。						
学習概要	1. 公衆衛生の理念と概念 1) 公衆衛生とは何か、公衆衛生の歴史、公衆衛生を学ぶ意義 2) 公衆衛生システムと政策 3) プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション 4) ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ 2. 公衆衛生活動における疫学 1) 集団の見方と健康指標 2) 研究の方法（観察研究と介入研究、記述疫学、分析疫学） 3) リスクファクター、スクリーニング 4) 統計情報の収集と見方 3. 公衆衛生活動のプロセス 1) 保健師の活動の特徴 2) 家庭訪問、健康診査・検診、健康教育、健康相談の意義と活用 3) グループ組織活動の意義と活用、地域診断（地区診断）の意義と活用 4. 健康に関する指標に基づく公衆衛生 1) 日本の健康問題の現状と課題 2) 健康づくり対策 5. 公衆衛生における生活環境と問題への対策 1) 地球環境（地球温暖化、オゾン層破壊、大気汚染、水質汚染、土壌汚染） 2) 食品保健、ごみ・廃棄物、居住環境 6. 公衆衛生における感染症と対策 1) 感染症の基本 2) 主な感染症の特徴と近年の動向 7. 母子保健 8. 学校保健 9. 精神保健 10. 産業保健 11. 難病対策 12. 高齢者保健医療福祉 13. 国際保健						
使用教材	・ナーシング・グラフィカ：健康支援と社会保障(2) 公衆衛生 第5版（メディカ出版）						
備考	看護職には、多様な場において多様な対象に看護を実践する力が求められる。公衆衛生学を通して「個」だけでなく「集団」「社会」から、看護の対象である人間や人々の健康を捉える視点を養ってほしい。						

社会保障と社会福祉 I

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 社会保障・社会福祉の概念や歴史、制度の概要について理解できる。 2. 現代の社会保障・社会福祉をめぐる課題について考えることができる。						
学習概要	1. なぜ社会保障や社会福祉を学ぶのか 1) 社会保障や社会福祉を学ぶ意義 2) 今後の日本の課題 2. 現代社会と社会保障・社会福祉 1) 生活上の自己と社会保障・社会福祉 2) 「社会の制度」としての社会保障・社会福祉の分類 3) 社会福祉サービスへのニーズの拡がり地域包括ケアシステム 3. 暮らしと社会保障・社会福祉 1) 社会保障・社会福祉とは何か 2) 社会保障・社会福祉の歴史 3) 社会保障をめぐる新たな課題 4. 社会福祉のしくみと社会資源 1) 社会福祉サービスの体系と提供組織 2) 社会福祉の担い手と役割 3) 社会福祉と看護の連携 4) 社会資源の活用方法 5) 社会福祉実践 5. 地域福祉の推進 1) 地域福祉の定義と理念 2) 地域福祉計画 3) 地域共生社会への取り組み 4) 社会福祉協議会 5) 地域福祉推進の財源 6) 保健・医療と福祉の連携						
使用教材	・ナーシング・グラフィカ：健康支援と社会保障(3) 社会福祉と社会保障 第5版(メディカ出版)						
備考	社会保障制度とは、生活の安定化をはかるとともに国民の最低生活を保障する制度である。社会福祉の制度とは、社会的な援護を要する者が自立した生活を送れるよう生活面で支援を行うものである。社会に関心を寄せながら、人々がより良く生きるために必要な制度や支援について学んでほしい。						

社会保障と社会福祉Ⅱ

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 社会保障・社会福祉に関する各制度の概要やサービス提供体制について理解できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける他職種の役割を知り、多職種との連携・協働について考えることができる。						
学習概要	1. 子ども・家庭の福祉 1) 子ども・家庭福祉の理念と目的 2) 子ども・家庭福祉の実施体制 3) 子育て支援・少子化対策に関する施策 4) 児童虐待に関する施策 5) 母子保健に関する施策 2. 障害児・者の福祉 1) 障害者福祉制度 2) 障害者総合支援法の概要、サービス体系 3) 児童福祉法によるサービス提供 4) 相談支援 5) 自立支援医療 6) 補装具費の支給 7) 障害者雇用および支援 3. 高齢者の福祉 1) 高齢者保健福祉施策の社会的背景 2) 高齢者保健福祉施策の目的と理念、経緯 3) 現在の老人福祉法による高齢者支援 4) 地域における高齢者保健福祉の課題 5) 高齢者の権利擁護と虐待防止 4. 生活保護 1) 公的扶助制度 2) 生活保護における生活保障 3) 生活困窮者対策と生活保護制度の見直し 5. 社会保険制度 1) 年金制度 2) 医療保険制度 3) 介護保険制度 4) 雇用保険制度 5) 労災保険制度 6. 生活と福祉						
使用教材	・ナーシング・グラフィカ：健康支援と社会保障(3) 社会福祉と社会保障 第5版（メディカ出版）						
備考	地域包括ケアシステムにおいて看護職としての役割が発揮できるための基礎的能力が養えるよう、社会保障と社会福祉の内容を充実させた。社会保障・社会福祉に関する制度やサービス提供体制を学ぶとともに、地域包括ケアシステムの中で看護職としてできることについて考える機会としてほしい。						

看護をめぐる法と制度

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護をめぐる法と制度に関する基礎知識について理解できる。 2. 看護職に関する法、医療・社会福祉関連職に関する法について学習し、多職種との協働・連携について考えることができる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療と法の構造 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療スタッフに関する法の枠組み 2) 医療スタッフの業務分担と連携に関する法の枠組み 2. 医療提供の理念と医療安全：医療法での扱い <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法の歩み、医療提供の理念 2) 医療法の理念と実際 3. 看護をめぐる法：人に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療専門職（保健師助産師看護師法、看護師等人材確保の促進に関する法律） 2) 福祉専門職（精神保健福祉士法、社会福祉士および介護福祉士法） 3) 非医療・非福祉専門職（栄養士法） 4. 看護をめぐる法：物・場所等に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) 物に関する法律（医療品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律、麻薬及び向精神薬取締法） 2) 場所に関する法律（医療法、感染症法、予防接種法、健康増進法） 5. 看護をめぐる法：支えるシステムに関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) お金とサービスに関する法律（健康保険法、国民健康保険法、介護保険法） 2) 特別な配慮を必要とする人に関する法律（生活保護法、母体保護法） 6. 看護をめぐる法：政策にかかわる基本法等の関連法令 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療政策に関する法律（地域保健法、がん対策基本法） 2) 福祉政策に関する法律（自殺対策基本法、障害者基本法） 3) 災害政策に関する法律（災害対策基本法、災害救助法） 4) 情報政策に関する法律（個人情報保護法） 5) 食品安全政策に関する法律（食品衛生法、食品安全基本法） 6) 人口政策に関する法律（高齢社会対策基本法、少子化社会対策基本法） 7) 社会的弱者政策に関する法律（成年後見制度の利用の促進に関する法律） 8) 労働政策に関する法律（労働基準法、労働安全衛生法） 9) 女性政策に関する法律（男女共同参画社会基本法） 10) 環境政策に関する法律 7. 法制度を取り巻く考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) インフォームド・コンセント 2) 看護過誤（医療過誤） 3) 法と生命倫理 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ：健康支援と社会保障(4) 看護をめぐる法と制度 第3版（メディカ出版） 						
備考	<p>医療に携わる人の資格や役割は法や制度によって規定されており、看護職として人々の健康を守り、職責を正しく遂行していくためには、看護にかかわる法と制度の理解が必要である。単に知識として学ぶだけではなく、自身の経験や日常生活、社会で起こる出来事と関連させながら理解してほしい。</p>						

専門分野

— 基礎看護学 —

【 目的 】

看護の対象である人間を統合的に捉え、看護を実践していくための基礎となる知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 看護における人間・環境・健康・看護の概念や看護理論、看護の位置づけや看護職の役割等、看護の基盤となる基礎的知識を習得できる。
2. 看護の対象を理解するための考え方や基礎看護技術の目的・方法等を習得できる。
3. 対象の経過に合わせて看護を実践するための基礎的知識を習得できる。
4. 健康問題を持つ対象に応じて看護を実践するための基礎的知識や技術を習得できる。
5. 看護職として必要な基本的態度を身につけることができる。
6. 臨地実習を通して、看護を実践していくための基礎的知識・技術・態度を習得できる。

【 基礎看護学の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
講義・演習 12単位 (300時間)	看護学概論	1	25	1年次	前期
	基礎看護技術Ⅰ	1	25	1年次	前期
	基礎看護技術Ⅱ	1	25	1年次	前期
	基礎看護技術Ⅲ	1	25	1年次	前期・後期
	基礎看護技術Ⅳ	1	25	1年次	前期・後期
	基礎看護技術Ⅴ	1	25	1年次	後期
	基礎看護技術Ⅵ	1	25	1年次	後期
	基礎看護技術Ⅶ	1	25	1年次	後期
	臨床看護総論	1	25	2年次	前期
	臨床看護技術Ⅰ	1	25	2年次	前期・後期
	臨床看護技術Ⅱ	1	25	2年次	後期
	臨床看護技術Ⅲ	1	25	2年次	後期
臨地実習 5単位 (175時間)	基礎看護学実習Ⅰ	1	35	1年次	前期
	基礎看護学実習Ⅱ	1	35	1年次	前期
	基礎看護学実習Ⅲ	1	35	1年次	後期
	基礎看護学実習Ⅳ	2	70	2年次	前期
合計		17	475		

看護学概論

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における人間・環境・健康・看護の概念や看護理論、看護の位置づけや看護職の役割等、看護の基盤となる基礎的知識について理解できる。 2. 看護学の基盤となる知識について学び、看護について自己の考えを表現できる。 3. 看護職の役割について学び、多職種と連携・協働していくために必要な自己の課題について考えることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の哲学 2. 看護の歴史 3. 看護実践に必要な諸概念の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間 2) 環境（社会） 3) 健康 4) 看護 4. 看護理論の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の発達背景 2) 看護概念と看護理論 3) 看護の諸理論 4) 看護理論の実践への活用 5. 看護過程と看護診断 6. 看護実践と看護活動の場 <ol style="list-style-type: none"> 1) 質の高い看護実践（技術）の原則 2) 質の高い看護を実践するためのマネジメント 3) 保健医療システム 4) 保健医療福祉サービスの場、保健医療福祉チームと職種の役割 7. 看護と法律 8. 看護と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護における倫理と原則 2) 看護実践における倫理的問題と倫理的課題への対応 9. 看護職としての看護と教育 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職 2) 看護教育 3) 看護専門職団体の役割 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ NURSING TEXTBOOK SERIES 看護学概論 第5版（医歯薬出版） ・ 看護覚え書き 新装版（日本看護協会出版会） ・ 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） ・ 看護職の基本的責務 2022年版（日本看護協会出版会） 				
備考	<p>看護学概論では、これから学んでいく看護学の基盤となる概念や看護の考え方、看護職の役割等について学習する。看護学概論を通して、自分はどうのような看護職を目指したいか、どのようなことを大切にして看護を実践していきたいかについて考える機会としてほしい。</p>				

基礎看護技術 I

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 看護技術の特徴や範囲、看護技術を実践するための要素（安全・安楽・自立等）について理解できる。 2. 看護におけるコミュニケーションに関する基礎的知識や技術を習得できる。 3. 感染予防に関する基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	看護技術の概念 8時間（4回）	1. 看護技術を学ぶにあたって 1) 技術とはなにか 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素（安全、安楽、自立等） 5) 看護技術の発展と修得のために 2. 看護技術の根底をなすもの：適切な技術習得のために 1) 看護技術の基盤 2) 的確な看護判断と適切な看護技術の提供			
	コミュニケーション① 8時間（4回）	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 効果的なコミュニケーションの実際 ※ 演習			
	感染予防技術 8時間（4回）	1. 感染とその予防の基礎知識 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） ※ 演習 3. 感染経路別予防策 4. 感染性廃棄物の取り扱い			
看護技術の卒業時の到達度 <small>到達レベル ※1参照</small>	【 感染予防技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	スタンダードプリコーションに基づく手洗い			I	I
	必要な防護用具（手袋・ゴーグル・ガウン等）選択・着脱			I	I
感染性廃棄物の取り扱い			I	II	
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術 I 第18版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術 II 第18版（医学書院）				
備考	基礎看護技術 I には、看護技術の概念、コミュニケーション、感染予防技術の内容を含めた。基礎看護技術を学ぶ出発点となる科目であるため、ここでの学びを各看護技術の習得に活かしてほしい。学生には、対象に看護技術を実践する経験を通して、看護技術の理解を深めていくことを期待する。				

※1：卒業時の到達レベル（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度より引用）

演習	I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる
	II	モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる
実習	I	単独で実施できる
	II	指導の下で実施できる
	III	実施が困難な場合は見学する

基礎看護技術Ⅱ

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 環境調整技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。 2. 活動・休息援助技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	環境調整技術 14時間（7回）	1. 環境調整援助の基礎知識 1) 療養生活の環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整 2. 環境調整援助の実際 1) ベッド周囲の環境整備 ※ 演習 2) 病床を整える ※ 演習			
	活動・休息援助技術 10時間（5回）	1. 基本的活動の援助 1) 基本的活動の基礎知識 2) 体位 3) 移動（体位変換・歩行・移乗・移送） ※ 演習 2. 睡眠・休息の援助 ※ 演習 1) 援助の基礎知識 2) 睡眠・休息の援助 3. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 体位保持（ポジショニング） 2) 身体ケアを通じてもたらされる安楽			
看護技術の 卒業時の到達度 <small>到達レベル P46 ※1参照</small>	【 環境調整技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	快適な療養環境の整備			I	I
	臥床患者のリネン交換			I	II
	【 活動・休息援助技術／安楽確保の技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	体位変換・保持			I	I
	安楽な体位の調整			I	II
	自動・他動運動の援助			I	II
	歩行・移動介助			I	I
移乗介助			I	II	
車椅子での移送			I	I	
ストレッチャー移送			I	II	
安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア			I	II	
精神的安寧を保つためのケア			I	II	
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院）				
備考	基礎看護技術Ⅱには、環境調整技術と活動・休息援助技術（安楽確保の技術を含む）の内容を含めた。身の回りの生活環境や身体の動かし方等、自身の状況と結び付けながら学んでいくと看護技術の習得がしやすくなる。自分が日頃何気なく行っていることに意識を向けながら学んでほしい。				

基礎看護技術Ⅲ

単位数	1単位	時期	1年次 前・後期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. ヘルスアセスメントに関する基礎的知識や技術を習得できる。 2. 食事援助技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	ヘルスアセスメント① 14時間（7回）	1. ヘルスアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントがもつ意味 2) ヘルスアセスメントにおける観察 3) ヘルスアセスメントにおける重要な視点 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント ※ 演習 1) 問診（面接）の技術 2) 健康歴聴取の目的、実際 3) セルフケア能力のアセスメント 4) 情報の整理 3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 ※ 演習 2) 全身状態・全体印象の把握 3) バイタルサインの観察とアセスメント ※ 演習 4) 計測 ※ 演習			
	食事援助技術 10時間（5回）	1. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態、摂食能力、食欲、食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 2. 食事摂取の介助の基礎知識・援助の実際 ※ 演習 3. 摂食・嚥下訓練の基礎知識・援助の実際 4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 ※ 演習 2) 中心静脈栄養法			
看護技術の 卒業時の到達度 <small>到達レベル P46 ※1参照</small>	【 症状・生体機能管理技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	バイタルサインの測定			I	I
	身体計測			I	I
	フィジカルアセスメント			I	II
	【 食事の援助技術 】				
技術の種類			演習	実習	
食事介助（嚥下障害のある患者を除く）			I	I	
経鼻胃チューブの挿入			I	III	
経管栄養法による流動食の注入			I	II	
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅰ 第18版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院） ・新訂版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス（インターメディカ）				
備考	基礎看護技術Ⅲにはヘルスアセスメントの基本となる知識や技術、食事援助技術の内容を含めた。解剖生理学の知識と関連させながら学ぶとともに、生きる源である食の意義についても考えてほしい。				

基礎看護技術Ⅳ

単位数	1単位	時期	1年次 前・後期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 清潔・衣生活援助技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	清潔・衣生活援助技術 25時間（12回）	1. 清潔の援助 1) 清潔の援助の基礎知識 2) 清潔の援助の実際 入浴・シャワー浴、洗髪 ※ 演習 全身清拭 ※ 演習 手浴、足浴とフットケア、陰部洗浄 ※ 演習 整容、口腔ケア ※ 演習 2. 病床での衣生活の援助 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 ※ 演習 病衣の選び方、病衣・寝衣の交換			
看護技術の 卒業時の到達度 <small>到達レベル P46 ※1参照</small>	【 清潔・衣生活援助技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	入浴・シャワー浴の介助			I	II
	洗髪			I	II
	清拭			I	II
	手浴・足浴			I	I
	陰部の保清			I	II
	整容			I	I
	口腔ケア			I	II
	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換			I	I
点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換			I	II	
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院）				
備考	基礎看護技術Ⅳでは、清潔・衣生活援助技術について学ぶ。人間は、更衣や整容、清潔に関する動作を毎日当たり前のように行っているが、そのことを自身で行えなくなった時、どのように感じるだろうか。演習での患者役の経験を通して、対象の立場になって看護を考える力を養ってほしい。				

基礎看護技術Ⅴ

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員																																																
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照																																																
学習目標	1. 感染予防・安全管理の技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。 2. 与薬の技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。																																																				
学習概要	感染予防・安全管理の技術 6時間（3回）	1. 感染予防の技術 1) 洗浄・消毒・滅菌 2) 無菌操作 ※ 演習 3) 針刺し防止策 4) 医療施設における感染管理 2. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 2) 看護の場面で起こりやすい事故とその防止策 ※ 演習																																																			
	与薬の技術 18時間（9回）	1. 与薬の基礎知識 2. 経口与薬・口腔内与薬の基礎知識・援助の実際 ※ 演習 3. 経皮的与薬・直腸内与薬の基礎知識・援助の実際 ※ 演習 4. 吸入、点眼、点鼻の基礎知識・援助の実際 5. 注射の基礎知識・援助の実際 ※ 演習 6. 輸血管理の基礎知識・援助の実際																																																			
看護技術の卒業時の到達度 <small>到達レベル P46 ※1参照</small>	<p>【 感染予防技術 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">技術の種類</th> <th style="text-align: center;">演習</th> <th style="text-align: center;">実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無菌操作</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>使用した器具の感染防止の取り扱い</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>針刺し事故の防止・事故後の対応</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">I</td> </tr> <tr> <td>患者の誤認防止策の実施</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">I</td> </tr> <tr> <td>安全な環境整備の技術（転倒・転落・外傷予防）</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>放射線の被爆防止策の実施</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">I</td> </tr> <tr> <td>人体へのリスクの大きい薬剤の曝露予防策の実施</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> </tbody> </table> <p>【 与薬の技術 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">技術の種類</th> <th style="text-align: center;">演習</th> <th style="text-align: center;">実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>皮下注射、筋肉内注射</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> <tr> <td>静脈路確保・点滴静脈内注射</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> <tr> <td>点滴静脈内注射の管理</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>経口薬の投与、坐薬の投与</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>経皮・外用薬の投与</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>薬剤等の管理、輸血の管理</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> </tbody> </table>					技術の種類	演習	実習	無菌操作	I	II	使用した器具の感染防止の取り扱い	I	II	針刺し事故の防止・事故後の対応	I	II	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I	患者の誤認防止策の実施	I	I	安全な環境整備の技術（転倒・転落・外傷予防）	I	II	放射線の被爆防止策の実施	I	I	人体へのリスクの大きい薬剤の曝露予防策の実施	II	III	技術の種類	演習	実習	皮下注射、筋肉内注射	II	III	静脈路確保・点滴静脈内注射	II	III	点滴静脈内注射の管理	II	II	経口薬の投与、坐薬の投与	II	II	経皮・外用薬の投与	I	II	薬剤等の管理、輸血の管理	II	III
技術の種類	演習	実習																																																			
無菌操作	I	II																																																			
使用した器具の感染防止の取り扱い	I	II																																																			
針刺し事故の防止・事故後の対応	I	II																																																			
インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I																																																			
患者の誤認防止策の実施	I	I																																																			
安全な環境整備の技術（転倒・転落・外傷予防）	I	II																																																			
放射線の被爆防止策の実施	I	I																																																			
人体へのリスクの大きい薬剤の曝露予防策の実施	II	III																																																			
技術の種類	演習	実習																																																			
皮下注射、筋肉内注射	II	III																																																			
静脈路確保・点滴静脈内注射	II	III																																																			
点滴静脈内注射の管理	II	II																																																			
経口薬の投与、坐薬の投与	II	II																																																			
経皮・外用薬の投与	I	II																																																			
薬剤等の管理、輸血の管理	II	III																																																			
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅰ 第18版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院）																																																				
備考	基礎看護技術Ⅴには、感染予防・安全管理の技術と与薬の技術の内容を含めた。看護職として倫理に基づいた行動を身につけ、対象に安全な看護技術を提供していく姿勢を養ってほしい。																																																				

基礎看護技術VI

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員																	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照																	
学習目標	1. 排泄援助技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。 2. 呼吸・循環を整える技術に関する基礎的知識や技術を習得できる。																					
学習概要	排泄援助技術 14時間（7回）	1. 自然排尿および自然排便の介助 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 2) 自然排尿および自然排便の介助の実際 ※ 演習 2. 導尿（一次的導尿） 1) 導尿の基礎知識 2) 導尿の援助の実際 ※ 演習 3. 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸の援助の基礎知識・援助の実際 ※ 演習																				
	呼吸・循環を整える技術 10時間（5回）	1. 吸入の基礎知識・援助の実際 ※ 演習 2. 酸素療法（酸素吸入療法） 1) 酸素療法の援助の基礎知識 2) 酸素療法の援助の実際 3. 排痰ケア 1) 排痰ケアの基礎知識 2) 援助の実際（体位ドレージ、ハフティング、吸引） ※ 演習 4. 体温管理の技術 1) 体温管理の援助の基礎知識 2) 体温管理の援助の実際（罨法） ※ 演習																				
看護技術の卒業時の到達度 到達レベル P46 ※1参照	【 排泄援助技術 】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">技術の種類</th> <th style="width: 15%;">演習</th> <th style="width: 15%;">実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床上排泄（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>導尿または膀胱留置カテーテルの挿入</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> <tr> <td>浣腸</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> </tbody> </table>					技術の種類	演習	実習	床上排泄（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	I	II	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	II	III	浣腸	I	III					
	技術の種類	演習	実習																			
床上排泄（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	I	II																				
導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	II	III																				
浣腸	I	III																				
【 呼吸・循環を整える技術 】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">技術の種類</th> <th style="width: 15%;">演習</th> <th style="width: 15%;">実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酸素吸入療法の実施</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>ネブライザーを用いた気道内加湿</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">II</td> </tr> <tr> <td>体位ドレナージ</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> <tr> <td>口腔内・鼻腔内吸引</td> <td style="text-align: center;">II</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> <tr> <td>体温調節の援助</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">I</td> </tr> </tbody> </table>					技術の種類	演習	実習	酸素吸入療法の実施	I	II	ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II	体位ドレナージ	I	III	口腔内・鼻腔内吸引	II	III	体温調節の援助	I	I
技術の種類	演習	実習																				
酸素吸入療法の実施	I	II																				
ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II																				
体位ドレナージ	I	III																				
口腔内・鼻腔内吸引	II	III																				
体温調節の援助	I	I																				
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院）																					
備考	基礎看護技術VIには、排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術の内容を含めた。呼吸や排泄といった人間が生きるうえで必要な行為ができなくなってしまうと、人間としての尊厳が脅かされてしまう。演習を通して、対象の立場になって考える力や相手への配慮ができる力を身につけてほしい。																					

基礎看護技術Ⅶ

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 看護過程を展開するための基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	看護過程展開の技術 ※ 観察の枠組みを含む 25時間（12回）	1. 看護過程とは 1) 看護過程の5つの構成要素 2) 5つの構成要素の関係性 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1) 問題解決過程と人間関係過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション 3. 看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 問題の明確化（看護診断） 3) 計画の立案 4) 実施 5) 評価 4. 看護記録 1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成 5. 看護過程の展開 ※ 事例展開			
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅰ 第18版（医学書院） ・Nursing Canvas Book2 看護過程の解体新書（学研メディカル秀潤社） ・看護診断ハンドブック 第11版（医学書院） ・看護過程に沿った対症看護 第5版（学研メディカル秀潤社） ・看護データブック 第5版（医学書院）				
備考	基礎看護技術Ⅶでは、看護過程を展開するための基礎的知識や技術について学ぶ。看護過程は、看護の対象である人間を理解するため、看護を科学的に実践するために必要である。看護過程を単に看護の問題解決技法として学ぶのではなく、改めて「看護とは何か」を考えながら学んでほしい。				

臨床看護総論

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当	学内教員 外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 家族看護に関する基礎的知識を習得できる。 2. 健康状態の経過に基づく看護に関する基礎的知識を習得できる。				
学習概要	家族看護 6時間（3回）	1. ライフサイクルから捉えた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 人のライフサイクルから捉えた看護 2) 健康上のニーズを持つ子どもと家族の看護 3) 健康上のニーズを持つ成人と家族の看護 4) 健康上のニーズを持つ高齢者と家族の看護 5) 健康上のニーズを持つ親になる人と家族の看護 2. 家族の機能から捉えた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 家族の理解 2) 家族の健康上のニーズ 3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ			
	経過別看護 18時間（9回）	1. 健康状態と看護 2. 健康の維持・増進を目指す看護 1) 健康の維持・増進を目指す看護の特徴 2) 健康の維持・増進を目指す人々のニーズと看護援助 3. 急性期における看護 1) 急性期の特徴 2) 急性期の患者のニーズと看護援助 4. 慢性期における看護 1) 慢性期の特徴 2) 慢性期の患者のニーズと看護援助 5. リハビリテーション期における看護 1) リハビリテーション期の特徴 2) リハビリテーション期の患者のニーズと看護援助 6. 終末期における看護 1) 終末期の特徴 2) 終末期の患者のニーズと看護援助 3) 死の看取りの援助			
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 臨床看護総論 第7版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版（医学書院）				
備考	臨床看護総論には、家族看護と経過別看護の内容を含めた。看護の対象は、個人だけでなく家族も含まれる。家族看護の基本となる知識を学び、各看護学で学ぶ家族看護の理解に役立ててほしい。また、健康状態の経過の特徴について学び、対象の経過に合わせて必要な看護を考える力を養ってほしい。				

臨床看護技術 I

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当	学内教員 外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 対象と良好な人間関係を構築していくために必要な基礎的知識や技術を習得できる。 2. コミュニケーション障害がある人への対応について理解できる。 3. 看護における学習支援の基礎的知識や技術を習得できる。 4. ヘルスアセスメントに関する基礎知識や技術を活用し、対象のアセスメントができる。				
学習概要	コミュニケーション② 8時間 (4回)	1. 対人関係援助に関する理論と実践 1) 対人関係援助に関する理論 2) プロセスレコード 3) プロセスレコードを活用した対人援助の振り返り ※ 演習 2. コミュニケーション障害への対応 1) コミュニケーションに障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応			
	学習支援 6時間 (3回)	1. 看護における学習支援 1) 学習支援の背景 2) 看護師の役割としての学習支援 3) 看護の学習支援技術の発展 2. 健康に生きることを支える学習支援 1) 学習支援の基本となる考え方 2) さまざまな場で行われる学習支援 (家庭・学校・職場等) 3) 健康状態の変化に伴う学習支援 (外来・入院時・退院時) 4) 学習支援の実際 ※ 演習			
	ヘルスアセスメント② 10時間 (5回)	1. ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2. 系統別フィジカルアセスメントの基礎知識と実際 ※ 演習 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 2) 循環器系のフィジカルアセスメント 3) 腹部のフィジカルアセスメント 4) 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 3. 心理・社会状態のアセスメント 1) 心理的側面のアセスメント 2) 社会的側面のアセスメント			
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術 I 第18版 (医学書院) ・新訂版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス (インターメディカ)				
備考	臨床看護技術 I～IIIでは、主に健康問題を持つ対象に看護を実践するための基礎的知識や技術について学ぶ。臨床看護技術 Iにはコミュニケーションや学習支援、ヘルスアセスメントの内容を含めた。基礎看護技術の内容や臨地実習での体験を想起しながら、知識や技術を身につけてほしい。				

臨床看護技術Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 化学療法を受ける対象者への看護に関する基礎的知識を習得できる。 2. 放射線療法を受ける対象者への看護に関する基礎的知識を習得できる。 3. 検査・処置を受ける対象者への看護に関する基礎的知識や技術を取得できる。				
学習概要	化学療法を受ける対象者への看護 4時間 (2回)	1. 化学療法の特徴 1) 化学療法の原理 2) 化学療法の目的、副作用 (有害反応) 3) 抗がん剤曝露からの防護 2. 化学療法を受ける患者・家族への看護援助			
	放射線療法を受ける対象者への看護 4時間 (2回)	1. 放射線療法とは 1) 放射線の特徴、放射線療法の特徴 2) 放射線療法の目的、放射線の照射方法 3) 放射線被曝からの防護 2. 放射線療法を受ける患者・家族への看護援助			
	検査・処置を受ける対象者への看護 16時間 (8回)	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査と検体の取り扱い 1) 血液検査 (静脈血採血、動脈血採血、血糖測定) ※ 演習 2) 尿検査、便検査、喀痰検査 3. 診察・検査・処置における技術 4. 気管内吸引 ※ 演習 5. 膀胱留置カテーテルの挿入と管理 ※ 演習 6. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置、褥瘡予防 ※ 演習			
看護技術の卒業時の到達度 <small>到達レベル P46 ※1参照</small>	【 症状・生体機能管理技術／創傷管理技術等 】				
	技術の種類			演習	実習
	検査の介助			I	II
	静脈血採血			II	III
	検体 (尿、血液等) の取り扱い			I	III
	簡易血糖検査			II	II
	気管内吸引			II	III
	膀胱留置カテーテルの管理			I	III
	創傷処置 (創洗浄、創処置、包帯法)			II	II
褥瘡予防ケア			II	II	
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 臨床看護総論 第7版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 基礎看護技術Ⅱ 第18版 (医学書院)				
備考	臨床看護技術Ⅱには、化学療法や放射線療法、検査や処置を受ける対象者への看護の内容を含めた。検査や治療・処置を受ける対象者の思いについて考えながら知識や技術を身につけていってほしい。				

臨床看護技術Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	学内教員 外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 手術療法を受ける対象者への看護に関する基礎的知識を習得できる。 2. 集中治療を受ける対象者への看護に関する基礎的知識を習得できる。				
学習概要	手術療法を受ける対象者への看護 18時間（9回）	1. 手術療法とは 1) 手術療法の目的と周手術期における看護師の役割 2) 手術療法による生体への侵襲 2. 周手術期の看護 1) 手術前の看護 (術前オリエンテーションの内容を含む) ※ 演習 2) 手術当日の看護 3) 手術室における看護 (麻酔法に関する基礎知識の内容を含む) 4) 手術後の看護			
	集中治療を受ける対象者への看護 6時間（3回）	1. 集中治療とは 1) 集中治療室の特徴 2) 集中治療室の環境 3) 集中治療室で行われる治療・処置・検査の特徴 4) 集中治療を受ける対象者とその家族の特徴 2. 集中治療を受ける対象者とその家族への援助 1) 生命の危機に対する援助 2) 日常生活行動への援助 3) 対象者の不安・苦痛への援助 4) 家族への援助			
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 臨床看護総論 第7版（医学書院） ・系統看護学講座：別巻 臨床外科看護総論 第11版（医学書院）				
備考	臨床看護技術Ⅲには、手術療法や集中治療を受ける対象者への看護の内容を含めた。侵襲的な治療や処置を受ける対象者とその家族に看護を実践していくためには、看護職として高い専門性と倫理観が必要である。対象者の思いを考えながら学ぶとともに、生命の尊厳について考える機会としてほしい。				

基礎看護学実習 I

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	学内教員
時間数	35時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	看護の場の見学を通して、病院の機能や看護職の役割、患者の療養環境について考える。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の機能や入院生活を送る患者の療養環境を知ることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院の概要説明や各施設の見学を通して、それぞれの病院の機能について述べるることができる。 2) 病院の概要説明や各施設の見学を通して、入院生活を送る患者の療養環境について述べるることができる。 2. 看護の場面を見学し、看護職の役割について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活援助や診療の補助の場面の見学を通して、看護の場면을列記できる。 2) 日常生活援助や診療の補助の場面の見学を通して、看護職の役割について述べるることができる。 3. 看護の場面を見学し、患者や良い療養生活を送るための環境について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟実習を通して、入院している患者の療養生活の実際を列記できる。 2) 病棟実習を通して、患者が良い療養生活を送るための環境について自己の考えを述べるることができる。 4. 看護学生としての行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 相手を尊重した言動をとることができる。 4) 積極的な態度で実習に参加することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習病院の概要について説明を受ける。 ・看護師に同行し、看護の場面（療養上の世話や診療の補助、看護職同士のコミュニケーションや多職種との連携・協働等）を見学する。 ・実習病院の環境や患者の療養環境について見学する。 ・見学した内容をもとに、病院の機能や看護職の役割、患者の療養環境について考察する。 				
備考	基礎看護学実習 I は、看護学生として初めて臨む実習である。病院や看護の現場の実際を知ることにより、看護への興味・関心を高めてほしい。この実習での経験が今後の学習の動機づけになることを期待する。				

基礎看護学実習Ⅱ

単位数	1単位	時期	1年次 前期	担当	学内教員
時間数	35時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	患者とのかかわりを通して対象との援助関係を形成するための基礎的能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者とのコミュニケーションを通して、患者－看護師間の人間関係について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の患者へのかかわりを振り返り、気づいたこと・考えたことを述べることができる。 2) 患者－看護師間の人間関係を形成するために必要なこと・大切なことについて、自己の考えを述べることができる。 2. 患者への援助の実施を通して、患者に看護を実施するために必要なこと・大切なことについて考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) バイタルサインの測定の場면을振り返り、気づいたこと・考えたことを述べることができる。 2) 患者に看護を実施するために必要なこと・大切なことについて、自己の考えを述べることができる。 3. 看護の場面を見学し、看護職の役割について考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活援助や診療の補助の場面の見学を通して、看護職の役割を具体的に述べるることができる。 2) 看護職同士や看護職が他職種とコミュニケーションをとる場面の見学を通して、多職種との協働・連携について述べるることができる。 4. 看護学生としての行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 相手を尊重した言動をとることができる。 4) 積極的な態度で実習に参加することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師に同行し、看護の場面（療養上の世話・診療の補助、看護職同士のコミュニケーションや多職種との連携・協働等）を見学する。 ・ 患者とのコミュニケーション、バイタルサイン測定を実施する。 ・ コミュニケーションやバイタルサイン測定の場면을振り返り、患者－看護師間の人間関係の形成において必要なことや大切なこと、患者に看護を実施するために必要なことや大切なことについて考える。 				
備考	患者とのコミュニケーションやバイタルサイン測定の実施を通して、患者との援助関係の形成や患者に援助を実施することについて考える機会としてほしい。1年次中盤での実習となるため、これまでの学習への取り組みを振り返り、今後の目標や課題を見出す機会になるとよい。				

基礎看護学実習Ⅲ

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員
時間数	35時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	患者の基本的欲求を理解し、患者の状態に合わせて日常生活援助ができる基礎的能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に援助を実施するために必要な基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の基本的欲求、各看護技術の目的、援助に必要な情報とその理由について記述できる。 2) 受け持ち患者の疾患と看護について調べ、記述できる。 2. 患者の日常生活上のニーズを明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師に同行して日常生活援助の場面を見学し、患者の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、受け持ち患者の日常生活上のニーズについて考えることができる。 3) 受け持ち患者に必要な日常生活援助を列挙することができる。 4) 列挙した日常生活援助の項目の中から、優先順位の高い援助を選択できる。 3. 患者に必要な日常生活援助に関する計画を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 収集した情報を活用し、患者に必要な日常生活援助を実施するための手順を具体的に記述できる。 2) 収集した情報を活用し、日常生活援助を行う際の注意点・配慮点を記述できる。 4. 立案した計画をもとに日常生活援助が実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助前の準備ができる。 2) 立案した計画に基づいて、指導や助言を受けながら援助が実施できる。 3) 患者の反応を確認しながら援助が実施できる。 4) 実施した援助内容や結果について、看護師や教員に報告できる。 5. 実施した日常生活援助を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施した援助について安全・安楽・自立・経済的・効果的の視点で評価できる。 2) 評価をもとに、より患者に適した援助方法を考え、修正・追加した援助計画の内容を記述できる。 6. 患者の状態に合わせて日常生活援助を行うために必要なこと・大切なことについて考察できる。 7. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 個人情報の取り扱いができる。 4) 相手を尊重した言動をとることができる。 5) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者の情報を収集し、患者に必要な日常生活援助を考える。 ・日常生活援助を計画し、実施する。 ・実施した援助を評価し、援助計画を追加・修正する。 				
備考	受け持ち患者に必要な日常生活援助を考えて実施する実習である。患者に援助を実施するための思考過程をふむことにより、看護過程の展開へとつながられるとよい。1年次最後の実習であるため、これまでの学習への取り組みを振り返るとともに、今後の目標や課題を見出す機会としてほしい。				

基礎看護学実習Ⅳ

単位数	2単位	時期	2年次 前期	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	人間関係を考慮して、対象に応じた看護過程を展開するための基礎的能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を理解し、看護上の問題を解決するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 2) 患者との人間関係を構築するために必要な基礎的知識について記述できる。 2. 患者の看護上の問題点を明らかにするためのアセスメントができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者を理解するために必要な情報を収集できる。 2) 収集した情報から患者の状態をアセスメントできる。 3) アセスメントの結果から、看護上の問題点（仮の診断）を記述できる。 3. 患者の看護上の問題点（看護診断）を明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護上の問題点を明らかにするために、患者の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、原因・誘因が分析できる。 3) 分析した結果をもとに、看護診断を適切に記述できる。 4. 看護診断に関する計画を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護診断に関する目標を記述できる。 2) 患者が目標を達成するために必要な解決策を列挙できる。 5. 立案した計画をもとに援助が実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助前の準備ができる。 2) 立案した計画に基づいて、指導や助言を受けながら援助が実施できる。 3) 患者の反応を確認しながら援助が実施できる。 4) 実施した援助内容や結果を報告し、経過記録に記述できる。 6. 実施した看護を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の行動目標にそって、実施した援助について説明できる。 2) 患者の目標が達成できたか記述できる。 3) 患者の目標達成度をもとに、看護過程の各段階の評価が記述できる。 4) 評価をもとに看護過程の各段階を振り返り、修正した内容を記述できる。 7. 患者とのかかわりを振り返り、患者－看護師間の人間関係の形成について考察できる。 8. 患者の問題を解決するために必要なこと・患者と人間関係を構築するために大切なことについて考察できる。 9. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 相手を尊重した言動をとることができる。 4) 誠実で落ち着いたある行動ができる。 5) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・コミュニケーションや援助の場面を振り返り、患者の問題を解決するために必要なこと、患者と人間関係を構築するために大切なことについて考察する。 				
備考	患者を受け持ち、初めて看護過程を展開する実習である。看護過程の一連のプロセスを通して問題解決過程を学ぶだけでなく、看護過程の展開の基盤となる人間関係過程についても学んでほしい。				

専門分野

— 地域・在宅看護論 —

【 目的 】

地域で生活する人々とその家族を理解し、その人らしく暮らせるよう支援するための視点と方法を習得する。また、地域包括ケアシステムにおける多様な場での看護の役割と機能を理解し、地域・在宅における看護を実践していくための基礎的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 地域と暮らしを理解するとともに、地域の生活環境が健康に与える影響について理解できる。
2. 地域・在宅看護の対象と看護の基盤となる概念について理解できる。
3. 地域で生活する人々とその家族の看護について理解できる。
4. 対象者の暮らしや療養生活を支える看護に関する基礎的な知識や技術を習得できる。
5. 地域・在宅看護に関する基礎的な知識・技術・態度を統合し、地域で生活する対象者とその家族が健康的に暮らせるための支援について自己の考えを持つことができる。
6. 臨地実習を通して、地域で生活する人々とその家族の看護を実践していくために必要な基礎的な知識・技術・態度を身につけることができる。

【 地域・在宅看護論の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
講義・演習 6単位（150時間）	地域・在宅看護論Ⅰ	1	25	1年次	後期
	地域・在宅看護論Ⅱ	1	25	2年次	前期
	地域・在宅看護論Ⅲ	1	25	2年次	後期
	地域・在宅看護論Ⅳ	1	25	2年次	後期
	地域・在宅看護論Ⅴ	1	25	3年次	前期・後期
	地域・在宅看護論Ⅵ	1	25	3年次	後期
臨地実習 5単位（175時間）	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	35	2年次	後期
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	70	2～3年次	前期・後期
	地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	70	2～3年次	前期・後期
合計		11	325		

地域・在宅看護論 I

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における人々の暮らしを理解できる。 2. 暮らしの基盤としての地域について理解できる。 3. 地域の生活環境が健康に与える影響について理解できる。 4. 自分のまわりの地域と暮らしについて調べ、地域と暮らしのかかわりについて考えることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における人々の暮らしと地域・在宅看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 暮らすということ (子どもを産み育てる、学ぶ、働く、病を治す、老いとともに生きる、最期を迎える) 2) 地域・在宅看護の役割 2. 暮らしの基盤としての地域の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 暮らしと地域のかかわり 2) 地域共生社会と地域包括ケアシステム 3) 地域で支えあって生きるとは (家族、仲間、近隣の人々、学校や職場、支え合い) 3. 地域の生活環境が健康に与える影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の生活環境の特徴 (文化的環境、社会的環境、自然環境) 2) 地域の生活環境が健康に与える影響とは 4. 自分のまわりの地域と暮らし ※ 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自分たちが暮らす地域の特徴について調べよう 2) 自分たちが暮らす地域の生活環境が健康に与える影響について調べよう 3) 自分たちが暮らす地域の人々の暮らしの実際について調べよう (各発達段階の人々の暮らしの実際について調べる) 4) 調べたことを共有し、地域や人々の暮らしの特徴や違いについて考えよう 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 地域・在宅看護の基盤 第6版 (医学書院) 				
備考	<p>少子高齢社会の進展に伴い、人口構造が急激に変化している。看護職が働く場は医療機関に限らず在宅や施設等に拡がり、看護職の地域での活躍が期待されている。地域・在宅看護論 I では、その基盤となる概念について学習する。自分たちの暮らす地域や暮らしに関心を持って学んでほしい。</p>				

地域・在宅看護論Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護の基盤となる概念について理解できる。 2. 地域で生活するすべての人々とその家族を生活者という視点で捉えることができる。 3. 地域包括ケアシステムにおける多様な場での看護の役割と機能を理解できる。 4. 地域・在宅看護にかかわる法と制度について理解し、社会資源の活用や調整、多職種との連携・協働の意義について考えることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護とは 2. 地域・在宅看護の対象 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・在宅看護の対象者 2) 家族の理解 3. 地域における健康と暮らしを支える看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能 2) 自助・互助・共助・公助の意義と役割 3) 家族を支える看護 4) 多職種との連携・協働の意義と方法 4. 看護が提供される多様な場 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院（外来、入院）、診療所 2) 居宅（自宅、施設） 3) 療養通所介護事業所 4) 訪問看護事業所 5) 看護小規模多機能型居宅介護 6) 通所サービス 7) 地域包括支援センター 8) 介護施設、老人保健施設 等 5. 地域・在宅看護にかかわる法と制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保険、介護保険制度 2) 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 3) 訪問看護の制度 4) 地域保健に関する法制度 5) 高齢者に関する法制度 6) 障がい者・難病に関する法制度 7) 権利保障 8) その他の関係法規・制度 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 地域・在宅看護の基盤 第6版（医学書院） 				
備考	<p>地域・在宅看護論Ⅱは、地域・在宅看護の概論として位置づけた。地域・在宅看護の対象者や看護の役割と機能、地域における暮らしを支える制度といった幅広い内容について学習する。学生には、看護と暮らしが密接にかかわっていることを理解し、対象を生活者として捉える視点を養ってほしい。</p>				

地域・在宅看護論Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人とその家族をアセスメントする視点と方法について理解できる。 2. 地域・在宅における家族看護の実際について理解できる。 3. 地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際について学習し、継続看護の意義と方法について理解できる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で暮らすすべての人々 2) 健康状態（健康のよい状態～終末期まで） 3) 発達段階（胎児期～老年期まで） 4) 家族 2. 地域・在宅における家族看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族とは 2) 要介護者を介護する家族 3) 地域・在宅看護における家族看護の実際 3. 地域で暮らす人とその家族のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) ヘルスアセスメント 2) 病態・症状のアセスメント 3) 家族のアセスメント 4) 生活のアセスメント 4. 地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の保持増進・疾病の予防にかかわる看護の実際 （ハイリスクアプローチ、健康行動理論の活用、セルフケア理論の活用） 2) 外来における看護の実際 3) 入院時の看護の実際 4) 在宅療養準備期（退院前）の看護の実際 5) 在宅療養移行期の看護の実際 6) 在宅療養安定期の看護の実際 7) 在宅におけるリハビリテーション ※ 演習 8) 急性憎悪時の看護の実際 9) 終末期の看護の実際 5. 継続看護の意義と方法 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 地域・在宅看護の実際 第6版（医学書院） 						
備考	<p>地域・在宅看護論Ⅲでは、対象者のアセスメントや介入時期別の看護について学習する。経過別看護や疾患別看護の内容と関連させながら学ぶとともに、看護の場が変わっても継続して対象を捉える力を養ってほしい。また、対象を支えている家族を含めた看護が実践できるための素地を養ってほしい。</p>						

地域・在宅看護論Ⅳ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	外部講師 学内教員												
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照												
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしを支える看護に関する基礎的知識・技術・態度を習得できる。 2. 事例展開を通して、地域で暮らす人とその家族を理解し、対象者の生活上の課題および必要な看護について考えることができる。 																
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしを支える看護技術 ※ 演習（摘便の演習も含む） <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活の場で看護をするための心構えと基本的マナー 2) 対象者がもっと健康になる力を引き出す対話・コミュニケーション 3) 地域・在宅看護における家族を支える援助 4) 地域・在宅看護における対象者の安全を守る技術 5) 地域における暮らしを支える看護実践 (対象の住環境をふまえた日常生活援助の工夫等) 2. 地域・在宅看護過程の展開 ※ 事例展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・在宅看護過程展開のポイント 2) 地域・在宅看護過程の展開方法 																
看護技術の 卒業時の到達度	<p style="text-align: center;">【 排泄援助技術 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">技術の種類</th> <th style="width: 15%;">演習</th> <th style="width: 15%;">実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>摘便</td> <td style="text-align: center;">I</td> <td style="text-align: center;">III</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※1：卒業時の到達レベル（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度より引用）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">演習</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">I</td> <td style="width: 75%;">モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実習</td> <td style="text-align: center;">III</td> <td style="text-align: center;">実施が困難な場合は見学する</td> </tr> </tbody> </table>					技術の種類	演習	実習	摘便	I	III	演習	I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる	実習	III	実施が困難な場合は見学する
技術の種類	演習	実習															
摘便	I	III															
演習	I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる															
実習	III	実施が困難な場合は見学する															
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 地域・在宅看護の実践 第6版（医学書院） 																
備考	<p>地域・在宅看護論Ⅳでは、暮らしを支える看護に関する知識・技術・態度を学ぶ。基礎看護学で学んだ日常生活援助を暮らしの場で応用できるよう、既習の知識や技術と関連づけながら学んでほしい。事例展開では、これまで学んできた知識を活用しながら対象者に必要な看護を考えてほしい。</p>																

地域・在宅看護論V

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で療養生活を送る対象の状態に応じた看護の実際を理解できる。 2. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解できる。 3. 地域におけるインフォーマルサポートを含めた多職種連携・チームでの協働について理解できる。 4. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントの必要性と方法について考えることができる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で療養生活を送る対象の状態に応じた地域・在宅看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅で療養生活を送る子どもへの看護 2) 在宅で療養生活を送る寝たきり状態にある対象者への看護 3) がんの療養者への看護 4) 難病の療養者への看護 5) 精神疾患の療養者への看護 6) 認知症の療養者への看護 7) 感染症の療養者への看護 2. 暮らしの場で行われる治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅酸素療法 2) 在宅人工呼吸療法 3) 吸引、気管切開口のケア 4) 栄養状態改善のケア（経管栄養法、在宅中心静脈栄養法） 5) 褥瘡予防・褥瘡処置 6) ストーマ管理 7) 膀胱留置カテーテル 8) CAPD（腹膜透析） 9) 疼痛緩和 3. 多職種連携・チームでの協働 <ol style="list-style-type: none"> 1) 多職種連携・支援のネットワークづくり 2) 住民との連携 3) 関係諸機関・多職種との連携・チームでの協働 4) 学校・企業との連携 4. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・在宅におけるマネジメントの必要性 2) 自己決定支援 3) 在宅における医療安全と対策 4) 災害への備えと災害時の対応 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 地域・在宅看護の実際 第6版（医学書院） 						
備考	<p>地域・在宅看護論Vでは、地域で療養生活を送る対象への看護の実際や、地域で暮らし続けることを支援する方法について学習する。疾患を持ちながらも地域で療養生活を送る対象者とその家族の思いや背景について考えながら、地域・在宅における看護の実際を理解して欲しい。</p>						

地域・在宅看護論VI

単位数	1単位	時期	3年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する対象者を理解し、対象者とその家族が地域で健康的に暮らせるための支援について考えることができる。 2. 地域・在宅看護における看護について自己の考えをもつことができる。 3. プロジェクト学習を通して、主体的に学習に取り組む力や看護を創造する力を養うことができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護から地域看護への拡大 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域で暮らす人の力を引き出し、つなげる看護 2) ライフステージに伴う健康・生活上の課題に寄り添い予防する看護 3) 在宅看護からみえた地域ニーズから始まる看護の機能 4) 地域で暮らす人々の多様性と看護の無限の可能性 2. 私が考える地域・在宅看護 ※ プロジェクト学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身近な人をテーマに設定し、その対象者の暮らす地域の特徴を調べよう 2) 対象者とその家族が地域とどのようにつながっているか考えよう 3) 対象者とその家族が暮らす地域の生活環境が健康に与える影響について考えよう 4) 対象者とその家族の生活および健康上の課題について考えよう 5) 対象者とその家族が地域で健康的に暮らせるための支援について考えよう (活用できる社会資源や連携できる職種についても調べる) 6) 対象者とその家族が地域で健康的に暮らせるための支援を実践してみよう 7) 私が考える地域・在宅看護について自己の考えをまとめ、発表しよう (地域・在宅看護における看護の役割や機能、今後の展望等を含める) 				
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 地域・在宅看護の実践 第6版（医学書院）				
備考	地域・在宅看護論VIではプロジェクト学習を行う。自分でテーマを設定し、自分で課題を見出しながら主体的に学ぶ経験を通して、地域・在宅看護に関する理解が深まることを期待している。地域・在宅看護に関する自己の考えを育むとともに、看護の展望や未来の自分を描く機会としてほしい。				

地域・在宅看護論実習 I

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	学内教員
時間数	35時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	地域で暮らすあらゆる発達段階の人々への健康支援について考える。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における看護の役割と機能について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健センター、地域包括視線センターの役割と機能について記述できる。 2) 各保健事業の目的や対象、内容について記述できる。 2. 地域で生活する人々の健康支援のあり方や方法について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健活動の場面の見学を通して、対象者にとってなぜその支援が必要か、考えを述べるができる。 2) 保健活動の見学や参加者とのコミュニケーションを通して、地域で生活する人々の健康支援のあり方や方法について自己の考えを述べるができる。 3. 地域で暮らすあらゆる発達段階の人々の健康を支援するために必要なこと・大切なことについて考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健活動の見学を振り返り、印象に残った場面や気づいたことを記述できる。 2) 振り返った場面をもとに、地域で暮らすあらゆる発達段階の人々の健康を支援するために必要なこと・大切なことについて自己の考えを述べるができる。 4. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 相手を尊重した言動をとることができる。 4) 誠実で落ち着いたある行動ができる。 5) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健センターと地域包括支援センターで実習する。 ・ 各施設の事業概要について説明を受ける。 ・ 健康診査、健康相談や健康教育、家庭訪問等、各保健活動を見学する。 ・ 見学した内容をもとに、地域で暮らすあらゆる人々への健康支援について考える。 				
備考	<p>地域・在宅看護論実習 I は、地域で暮らすあらゆる発達段階の人々の健康支援について学ぶ実習である。看護の対象を地域で暮らす生活者として捉える機会としてほしい。また、看護が地域や暮らしと密接にかかわっていることを知り、自身の地域や暮らし、健康にも興味・関心を持ってほしい。</p>				

地域・在宅看護論実習Ⅱ

単位数	2単位	時期	2～3年次	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	地域で療養生活を送る対象者を統合的に捉え、対象者とその家族の健康と暮らしを支える看護を実践するための基礎的能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で療養生活を送る対象者に必要な看護を明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 同行訪問を通して、地域で療養生活を送る対象者の情報を収集できる。 2) 収集した情報からアセスメントし、地域で療養生活を送る対象者の生活上および健康上の課題について述べるができる。 3) 対象者の生活や看護の実際の場面を振り返り、なぜその援助が必要だったのか、今後どのような看護が必要となるのかについて説明できる。 2. 訪問看護における対象者と援助関係を形成するためのかかわりについて考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の意思や価値観、生活スタイルに配慮してかかわることができる。 2) 対象者と援助関係を形成するうえで必要なかかわりについて述べるができる。 3. 地域包括ケアシステムにおける訪問看護の機能や役割、多職種との連携・協働について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護の機能と役割について説明できる。 2) 地域包括ケアシステムにかかわる他職種の役割と活動内容について説明できる。 3) 医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、退院支援専門員の役割と活動内容について述べるができる。 4) 訪問看護における多職種との連携・協働の必要性について述べるができる。 4. 療養生活を送る対象者とその家族の健康と暮らしを支える看護について考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の実践や見学したことを振り返り、地域で療養生活を送る対象者とその家族の特徴や看護の役割と機能について具体的に述べるができる。 2) 振り返った内容をもとに、地域で療養生活を送る対象者とその家族の暮らしを支える看護について自己の考えや今後の課題を述べるができる。 5. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 相手を尊重した言動をとることができる。 4) 誠実で落ち着いたある行動ができる。 5) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問看護師に同行（1日2件程度）し、訪問看護の実践の場面を見学する。 ・ 事前に得た情報から対象者に予測される援助を考え、看護師の助言や指導を受けながら援助を実施する。同行訪問終了後、対象者に必要な看護について考察する。 ・ 退院支援相談員、居宅介護支援事業所、医療福祉相談課の実習（半日）を行う。 				
備考	<p>地域・在宅看護論実習Ⅱは、訪問看護の実際や多職種との連携・協働等について学習する。対象の多様な価値観や生活背景、対象者を取り巻く環境の違いを知り、療養生活を送る対象者の理解につなげてほしい。多様な場での多様な看護の実際を知り、看護の個別性を改めて考える機会としてほしい。</p>				

地域・在宅看護論実習Ⅲ

単位数	2単位	時期	2～3年次	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能を理解し、多様な場での多様な看護について考える。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける看護の場と役割・機能について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域においてどのような看護の場があるかを調べ、説明できる。 2) 各施設の機能と特徴について法的根拠をふまえて記述できる。 2. 対象者とその家族の暮らしを支える看護について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護活動への参加やコミュニケーションを通して、対象者の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、対象者の生活上および健康の課題を述べることができる。 3) 対象者の反応を確かめながら、安全に配慮して援助を実施できる。 4) 看護の場面を振り返り、対象者に必要な看護について考えたことを述べるができる。 3. 地域における看護の場や対象者の多様性について考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の実施や見学したことを振り返り、施設を利用する対象者の特徴や看護の実際について具体的に述べるができる。 2) 振り返った内容をもとに、地域における看護の場や対象者の多様性について自己の考えや今後の課題を述べるができる。 4. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 相手を尊重した言動をとることができる。 4) 誠実で落ち着きのある行動ができる。 5) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人ホーム、精神デイケア、多機能型重症児デイサービスで実習を行う。 ・ 各施設の紹介や対象者の特徴、看護の実際についてまとめ、ディスカッションを行う。 				
備考	<p>地域・在宅看護論実習Ⅲは、老人ホームや精神デイケア、多機能型重症児デイサービスにて実習を行う。対象者の多様性や地域における多様な場での多様な看護を考えるとともに、幅広い視野で物事を考える力を養ってほしい。これからの看護を創造的に考える機会になることを期待する。</p>				

専門分野

— 成人看護学 —

【 目的 】

成人期にある対象を統合的に捉え、看護を実践していくための基礎的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 成人各期の特徴、成人の生活と健康との関連について理解できる。
2. 成人の健康レベルに対応した看護について理解できる。
3. 疾患をもつ成人期にある対象への看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。
4. 成人看護に有用な概念や理論を活用し、成人期にある対象への看護を考えることができる。
5. 臨地実習を通して、成人期にある対象を統合的に理解し、看護を実践していくために必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。

【 成人看護学の構成 】

科目	単位数	時間数	学科進度		
			学年	時期	
講義・演習 6単位（150時間）	成人看護学Ⅰ	1	25	1年次	後期
	成人看護学Ⅱ	1	25	2年次	後期
	成人看護学Ⅲ	1	25	2年次	前期
	成人看護学Ⅳ	1	25	2年次	前期・後期
	成人看護学Ⅴ	1	25	2年次	後期
	成人看護学Ⅵ	1	25	3年次	前期・後期
臨地実習 4単位（140時間）	成人看護学実習Ⅰ	2	70	2年次	後期
	成人看護学実習Ⅱ	2	70	2～3年次	前期・後期
合計	10	290			

成人看護学 I

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の特徴、成人の生活と健康との関連について理解できる。 2. 成人の健康レベルに対応した看護について理解できる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学の位置づけと目標 2. 成人の生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の理解（発達段階・発達課題、成人各期の身体・心理・社会的特徴） 2) 対象の生活（働いて生活を営むこと、家族からとらえる大人、人生をたどること） 3. 成人の生活と健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム 4. 成人への看護アプローチの基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助（行動変容を促進する看護アプローチ） 2) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 3) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4) チームアプローチ 5) 意思決定支援 6) 家族支援 5. ヘルスプロモーションと看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) ヘルスプロモーションと看護 2) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 6. 健康をおびやかす要因と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因（ライフスタイルと健康問題、ストレス） 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防（就業・労働、飲酒、喫煙、肥満等） 7. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の急激な破綻 2) 急性期にある人の看護（危機にある人々への支援、家族の看護等） 8. 慢性病との共存を支える看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性病患者の理解（病みの軌跡、首尾一貫感覚、健康信念モデル等） 2) 慢性病との共存を支える看護の実践（エンパワメント、セルフマネジメント等） 9. 人生の最期のときを支える看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人生の最期のときを過ごしている人の理解 2) 人生の最期のときを支える看護 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 成人看護学総論 第16版（医学書院） ・国民衛生の動向 2022／2023（厚生労働統計協会） 				
備考	<p>成人看護学 I では、成人各期の特徴や成人の健康レベルに対応した看護について学習する。成人期にある自分自身や家族の状況と学習内容を関連させながら、成人特有の健康問題が生活と密接にかかわっていることを理解してほしい。また、自身の健康と生活を振り返る機会としてほしい。</p>				

成人看護学Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の特徴をふまえて成人期にある対象を理解できる。 2. 成人看護に有用な概念や理論を活用し、成人期にある対象への看護を考えることができる。 3. 成人期にある対象へ看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習者である患者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) エンパワメント－エデュケーション 2) セルフマネジメントを促進する看護技術 2. ボディイメージの変化に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 治療過程にある患者とボディイメージ 2) 治療によりボディイメージの変化をきたした人の援助 3. 障がいがある人の生活とリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 障がいがある人とリハビリテーション 2) 障がいがある人とその生活を支援する看護 4. その人らしい日常生活再構築のための看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) その人らしい日常生活支援につながる主体的治療・療養行動支援 2) 主体的な治療・療養行動の促進 3) 新たな役割獲得の支援 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ※ 事例による看護過程の展開を含む </div>				
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 成人看護学総論 第16版（医学書院）				
備考	現代の経済的・環境的变化はめまぐるしく、そのことに影響を受けている大人が抱える健康問題も複雑性や多様性を増している。疾患別看護で学んだ知識を活用しながら成人期にある対象や看護を理解していくとともに、時代を生きる大人の健康と生活を多角的に捉える視点を養ってほしい。				

成人看護学Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 呼吸器疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 2. 循環器疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。						
学習概要	呼吸器疾患看護 12時間 (6回)	1. 呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 呼吸器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 症状に対する看護 咳嗽・喀痰、血痰・喀血、胸痛、呼吸困難 4. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 気管支鏡検査を受ける患者の看護 2) 肺組織の生検を受ける患者の看護 3) 酸素療法を受ける患者の看護 4) 人工呼吸器を装着する患者の看護 5) 胸腔ドレナージを受ける患者の看護 6) 手術を受ける患者の看護 5. 疾患をもつ患者の看護 ※ 事例による看護過程の展開を含む 1) 肺炎患者の看護 2) 気管支喘息患者の看護 3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の看護 4) 肺がん患者の看護					
	循環器疾患看護 12時間 (6回)	1. 循環器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 循環器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 症状に対する看護 胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ 4. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 心電図検査を受ける患者の看護 2) 心臓カテーテル法を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 冠動脈バイパス術、弁置換術・弁形成術等 4) 循環補助装置を装着する患者の看護 5. 疾患をもつ患者の看護 ※ 事例による看護過程の展開を含む 1) 虚血性心疾患患者の看護 2) 心不全患者の看護 3) 不整脈患者の看護 4) 感染性心内膜炎患者の看護 5) 動脈閉塞性疾患患者の看護					
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 呼吸器 第15版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 循環器 第15版 (医学書院)						
備考	成人看護学Ⅲ～Ⅵでは、講義や演習 (事例展開を含む) を行いながら、健康問題を抱えた成人期にある対象への看護を学んでいく。解剖生理学や疾病論で学んだ知識を再確認しながら、疾患の症状や検査・処置・治療の理解を深めていくと同時に、成人期にある対象や看護を理解して欲しい。						

成人看護学Ⅳ

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 消化器疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 2. 内分泌・代謝疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 3. 血液・造血器疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。				
学習概要	消化器疾患看護 12時間（6回）	1. 消化器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 消化器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 症状に対する看護 嚥下障害、嘔吐、腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、黄疸等 4. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 消化器内視鏡検査、造影検査を受ける患者の看護 2) 肝生検を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 5. 疾患をもつ患者の看護 1) 食道がん患者の看護 2) 胃がん患者の看護 3) 大腸がん患者の看護 ※ 演習（ストーマケア） 4) 炎症性疾患（胃十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎等）患者の看護 5) 肝炎、肝硬変、肝がん、胆石症、膵炎患者の看護			
	内分泌・代謝疾患看護 8時間（4回）	1. 内分泌・代謝疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 内分泌・代謝疾患をもつ患者の経過と看護 3. 疾患をもつ患者の看護 1) 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進・低下症、腫瘍）患者の看護 2) 糖尿病患者の看護 3) 脂質異常症、肥満、高尿酸血症患者の看護 4) 乳がん患者の看護			
	血液・造血器疾患看護 4時間（2回）	1. 血液・造血器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 血液・造血器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 疾患をもつ患者の看護 1) 造血器腫瘍患者の看護 2) 血友病患者の看護			
看護技術の卒業時の到達度	【 排泄援助技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	ストーマ管理			Ⅱ	Ⅲ
卒業時の到達レベル（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度より引用）					
演習		Ⅱ	指導の下で実施できる		
実習		Ⅲ	実施が困難な場合は見学する		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 消化器 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 内分泌・代謝 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 女性生殖器 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 血液・造血器 第15版（医学書院） 				

成人看護学V

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 脳・神経疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 2. 運動器疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。						
学習概要	脳・神経疾患看護 12時間 (6回)	1. 脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 脳・神経疾患をもつ患者の経過と看護 3. 症状に対する看護 意識障害、嚥下障害、運動機能障害、高次脳機能障害等 4. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 脳波検査、髄液検査、脳血管造影を受ける患者の看護 2) 手術を受ける患者の看護 3) 薬物療法を受ける患者の看護 4) 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 5) リハビリテーションを受ける患者の看護 5. 疾患をもつ患者の看護 ※ 事例による看護過程の展開を含む 1) 脳血管障害（くも膜下出血、脳梗塞）患者の看護 2) 脳腫瘍患者の看護 3) 頭部外傷患者の看護 4) 重症筋無力症患者の看護 5) パーキンソン病患者の看護 6) 筋萎縮性側索硬化症患者の看護					
	運動器疾患看護 12時間 (6回)	1. 運動器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 運動器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 運動器系看護のための主な知識と技術 1) 身体機能、日常生活動作（ADL）の評価 2) 基本肢位・良肢位と廃用症候群の予防 3) セルフケアを支える道具の活用 4) 運動器リハビリテーション 4. 症状に対する看護 疼痛、循環・神経障害、出血性ショック、感染 5. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 画像検査を受ける患者の看護 2) 保存療法（ギプス固定、牽引療法）を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 6. 疾患をもつ患者の看護 ※ 事例による看護過程の展開を含む 1) 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者の看護 2) 椎間板ヘルニア患者の看護 3) 脊髄損傷患者の看護					
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 脳・神経 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 運動器 第15版（医学書院）						

成人看護学VI

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 腎・泌尿器疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 2. 婦人科疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 3. 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患をもつ成人期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。						
学習概要	腎・泌尿器疾患看護 14時間 (7回)	1. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 症状に対する看護 浮腫、高血圧、下部尿路症状、尿の性状異常、疼痛 4. 検査・処置を受ける患者の看護 1) 尿検査、尿流動態検査を受ける患者の看護 2) 残尿測定検査を受ける患者の看護 3) 膀胱鏡検査を受ける患者の看護 5. 内科的治療を受ける患者の看護 ※事例による看護過程の展開を含む 1) 腎不全と急性腎障害・慢性腎臓病患者の看護 2) 糖尿病性腎症患者の看護 6. 泌尿器科的治療を受ける患者の看護 1) 膀胱、前立腺、腎臓の手術を受ける患者の看護 2) 薬物療法、放射線療法を受ける患者の看護					
	婦人科疾患看護 6時間 (3回)	1. 女性生殖器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 女性生殖器疾患をもつ患者の経過と看護 3. 症状に対する看護 性器出血、帯下・掻痒感、リンパ浮腫、下腹部膨満等 4. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 診察介助における看護 2) ホルモン療法、化学療法、放射線療法を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 5. 疾患をもつ患者の看護 ※事例による看護過程の展開を含む 1) 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫患者の看護 2) 子宮がん、卵巣癌患者の看護					
	膠原病・リウマチ・アレルギー疾患看護 4時間 (2回)	1. 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 膠原病・リウマチ・アレルギー疾患をもつ患者の経過と看護 3. 疾患をもつ患者の看護 1) アレルギー疾患をもつ患者の看護 2) 関節リウマチ、全身性エリトマトーデス患者の看護					
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 腎・泌尿器 第15版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 女性生殖器 第15版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 第15版 (医学書院)						

成人看護学実習 I

単位数	2単位	時期	2年次 後期	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	人間関係を基盤として、成人期にある対象を統合的に理解し、看護を展開できる能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の対象を理解し、看護上の問題を解決するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人期の対象を理解するための基礎的知識について記述できる。 2) 受け持ち患者の看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 3) 成人期の対象へ健康の保持・増進をするための看護について記述できる。 2. 患者の看護上の問題点を明らかにするためのアセスメントができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者を理解するために必要な情報を収集できる。 2) 収集した情報から患者の状態をアセスメントできる。 3) アセスメントの結果から、看護上の問題点（仮の診断）を明らかにできる。 4) 関連図を用いて患者の情報を統合し、患者の全体像を捉えることができる。 5) 優先順位の高い看護上の問題点を明らかにすることができる。 3. 患者の看護上の問題点（看護診断）を明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護上の問題点を明らかにするために、患者の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、原因・誘因が分析できる。 3) 分析した結果をもとに、看護診断を適切に記述できる。 4. 看護診断に関する計画を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護診断に関する目標を記述できる。 2) 患者が目標を達成するために必要な解決策を具体的に列挙できる。 5. 立案した計画をもとに援助が実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助前の準備ができる。 2) 立案した計画に基づいて、指導や助言を受けながら援助が実施できる。 3) 患者の反応を確認しながら援助が実施できる。 4) 実施した援助内容や計画を報告し、経過記録に正確に記述できる。 6. 実施した看護を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の行動目標にそって、実施した援助について説明できる。 2) 患者の目標が達成できたか記述できる。 3) 患者の目標達成度をもとに、看護過程の各段階の評価が記述できる。 4) 評価をもとに看護過程の各段階を振り返り、修正した内容を記述できる。 7. 成人期にある患者と円滑な援助関係を形成することができる。 8. 成人期にある対象へ健康の保持・増進をするための看護について考察できる。 9. 病棟や健診センターでの学びを統合し、成人期にある対象の特徴や成人期にある対象への看護（健康の保持・増進、疾病からの回復の支援）について考察できる。 10. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人期（対象がない場合には老年期）の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・ 患者との円滑な援助関係を形成するために、看護場面の再構成を行う。 ・ 健診センターで実習（1日）を行う。 ・ 病棟と健診センターでの学びを統合し、成人期にある対象の特徴や看護を考察する。 				
備考	成人看護学実習 I では基礎看護学実習での学びを土台とし、成人期にある対象を統合的に捉えて看護を実践していく能力を養ってほしい。健康の保持・増進および疾病からの回復を支援する看護の経験を通して、成人期にある対象の生活と健康、看護とのつながりを理解する機会としてほしい。				

成人看護学実習Ⅱ

単位数	2単位	時期	2～3年次	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	生体機能の変化が著しい状態にある患者の特徴や急性期にある患者とその家族への看護を統合的に理解し、看護を展開できる能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象を理解し、看護を実践するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期における患者や家族の特徴、急性期における看護に関する基礎的知識について記述できる。 2) 受け持ち患者の看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 2. 急性期にある患者の看護上の問題点を明らかにするためのアセスメントができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者を理解するために必要な情報を観察やケアを通して収集できる。 2) 病態や治療、疾患による心理・社会面への影響を考慮してアセスメントができる。 3) 患者の反応を捉え、臨床判断を行いながらアセスメントができる。 4) アセスメントの結果から、看護上の問題点（仮の診断）を立案できる。 5) 関連図を用いて患者の情報を統合し、患者の全体像を捉えることができる。 6) 優先順位の高い看護上の問題点を明らかにできる。 3. 病態や治療、生体機能の変化を考慮した援助計画を考え、実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病態や治療、生体機能の変化を考慮した援助計画を考えることができる。 2) 病態や治療、生体機能の変化を考慮して援助が実施できる。 3) 患者の安全・安楽を考慮するとともに、反応を確認しながら援助が実施できる。 4) 実施した看護を振り返り、日々の援助計画を追加・修正することができる。 4. 救急外来や手術室における看護の役割について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急外来の機能や特徴、看護の役割について記述できる。 2) 手術を受ける患者の特徴や手術室における看護の役割について記述できる。 3) 看護の場面を見学し、印象に残った場面や気づいたことを列挙する。 4) 振り返った場面をもとに救急外来や手術室における看護の役割について考察する。 5. 急性期にある患者や家族と円滑な援助関係を形成することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者や家族の状況を考慮し、相手を尊重した態度でかかわることができる。 2) 日々のかかわりを振り返り、急性期にある患者や家族と円滑な援助関係を形成するために必要なこと・大切なことについて考察する。 6. 急性期における看護において必要なこと・大切なことについて考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) HCU、救急外来や手術室での看護の体験を統合し、急性期にある看護において必要なこと・大切なことについてまとめ、発表する。 2) 生命の尊厳について自己の考えを述べることができる。 7. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ HCU、救急外来、手術室で実習を行う。 ・ HCUでは患者を受け持ち、アセスメント、援助計画の立案、実施を行う。 ・ 救急外来・手術室では看護の場面を見学し、看護の役割について考察する。 ・ 実習での学びを統合し、急性期における看護についてまとめ、発表する。 				
備考	生体機能の著しい変化を捉えるためには、これまで学んできた知識や技術だけでなく、患者の反応や変化に気づく力が大切である。急性期にある患者や家族が置かれている状況を考慮しながら思いを汲み取りとっていくとともに、患者の生命の尊厳についても考える機会としてほしい。				

専門分野

— 老年看護学 —

【 目的 】

老年期にある対象を統合的に捉え、看護を実践していくための基礎的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 老年期の特徴、高齢者の生活と健康との関連について理解できる。
2. 老年の健康レベルに対応した看護について理解できる。
3. 高齢者の疾病の特徴について理解できる。
4. 疾患をもつ老年期にある対象への看護に関する基礎的な知識や技術を習得できる。
5. 高齢者をとりまく社会、地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護について理解できる。
6. 臨地実習を通して、老年期にある対象を統合的に理解し、看護を実践していくために必要な基礎的な知識・技術・態度を身につけることができる。

【 老年看護学の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
講義・演習 4単位（100時間）	老年看護学Ⅰ	1	25	1年次	後期
	老年看護学Ⅱ	1	25	2年次	前期・後期
	老年看護学Ⅲ	1	25	2年次	後期
	老年看護学Ⅳ	1	25	3年次	後期
臨地実習 3単位（105時間）	老年看護学実習	3	105	3年次	前期
合計		7	205		

老年看護学 I

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員 外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の特徴、高齢者の生活と健康について理解できる。 2. 高齢者をとりまく社会、地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護に関する基礎的知識を習得できる。 3. 老年看護の基本となる理論や概念、倫理的課題、看護の特徴について理解できる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護学の位置づけと目標 2. 高齢者の特徴と理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフサイクルからみた高齢者の特徴 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題 3. 高齢者にとっての健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年期の健康 2) 高齢者にとっての健康維持・増進の意義 3) 加齢に伴う変化（身体機能の変化、心理・精神機能の変化、社会的機能の変化） 4) 高齢者の健康状態のアセスメント 4. その人らしい生活の継続 <ol style="list-style-type: none"> 1) 時代背景に関連する人生と経験の多様性、生活史 2) 高齢者の暮らし（生活習慣、生活様式） 3) 高齢者と生活リズム 4) 高齢者とQOL 5. 高齢者をとりまく社会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の生活と家族 2) 高齢者が生活する場 3) 高齢者に関する保健医療福祉の動向 4) 高齢者を支える制度・社会資源 6. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域包括ケア 2) 在宅 3) 介護保険施設 4) 地域密着型サービス 5) デイサービス・デイケア 7. 老年看護の基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年看護における理論や概念（エンパワメント、ストレングスモデル、サクセスフルエイジング等） 2) 老年看護における倫理（高齢者差別・虐待の防止、権利擁護、意思決定支援等） 3) 老年看護の特徴 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナーシング・グラフィカ：老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 第6版（メディカ出版） ・ 国民衛生の動向 2022／2023 （厚生労働統計協会） ・ 国民の福祉と介護の動向 2022／2023 （厚生労働統計協会） 				
備考	<p>老年看護において、加齢に伴う身体・精神・社会的機能の変化や、高齢者の生活と健康とのつながり、高齢者をとりまく社会についての理解が重要である。看護職として高齢者それぞれの人生経験やその中で培ってきた価値観を尊重しながらかかわれるよう、興味をもって学んでほしい。</p>				

老年看護学Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 高齢者の生理的特徴や疾病の特徴について理解できる。 2. 高齢者疑似体験を通して、高齢者の特徴を理解できる。 3. 高齢者の健康を保持・増進するための看護について理解できる。				
学習概要	老年期疾病の特徴 10時間（5回）	1. 高齢者の生理的特徴 1) 加齢と老化 2) 各機能の老化 2. 老年症候群 1) 老年症候群の特徴 2) 急性・慢性疾患に付随する症候、ADL低下に合併する症候 3) フレイル 3. 高齢者の疾病の特徴 4. 高齢者と薬 5. 高齢者のリハビリテーション 6. 高齢者の在宅医療とエンド・オブ・ライフ・ケア			
学習概要	高齢者の健康と看護 14時間（7回）	1. 高齢者の特徴の理解 ※ 演習（高齢者疑似体験） 2. 高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 1) 高齢者のフィジカルアセスメント 2) 高齢者の機能と評価（ICF, CGA, ADL, IADL等） 3. 高齢者のヘルスプロモーション ※ 演習（シルバー体操） 1) 高齢者の健康増進 2) 生活習慣病予防 3) 転倒予防 4) 認知症予防 4. 高齢者とのコミュニケーション 1) 高齢者の聴覚機能、視覚機能、精神機能 2) 高齢者のコミュニケーションを困難にするその他の要因 3) 看護とコミュニケーション技術			
使用教材	・系統看護学講座：専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版（医学書院） ・ナーシング・グラフィカ：老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 第6版（メディカ出版）				
備考	老年看護学Ⅱでは、高齢者の生理的特徴や疾病の特徴、高齢者の健康を保持・増進するための看護について学習する。講義だけでなく、演習（高齢者疑似体験やシルバー体操）での経験を活用しながら、老年期の特徴について理解を深めてほしい。				

老年看護学Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 高齢者に特有な症候・疾病・障害に対する看護について理解できる。 2. 検査・治療を受ける高齢者の特徴と看護について理解できる。 3. 終末期にある高齢者とその家族への看護について理解できる。						
学習概要	1. 高齢者に特有な症候・疾病・障害に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食生活を支える看護（脱水、摂食・嚥下障害、低栄養） 2) 排泄を支える看護（尿失禁、排便障害） 3) 清潔・衣生活を支える看護（皮膚の障害、感染症） 4) 活動と休息を支える看護（視覚障害、聴覚障害、睡眠障害） 5) 歩行・移動を支える看護（骨粗鬆症、骨折、廃用症候群） 6) 高齢者に特徴的な疾病・症状を支える看護（パーキンソン病等） 7) 認知症・うつ病・せん妄の看護 2. 検査・治療を受ける高齢者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察・検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 3) 手術療法を受ける高齢者の看護 4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 5) 入院・退院に伴う高齢者の看護 3. 終末期にある高齢者と家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の死と医療・ケア 2) 終末期看護の実践 3) 看取りを終えた家族への看護 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">※ 事例による看護過程の展開を含む</div>						
使用教材	・ナーシング・グラフィカ：老年看護学(2) 高齢者看護の実践 第5版（メディカ出版）						
備考	老年看護学Ⅲでは、健康問題を抱えた高齢者への看護について学ぶ。これまで出会ってきた高齢者の多様な価値観や生活背景を思い出しながら、その人らしい生活を最期まで送ることができるための看護について考えて欲しい。また、人間の「生・病・老・死」について改めて考える機会としてほしい。						

老年看護学Ⅳ

単位数	1単位	時期	3年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 感覚器疾患をもつ老年期にある対象への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 2. 高齢者の暮らしや生きがいを支える看護について理解できる。				
学習概要	皮膚疾患看護 4時間 (2回)	1. 皮膚疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 皮膚疾患をもつ患者の経過と看護 3. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 皮膚科的検査法、病理組織検査を受ける患者の看護 2) 内服療法・外用療法を受ける患者の看護 4. 疾患（アトピー性皮膚炎等）をもつ患者の看護			
	眼疾患看護 4時間 (2回)	1. 眼疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 眼疾患をもつ患者の経過と看護 3. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 視力検査、眼底検査を受ける患者の看護 2) 光凝固を受ける患者の看護 4. 疾患（白内障、緑内障、網膜剥離等）をもつ患者の看護			
	耳鼻咽喉疾患看護 4時間 (2回)	1. 耳鼻咽喉疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 耳鼻咽喉疾患をもつ患者の経過と看護 3. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 内視鏡検査、聴力・平衡機能検査を受ける患者の看護 2) 音声・嚥下の障害に対するリハビリテーションと看護 4. 疾患（難聴、メニエール病、副鼻腔炎等）をもつ患者の看護			
	歯・口腔疾患看護 4時間 (2回)	1. 歯・口腔疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 歯・口腔疾患をもつ患者の経過と看護 3. 検査・処置・治療を受ける患者の看護 1) 保存治療を受ける患者の看護 2) 外科的治療を受ける患者の看護 4. 疾患（口腔がん、顎変形症等）をもつ患者の看護			
	高齢者の暮らしを支える看護 8時間 (4回)	1. 高齢者の暮らしや生きがいを支える看護 （セクシュアリティ、生きがい、社会参加） 2. 高齢者のリスクマネジメント 3. 災害時の高齢者看護 4. 生活の場の移動と看護の継続 5. 高齢者看護におけるチームアプローチ			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 皮膚 第15版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 眼 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 耳鼻咽喉 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 歯・口腔 第14版（医学書院） ・ナーシング・グラフィカ：老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 第6版（メディカ出版） 				
備考	加齢に伴う感覚機能の低下を考慮した看護が必要である。高齢者の加齢に伴う変化や特徴を理解するとともに、多様な場で生活する高齢者の暮らしや生きがいを支えるための看護を学んでほしい。				

老年看護学実習

単位数	3単位	時期	3年次 前期	担当	学内教員
時間数	105時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	人間関係を基盤として、老年期にある対象を統合的に理解し、看護を展開できる能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の対象を理解し、看護上の問題を解決するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年期の対象を理解するための基礎的知識について記述できる。 2) 受け持ち患者の看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 3) 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアに関する基礎的知識について記述できる。 2. 患者の看護上の問題点を明らかにするためのアセスメントができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者を理解するために必要な情報を収集できる。 2) 収集した情報から患者の状態をアセスメントできる。 3) アセスメントの結果から、看護上の問題点（仮の診断）を明らかにできる。 4) 関連図を用いて患者の情報を統合し、患者の全体像を捉えることができる。 5) 優先順位の高い看護上の問題点を明らかにすることができる。 3. 患者の看護上の問題点（看護診断）を明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護上の問題点を明らかにするために、患者の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、原因・誘因が分析できる。 3) 分析した結果をもとに、看護診断を適切に記述できる。 4. 看護診断に関する計画を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護診断に関する目標を記述できる。 2) 患者が目標を達成するために必要な解決策を具体的に列挙できる。 3) 老年期の特徴や患者の個別性をふまえて解決策を考えることができる。 5. 立案した計画をもとに援助が実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助前の準備ができる。 2) 立案した計画に基づいて、指導や助言を受けながら援助が実施できる。 3) 患者の反応を確認しながら援助が実施できる。 4) 実施した援助内容や計画を報告し、経過記録に正確に記述できる。 6. 実施した看護を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の行動目標にそって、実施した援助について説明できる。 2) 患者の目標が達成できたか記述できる。 3) 患者の目標達成度をもとに、看護過程の各段階の評価が記述できる。 4) 評価をもとに看護過程の各段階を振り返り、修正した内容を記述できる。 7. 老年期にある患者と円滑な援助関係を形成することができる。 8. 老年期にある対象へのエンド・オブ・ライフ・ケアについて考察できる。 9. 実習での学びを統合し、老年期にある対象の特徴や老年期にある対象への看護（疾病からの回復の支援、エンド・オブ・ライフ・ケア）について考察できる。 10. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期（対象がない場合には成人期）の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・ 患者との円滑な援助関係を形成するために、看護場面の再構成を行う。 ・ 緩和ケア病棟で実習（1日）を行う。 ・ 実習での学びを統合し、老年期にある対象の特徴や看護を理解する。 				
備考	<p>高齢者一人ひとりの生活背景や価値観の違いを認識し、対象とその家族の個性性を考慮しながら看護を実践してほしい。高齢者への看護を通して「看護とは何か」を深く考える機会としてほしい。</p>				

専門分野

— 小児看護学 —

【 目的 】

小児各期の身体的・精神的・スピリチュアル的・社会的特徴を理解し、子どもとその家族を統合的に捉えて看護を実践していくための基礎的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 小児各期における成長と発達の特徴について理解できる。
2. 子どもと家族を取り巻く社会、小児に関する保健や福祉について理解できる。
3. 小児各期における子どもの成長・発達を支える看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。
4. 子どもの健康レベルに対応した看護について理解できる。
5. 健康問題をもつ子どもとその家族への看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。
6. 臨地実習を通して、小児期にある対象とその家族を統合的に理解し、看護を実践していくために必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。

【 小児看護学の構成 】

科目	単位数	時間数	学科進度		
			学年	時期	
講義・演習 4単位（100時間）	小児看護学Ⅰ	1	25	1年次	後期
	小児看護学Ⅱ	1	25	2年次	前期
	小児看護学Ⅲ	1	25	2年次	後期
	小児看護学Ⅳ	1	25	3年次	前期・後期
臨地実習 3単位（105時間）	小児看護学実習Ⅰ	1	35	2年次	後期
	小児看護学実習Ⅱ	2	70	2～3年次	前期・後期
合計	7	205			

小児看護学 I

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員 外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 小児各期における成長と発達の特徴について理解できる。 2. 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護について理解できる。 3. 子どもと家族を取り巻く社会、小児に関する保健や福祉について理解できる。				
学習概要	1. 小児看護学の位置づけと目標 2. 子どもと家族を取り巻く環境 1) 諸統計からみた子どもと家族の健康課題 2) 小児看護の変遷と課題 3) 小児看護における倫理（子どもの権利、小児看護における倫理的配慮） 3. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達の概念 2) 成長・発達の進み方（一般的原則） 3) 成長・発達に影響する因子（遺伝的因子、環境的因子） 4) 発達課題と発達理論 5) 小児各期における成長・発達の特徴 6) 子どもの成長・発達のアセスメント（成長・発達の評価） 4. 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護 1) 新生児期（栄養と授乳、事故防止、親子関係の確立、養育・看護） 2) 乳児期（栄養と離乳、遊び、予防接種、事故防止、親子関係の確立、養育・看護） 3) 幼児期（日常生活の自立と世話、運動と遊び、事故防止、親子関係の確立等） 4) 学童期（疾病・生活習慣病の予防、学習と遊び、事故防止、学校生活への適応等） 5) 思春期（自我発達、情緒的発達、性的傾向、生活の特徴、いじめ・自殺の防止等） 5. 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての家族 2) 子どもをもつ家族のアセスメント 6. 子どもと家族を取り巻く社会 1) 児童福祉（児童福祉の変遷、虐待防止、子どもの貧困への対策） 2) 母子保健（母子保健の歴史、現在の母子保健） 3) 医療費の支援（未熟児養育医療、小児慢性特定疾病医療費助成制度、難病） 4) 予防接種（予防接種の歴史、現在の予防接種、副反応と健康被害救済制度） 5) 学校保健（学校保健の歴史、健康診断、健康相談、感染予防、学校保健活動の推進） 6) 食育 7) 特別支援教育				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版（医学書院） ・国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会） 				
備考	小児看護学 I では、子どもの成長と発達の特徴や小児看護における基本的な概念について学習する。人間発達学で学んだ知識と関連づけながら子どもの成長・発達の特徴を理解していくとともに、子どもが健やかに成長・発達していくための環境や社会にも目を向ける機会としてほしい。				

小児看護学Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当	学内教員 外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 健康問題をもつ子どもとその家族への看護に関する基礎知識について理解できる。 2. 小児疾患（小児内科）の病態と診断・治療について理解できる。				
学習概要	小児臨床看護総論 4時間（2回）	1. 病気・障がいをもつ子どもと家族の看護 1) 病気・障がいに対する子どもの反応 2) 子どもの病気・障がいに対する家族の反応 2. 子どもの健康問題と看護 1) 健康問題をもつ子どもと家族の看護の方向性 2) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 3) 子どもの日常生活にかかわる看護 4) 健康問題をもつ子どもと家族の看護			
	小児内科 20時間（10回）	1. 小児疾患（小児内科） 1) 小児内科疾患の病態と診断・治療 染色体異常、新生児仮死 低出生体重児、高ビリルビン血症 先天性心疾患、川崎病 てんかん、痙攣、髄膜炎 糖尿病 食物アレルギー、気管支喘息 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 肺炎、かぜ症候群 急性乳幼児下痢症 白血病、血友病 ネフローゼ症候群、腎盂腎炎 アトピー性皮膚炎 発達障害 事故（誤飲・誤嚥、溺水、熱傷）、虐待			
使用教材	・系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 小児臨床看護各論 第14版（医学書院）				
備考	小児看護学Ⅱでは、健康問題をもつ子どもとその家族への看護に関する基礎知識や小児疾患の病態と診断・治療について学習する。健康問題が子どもとその家族に与える影響が大きいことを理解するとともに、子どもとその家族を包括的に捉える力を養ってほしい。				

小児看護学Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 疾病や診療・入院が子どもと家族に与える影響について理解できる。 2. 子どものアセスメントに関する基礎的知識や技術を習得できる。 3. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。				
学習概要	1. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 2. 子どもにおける疾病の経過と看護 1) 急性期にある子どもと家族の看護 2) 慢性期にある子どもと家族の看護 3. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定 ※ 演習 2) 身体的アセスメント 4. 症状を示す子どもの看護 1) 発熱 2) 脱水 3) 下痢・嘔吐 4) 呼吸困難 5) 痙攣 6) 痛み 5. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 子どもにとっての検査・処置体験と看護の実際 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 検査・処置を受ける子どもの看護 ※ 演習 採血、採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、与薬、注射、輸液管理、 吸引、酸素療法、経管栄養 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">※ 事例による看護過程の展開を含む</div>				
使用教材	・系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 小児臨床看護各論 第14版（医学書院）				
備考	小児看護学Ⅲでは、検査や処置を受ける子どもとその家族への看護について学習する。子どもが安全・安楽に検査や処置を受けることができるよう、子どもの視点に立って看護を考えてほしい。子どもの個別性に合わせた看護が実践できるよう、柔軟な発想や創意工夫をする力を養って欲しい。				

小児看護学Ⅳ

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題をもつ子どもとその家族の特徴と看護について理解できる。 2. 多様な場で生活する子どもと家族を支えるために必要な多職種との連携・協働について考えることができる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 2. 手術を受ける子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの手術の特徴 2) 手術を受ける子どもと家族への看護 3. 化学療法・放射線療法を受ける子どもと家族への看護 4. 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク新生児の特徴 2) 集中治療における援助 3) 親子・家族関係確立への支援 5. 先天性疾患のある子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天異常の種類と特徴 2) 子どもの疾患に対する家族の理解と受容 3) 養育とケア技術獲得に関する家族への援助 6. 障がいのある子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障がいのとらえ方 2) 障がいのある子どもと家族の特徴 3) 障がいのある子どもと家族への社会的支援 7. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院生活から在宅への移行に向けた支援 2) 在宅療養の環境と看護の役割 3) 在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護 8. 子どもの虐待と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの虐待への対策の経緯と現状、子どもの虐待に特徴的にみられる状況 2) リスク要因と発生子防・早期発見 3) 求められるケア 9. 災害を受けた子どもと家族への看護 10. 終末期にある子どもと家族への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの生命・死のとらえ方 2) 子どもと家族の看護 3) 子どもの死を看取る家族の反応と看護 4) 終末期における多職種アプローチ 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 (医学書院) ・系統看護学講座：専門分野 小児臨床看護各論 第14版 (医学書院) 						
備考	<p>小児看護においても、病院や施設、自宅といった多様な場で看護を実践する力が求められている。子どもと家族の個別性に合わせて看護が実践できるよう、子どもと家族を取り巻く環境や社会の変化に関心を寄せるとともに、子どもが生きる力を信じてかかわることの大切さを学んでほしい。</p>						

小児看護学実習 I

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	学内教員
時間数	35時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	小児各期の成長・発達の特徴、遊びや日常生活行動の実際を知り、子どもを理解する。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達の特徴、遊びや日常生活行動について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期の発達段階、発達課題について記述できる。 2) 小児各期の形態・機能的側面の発達、心理・社会的側面の発達について記述できる。 3) 小児各期の遊びと日常生活行動の特徴について記述できる。 4) 小児各期の発達にかかわる問題と影響を及ぼす因子について記述できる。 2. 保育所の役割と機能、小児各期の子どもへのかかわり方について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育所の役割と機能について記述できる。 2) 小児各期の発達に必要な支援や子どもへのかかわり方について記述できる。 3. 小児各期の成長・発達、遊びや日常生活行動の特徴を考慮して、子どもとかわることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期の成長・発達、遊びの特徴を考慮して、子どもとかわることができる。 2) 基本的な生活習慣の自立を考慮して、子どもとかわることができる。 3) 子どもの安全に配慮して、子どもとかわることができる。 4. 小児各期の成長・発達、遊びや日常生活行動の特徴をふまえた子どもとの望ましいかわりについて考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育活動の見学や子どもとのかかわりを振り返り、印象に残った場面や気づいたことを記述できる。 2) 振り返った場面をもとに、小児各期の成長・発達、遊びや日常生活行動の特徴について自己の考えを述べるができる。 3) 実習での学びを統合し、小児各期の成長・発達、遊びや日常生活行動の特徴をふまえた子どもとの望ましいかわりについて自己の考えを述べるができる。 5. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 責任ある行動をとることができる。 3) 子どもの思いや考えを尊重しながら、子どもとかわることができる。 4) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所へ事前訪問し、施設の概要や実習中の諸注意等について説明を受ける。 ・ 保育士の保育活動を見学したり、子どもとのかかわりを体験する。 ・ 体験した内容をもとに、小児各期の成長・発達、遊びや日常生活行動の実際についてまとめ、発表する。その後ディスカッションを行い、子どもの理解を深める。 				
備考	<p>小児看護学実習 I は、小児各期の成長・発達の特徴、遊びや日常生活行動の実際について学ぶ実習である。子どもの言動や子どもが示すサインに着目しながら、子どもの思いや考えを知る機会として欲しい。また、一人ひとりの個性や可能性を伸ばすかわりについて考える機会としてほしい。</p>				

小児看護学実習Ⅱ

単位数	2単位	時期	2～3年次	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	小児各期（乳幼児期・学童期・思春期）にある対象とその家族を統合的に理解し、看護を展開できる能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の対象を理解し、看護上の問題を解決するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期の対象を理解するための基礎的知識について記述できる。 2) 受け持ち患児とその家族へ看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 2. 患児の看護上の問題点を明らかにするためのアセスメントができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患児を理解するために必要な情報を収集できる。 2) 収集した情報から患児の状態をアセスメントできる。 3) アセスメントの結果から、看護上の問題点（仮の診断）を立案できる。 4) 関連図を用いて患児の情報を統合し、患児の全体像を捉えることができる。 5) 優先順位の高い看護上の問題点を明らかにすることができる。 3. 患児の看護上の問題点（看護診断）を明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護上の問題点を明らかにするために、患児の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、原因・誘因が分析できる。 3) 分析した結果をもとに、看護診断を適切に記述できる。 4. 看護診断に関する計画を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護診断に関する目標を記述できる。 2) 患児が目標を達成するために必要な解決策を具体的に列挙できる。 3) 患児の成長・発達、遊びや日常生活行動の特徴、基本的生活習慣の自立等の視点をふまえて解決策を考えることができる。 5. 立案した計画をもとに援助が実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助前の準備ができる。 2) 立案した計画に基づいて、指導や助言を受けながら援助が実施できる。 3) 患児の安全・安楽を考慮するとともに患児の反応を確認しながら援助が実施できる。 4) 患児の成長・発達や基本的生活習慣の自立を考慮しながら援助が実施できる。 5) 実施した援助内容や計画を報告し、経過記録に正確に記述できる。 6. 実施した看護を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の行動目標にそって、実施した援助について説明できる。 2) 患児の目標が達成できたか記述できる。 3) 患児の目標達成度をもとに、看護過程の各段階の評価が記述できる。 7. 患児や家族と円滑な援助関係を形成することができる。 8. 小児各期にある対象の特徴や小児期にある患児と家族への看護について考察できる。 9. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期・学童期・思春期の患児を受け持ち、看護過程を展開する。 ・ 患児や家族と円滑な援助関係を形成するために、看護場面の再構成を行う。 				
備考	小児看護学実習Ⅱでは、健康問題がある患児と家族を包括的に捉えて看護を実践する能力を養ってほしい。子どもは守られた環境の中で育つと同時に、健康に問題を抱えていても成長・発達し続ける存在である。子どもの生きる力や可能性、愛おしさやたくましさを感じながら小児看護を学んでほしい。				

専門分野

— 母性看護学 —

【 目的 】

リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基盤として、母性各期や母性の対象の特性を理解し、看護を実践していくための基礎的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる。
2. 女性のライフサイクル各期における特徴と健康問題および看護について理解できる。
3. 妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過と看護に関する基礎的な知識や技術を習得できる。
4. 妊娠・分娩・産褥および新生児の異常と健康問題に対する看護について理解できる。
5. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解し、母性看護の課題について考えることができる。
6. 臨地実習を通して、母性看護の対象とその家族を統合的に理解し、看護を実践していくために必要な基礎的な知識・技術・態度を身につけることができる。

【 母性看護学の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
講義・演習 4単位（100時間）	母性看護学Ⅰ	1	25	1年次	後期
	母性看護学Ⅱ	1	25	2年次	前期
	母性看護学Ⅲ	1	25	2年次	前期・後期
	母性看護学Ⅳ	1	25	2年次	後期
臨地実習 2単位（70時間）	母性看護学実習	2	70	2～3年次	前期・後期
合計		6	170		

母性看護学 I

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当	学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる。 2. 母性看護の対象を理解するための基礎的知識を習得できる。 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解し、母性看護の課題について考えることができる。 4. 女性のライフサイクル各期における特徴と健康問題および看護について理解できる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学の位置づけと目標 2. 母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは、母性看護とは 2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 3) ヘルスプロモーション 4) 母性看護のあり方（母性看護の理念、母性看護の課題と展望） 3. 母性看護の対象理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) セクシュアリティ 2) 生殖に関する生理（生殖器の形態・機能、妊娠と胎児の性分化） 3) 女性のライフサイクルと家族（母子関係と家族発達） 4) 母性の発達・成熟・継承（母性・父性・親性の発達、母子関係と愛着等） 4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の歴史の変遷と現状 2) 母子保健統計（出生、周産期死亡、妊産婦死亡、死産、新生児死亡、結婚・離婚等） 3) 母性看護にかかわる法や施策（母子保健法、母体保護法、就労に関する法律等） 4) 周産期医療のシステムと母子保健施策の活用 5. 母性看護における倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定 6. 女性のライフサイクル各期における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期の健康と看護 2) 性成熟期の健康と看護 3) 更年期・老年期の健康と看護 7. リプロダクティブヘルスケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護 4) 性暴力を受けた女性に対する看護 5) 児童虐待と看護 				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 母性看護学概論 第14版（医学書院） ・国民衛生の動向 2022/2023（厚生労働統計協会） 				
備考	<p>母性看護の対象はあらゆるライフサイクルにある女性と子どものみならず、生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもを産み育てる家族、その家族が生活する地域社会をも含んでいる。母性看護の対象を取り巻く社会の変遷や動向にも興味・関心を寄せながら、母性看護を学んでほしい。</p>				

母性看護学Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過について理解できる。 2. 妊娠・分娩・産褥および新生児の異常について理解できる。				
学習概要	妊娠・分娩・産褥 の経過 14時間（7回）	1. 正常な妊娠の経過 1) 妊娠の生理（妊娠期の定義、妊娠の成立、妊娠時期の診断） 2) 妊娠の経過と胎児の発育、母体の生理的変化 3) 妊婦と家族の心理・社会的変化 4) 妊婦の健康診査 2. 正常な分娩の経過 1) 分娩期の定義 2) 分娩の3要素 3) 分娩の経過 3. 正常な産褥の経過 1) 産褥期の定義 2) 産褥期の身体的変化 3) 褥婦と家族の心理・社会的変化 4. 新生児の生理			
	妊娠・分娩・産褥 の異常 10時間（5回）	1. 妊娠の異常 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常（不育症、流産、早産） 2. 分娩の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児、胎児の付属物の異常 4) 胎児機能不全 5) 分娩時の損傷 6) 分娩時異常出血 7) 産科処置と産科手術 3. 産褥の異常 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 産後精神障害 4. 新生児の異常（新生児仮死、低出生体重児等）			
使用教材	・系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 第14版（医学書院）				
備考	母性看護学Ⅱでは、妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過と異常について学習する。ここで学んだ知識が、後に学ぶ妊娠・分娩・産褥および新生児の看護の理解に非常に役立つ。母性看護の基盤となる知識を身につけることができるよう、学習方法の工夫をしながら理解を深めてほしい。				

母性看護学Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護について理解できる。 2. 母性看護における看護技術に関する基礎的知識・技術を習得できる。				
学習概要	母性看護：正常編 16時間（8回）	1. 妊娠期における看護 1) 妊婦と胎児のアセスメント 2) 妊婦と家族の看護 2. 分娩期における看護 1) 産婦・胎児・家族のアセスメント 2) 分娩各期の産婦と家族の看護 3. 産褥期における看護 1) 褥婦のアセスメント 2) 褥婦と家族の看護 3) 施設退院後の看護 4. 新生児期における看護 1) 新生児のアセスメント 2) 新生児の看護			
	母性看護技術 8時間（4回）	1. 母性看護における看護技術 ※ 演習 1) 腹囲・子宮底長の測定 2) レオポルド触診法、児心音の聴取 3) 子宮復古状態の観察 4) 新生児のバイタルサイン測定 5) 新生児の沐浴			
看護技術の 卒業時の到達度	【 清潔・衣生活援助技術 】				
	技術の種類			演習	実習
	新生児の沐浴・清拭			I	III
卒業時の到達レベル（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度より引用）					
演習		I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる		
実習		III	実施が困難な場合は見学する		
使用教材	・系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 第14版（医学書院） ・ナーシング・グラフィカ：母性看護学(3) 母性看護技術 第5版（メディカ出版）				
備考	母性看護学Ⅲでは、正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護と母性看護技術について学習する。母性看護学Ⅱで学んだ妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過に関する知識を再確認しながら、看護を理解してほしい。				

母性看護学Ⅳ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児の健康問題に対する看護について理解できる。 2. 事例展開を通して、正常な経過をたどる褥婦への看護や帝王切開術後の看護について理解できる。				
学習概要	母性看護：異常編 12時間（6回）	1. 妊娠期の健康問題に対する看護 1) 妊娠の異常と看護 2) ハイリスク妊婦の看護 2. 分娩期の健康問題に対する看護 1) 異常のある産婦の看護 2) 異常分娩時の産婦の看護 3) 分娩時異常出血のある産婦の看護 3. 産褥期の健康問題に対する看護 1) 異常のある褥婦の看護 2) 育児に困難さをかかえる母親への看護 3) 子を亡くした褥婦・家族の看護 4. メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援 1) 妊娠・出産・育児への影響 2) 治療および看護 5. 新生児の健康問題に対する看護 1) 新生児仮死 2) 低出生体重児 3) 高ビリルビン血症			
	母性看護過程 12時間（6回）	1. 母性看護における看護過程 1) 母性看護における対象把握 2) 女性のヘルスアセスメントの考え方と方法 2. 事例による看護過程の展開 ※ 事例展開 1) 正常な経過をたどる褥婦への看護 2) 帝王切開術後の看護			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 母性看護学概論 第14版（医学書院） ・系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 第14版（医学書院） ・ナーシング・グラフィカ：母性看護学(3) 母性看護技術 第5版（メディカ出版） 				
備考	母性看護学Ⅳでは、妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康問題に対する看護について学習する。健康問題を抱えた妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族、それぞれの思いを考えながら学んでほしい。また、妊娠・出産をめぐる倫理的課題についても考える機会としてほしい。				

母性看護学実習

単位数	1単位	時期	2～3年次	担当	学内教員
時間数	35時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	母性の特性をふまえて、妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の母子とその家族を統合的に理解し、看護を展開できる能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の対象を理解し、看護を実践するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と看護に関する基礎的知識について記述できる。 2) 受け持つ対象へ看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 2. 妊娠期の看護について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠期の看護を見学・実施し、印象に残った場面や気づいたことを記述できる。 2) 振り返った場面をもとに、妊婦や家族に必要な看護について考察できる。 3. 分娩期の看護について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩期の看護を見学・実施し、印象に残った場面や気づいたことを記述できる。 2) 振り返った場面をもとに、産婦や家族に必要な看護について考察できる。 4. 産褥期の看護について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象を理解するために必要な情報を収集し、健康状態をアセスメントできる。 2) アセスメントの結果から、褥婦の状態に合わせた援助計画を考えることができる。 3) 産褥日数に応じた退行性変化・進行性変化を促進するための援助や、退院後の生活を考慮した指導を実施できる。 4) 実施した看護を振り返り、日々の援助計画を追加・修正することができる。 5. 新生児期の看護について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象を理解するために必要な情報を収集し、新生児の日齢に応じた生理的変化および健康状態をアセスメントできる。 2) アセスメントの結果から新生児の状態に合わせた援助計画を考えることができる。 3) 新生児の日齢や状態を考慮し胎外生活に適應するための援助を安全に実施できる。 4) 実施した看護を振り返り、日々の援助計画を追加・修正することができる。 6. 母子関係を促進するために必要な看護について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子や母子を取り巻く家族の反応を捉え、母子関係をアセスメントできる。 2) アセスメントの結果から母子関係を促進するための援助を考え、実施できる。 3) 実施した看護を振り返り、日々の援助計画を追加・修正することができる。 7. 対象と円滑な援助関係を形成することができる。 8. 母性看護において必要なこと・大切なことについて考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護において必要なこと・大切なことについてまとめ、発表できる。 2) 生命の尊厳について自己の考えを述べることができる。 9. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・産科病棟で実習を行い、妊婦・産婦・褥婦および新生児を受け持つ。 ・対象の健康状態をアセスメントし、必要な援助計画を考えて実施する。 ・実習での学びを統合し、生命の尊厳や母性看護について考え、理解する。 				
備考	女性の生涯や役割の多様化、医学の進歩や発展、晩産化と少子高齢化等、母子をめぐる環境や社会は著しく変化している。子どもをより健康な状態で産み育てるための母性への支援を体験し、母性を取り巻く環境や社会の変化や生命の尊厳について考える機会としてほしい。				

専門分野

— 精神看護学 —

【 目的 】

あらゆるライフサイクルにおける人間の精神（心）の働きを心身の相関や社会との関連から理解し、精神の健康の保持・増進および疾病からの回復を支援する看護を実践していくための基礎的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【 目標 】

1. 精神の健康、精神の捉え方や発達に関する基礎的知識について理解できる。
2. 精神看護の基盤となる概念や理論について理解できる。
3. 精神疾患・精神障害の病態と診断・治療について理解できる。
4. 精神障害をもつ対象を理解への看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。
5. 精神保健医療福祉の変遷や法・施策、社会資源の活用や多職種連携の必要性について理解できる。
6. 臨地実習を通して、精神看護の対象とその家族を統合的に理解し、看護を実践していくために必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。

【 精神看護学の構成 】

科目		単位数	時間数	学科進度	
				学年	時期
講義・演習 4単位（100時間）	精神看護学Ⅰ	1	25	1年次	後期
	精神看護学Ⅱ	1	25	2年次	前期・後期
	精神看護学Ⅲ	1	25	2年次	後期
	精神看護学Ⅳ	1	25	2年次	後期
臨地実習 2単位（70時間）	精神看護学実習	2	70	2～3年次	前期・後期
合計		6	170		

精神看護学 I

単位数	1単位	時期	1年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	1. 精神の健康の概念、精神の構造と機能や発達に関する基礎的知識について理解できる。 2. 精神看護の基盤となる概念・理論について理解できる。 3. 精神保健医療福祉の動向と精神看護の役割について理解できる。						
学習概要	1. 精神看護学の位置づけと目標 2. 精神の健康とは 1) 精神の健康の定義 2) 心身一如と精神的健康 3) 精神の健康を支える要因 3. 精神（心）の構造と機能 1) 脳の構造と認知機能 2) 精神（心）の構造と働き（意識と無意識、自我、転移感情等） 4. 精神（心）の発達 1) エリクソンの漸成的発達理論 2) ボウルビィの愛着理論 3) 乳幼児期の発達理論（マラーの分離個体化理論、スターンの自己感の発達論） 4) マズローの欲求5段階説 5) ピアジェの認知発達理論 5. 精神看護の基盤となる概念・理論 1) 危機 2) ストレスと対処 3) 適応と不適応 4) セルフマネジメント 5) レジリエンス 6) リカバリー 7) ストレングス 8) エンパワメント 6. 精神保健医療福祉の動向 1) 日本の精神保健医療福祉の動向と方向性 2) 精神障害の一次予防・二次予防・三次予防 3) リカバリーを基軸とした精神医療 4) 入院医療中心から地域生活中心へ 7. 精神看護の役割 1) 精神看護とは 2) 精神看護の役割の広がり 3) 精神看護の専門性						
使用教材	・新体系看護学全書：精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第6版（メヂカルフレンド社）						
備考	精神看護学 I では、精神の機能と発達、精神看護の基盤となる概念や理論について学習する。人間のライフサイクルにおける心の健康の保持・増進や健康問題に対する看護を実践していくための素地が養えるよう、心理学や人間発達学で学んだ知識を再確認しながら学んでほしい。						

精神看護学Ⅱ

単位数	1単位	時期	2年次 前・後期	担当		外部講師				
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在社会の諸問題と精神（心）の健康に関する基礎的知識を理解できる。 2. 精神保健医療福祉の変遷と法・施策、社会資源に関する基礎的知識を習得できる。 3. 精神保健医療福祉にかかわる職種の役割や多職種連携の必要性について理解できる。 4. 精神症状のアセスメントに関する基礎的知識や技術を習得できる。 5. 精神保健医療福祉における倫理的課題について考えることができる。 									
学習概要	<p style="text-align: center;">精神保健 18時間（9回）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と精神（心）の健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理 2) 学校と精神の健康（いじめ、引きこもり、不登校） 3) 職場・仕事と精神の健康（職場のハラスメント） 4) 家族・家庭と精神の健康（児童虐待、DV） 5) 現代社会と精神の健康（自殺、自傷行為、依存、犯罪・非行） 6) 地域における生活と精神の健康 2. 精神保健医療福祉の変遷と法・施策および倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本・諸外国における精神医療の変遷 2) 精神障害者への偏見、差別、スティグマ 3) 精神障害をもつ人を守る法と施策 4) 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 5) 患者の権利擁護（アドボカシー） 3. 精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方 2) 社会資源の活用とソーシャルサポート 3) 地域移行支援・地域生活支援の重要性と課題 4. 精神保健医療福祉における多職種連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健医療福祉にかかわる職種 2) 精神保健医療福祉における多職種連携と看護の役割 								
	<p style="text-align: center;">臨床心理の基礎 6時間（3回）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神（心）の働きと精神症状 2. 精神症状のみかた 3. 診断とその経過、治療のあり方 4. 心理アセスメントの技法 5. 介入技法 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書：精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第6版（メヂカルフレンド社） ・新体系看護学全書：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版（メヂカルフレンド社） ・系統看護学講座：別巻 精神保健福祉 第4版（医学書院） 									
備考	<p>精神看護学Ⅱでは、現代社会に生きる人間の精神（心）と健康や臨床心理の基礎について学習する。看護職として精神を病む人が偏見や差別を受けずに生きることを支援できるよう、精神保健医療福祉の変遷や現状について学び、倫理的課題についても考える機会としてほしい。</p>									

精神看護学Ⅲ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	外部講師
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 精神疾患・精神障害の病態と診断・治療について理解できる。				
学習概要	<p>1. 精神の病気・障害をもつということ</p> <p>1) 精神（心）を病むとは</p> <p>2) 精神障害と差別</p> <p>3) 精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているか</p> <p>4) 精神障害と共に生きる</p> <p>2. 精神疾患・精神障害の病態と診断・治療</p> <p>1) 精神症状論と状態像</p> <p>2) 精神科的診察（診察、一般検査・画像検査、心理検査）</p> <p>3) 診断基準と分類</p> <p>4) 治療法（薬物療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法）</p> <p>5) 精神疾患・精神障害の病態と診断・治療</p> <p>統合失調症</p> <p>うつ病、双極性障害</p> <p>強迫性障害</p> <p>パニック障害、心的外傷後ストレス障害、適応障害</p> <p>パーソナリティ障害</p> <p>摂食障害</p> <p>睡眠障害</p> <p>パーソナリティ障害</p> <p>知的障害、発達障害</p> <p>認知症、せん妄</p> <p>アルコール依存症、薬物依存</p>				
使用教材	・新体系看護学全書：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版（メヂカルフレンド社）				
備考	精神看護学Ⅲでは精神疾患・障害の病態と診断・治療について学ぶ。精神障害をもつ人がどのようなことを経験し、感じながら生活しているかを考えながら学んでほしい。精神障害をもつ人が置かれている環境や社会とのかかわりにも目を向けながら、対象を理解するための知識を身につけてほしい。				

精神看護学Ⅳ

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当		外部講師	
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価		別紙参照	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象の理解と支援のための概念について理解できる。 2. 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮の必要性について理解できる。 3. 精神障害をもつ対象とその家族への看護に必要な基礎的知識・技術を習得できる。 4. リエゾン精神看護の活動内容と看護師のメンタルヘルスケアについて理解できる。 5. 災害時の精神保健医療活動の実際について知ることができる。 						
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象の理解と支援のための概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害をもつ人との援助関係の構築 2) 精神障害をもつ人のセルフケアへの援助 3) 精神障害をもつ人のセルフマネジメント（自己管理） 2. 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科看護における安全管理 2) 病棟環境の整備と行動制限 3) 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム 4) 災害時の精神科病棟の安全確保 3. 精神看護における看護過程の展開 4. 精神障害をもつ人への看護 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">※ 事例による看護過程の展開を含む</div> <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合失調症 2) 双極性障害 3) うつ病 4) 強迫性障害 5) 摂食障害 6) アルコール依存症 7) 発達障害 5. 精神障害をもつ人をケアする家族への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害の家族への影響 2) 家族への支援 6. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域生活の再構築と社会参加 2) 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 7. リエゾン精神看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) リエゾン精神看護活動とケアの実際 2) 看護師のメンタルヘルスケア 8. 災害時の精神看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害とストレス 2) 災害時の精神保健医療活動の基本と支援の実際 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新体系看護学全書：精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版（メヂカルフレンド社） 						
備考	<p>精神看護学Ⅳでは、精神障害をもつ対象とその家族への看護について学習する。患者の力を引き出し、患者と共に回復を目指す支援ができるよう、対象やその家族の理解を深めてほしい。医療機関のみならず、地域における生活を支える視点を養ってほしい。</p>						

精神看護学実習

単位数	2単位	時期	2～3年次	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	精神障害をもつ対象とその家族を統合的に理解し、看護を展開できる能力を身につける。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害をもつ対象を理解し看護上の問題を解決するための基礎的知識が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害をもつ対象とその家族を理解するための基礎的知識について記述できる。 2) 精神看護の役割と機能、精神科病棟における安全管理について記述できる。 3) 受け持ち患者の看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 2. 患者の看護上の問題点を明らかにするためのアセスメントができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者を理解するために必要な情報を収集できる。 2) 患者の発達段階、疾病や治療、本人の強みを考慮してアセスメントができる。 3) アセスメントの結果から、看護上の問題点（仮の診断）を立案できる。 4) 関連図を用いて患者の情報を統合し、患者の全体像を捉えることができる。 5) 優先順位の高い看護上の問題点を明らかにすることができる。 3. 患者の看護上の問題点（看護診断）を明らかにできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護上の問題点を明らかにするために、患者の情報を収集できる。 2) 収集した情報をもとに、原因・誘因が分析できる。 3) 分析した結果をもとに、看護診断を適切に記述できる。 4. 看護診断に関する計画を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護診断に関する目標を記述できる。 2) 患者が目標を達成するために必要な解決策を具体的に列挙できる。 3) 患者の疾病や治療による影響を考慮した解決策を考えることができる。 5. 立案した計画をもとに援助が実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助前の準備ができる。 2) 立案した計画に基づいて、指導や助言を受けながら援助が実施できる。 3) 患者の疾患や治療による影響を考慮しながら援助が実施できる。 4) 患者の安全・安楽を考慮するとともに患者の反応を確認しながら援助が実施できる。 5) 実施した援助内容や計画を報告し、経過記録に正確に記述できる。 6. 実施した看護を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日々の行動目標にそって、実施した援助について説明できる。 2) 患者の目標が達成できたか記述できる。 3) 患者の目標達成度をもとに、看護過程の各段階の評価が記述できる。 7. 日々のかかわりを振り返り、精神症状が日常生活に与える影響や患者の行動の意味について考えることができる。 8. 自己理解・他者理解を深め、患者や家族と円滑な援助関係を形成することができる。 9. 精神障害をもつ対象とその家族への看護を通して学んだことについて考察できる。 10. 看護学生として倫理をわきまえた行動をとることができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・ 患者と円滑な援助関係を形成するために、看護場面の再構成を行う。 				
備考	精神看護学実習では、精神障害をもつ対象とその家族への看護について学習する。精神看護において対象との援助関係が基盤であるため、再構成を通して自己理解や他者理解を深める機会としてほしい。また、当事者中心のケアや患者の持っている力を引き出せるかかわりを考えてほしい。				

専門分野

－ 看護の統合と実践 －

【 目的 】

看護基礎教育における学びを臨床での看護実践に活用できるよう、既習の知識・技術・態度を統合して看護を実践していく能力を身につける。また、看護を科学的に実践し、看護の質の向上を図るための研究的態度を身につけるとともに、自己の看護観を深めることを目的とする。

【 目標 】

1. 臨床判断に必要な基礎的知識や技術を習得できる。
2. 看護管理、医療安全、感染管理に関する基礎的知識について理解できる。
3. 災害看護・国際看護、救急看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。
4. 看護研究に関する基礎的知識について理解できる。
5. ケーススタディを通して自己の看護実践を振り返り看護観を深めるとともに、研究的態度を身につけることができる。
6. 看護を取り巻く社会の変遷と現状について理解し、看護の役割と機能や今日的課題について考えることができる。
7. 臨地実習を通して、医療チームの一員としての看護の役割を理解し、既習の知識・技術・態度を統合して看護を実践していく能力を身につけることができる。

【 看護の統合と実践の構成 】

科目	単位数	時間数	学科進度		
			学年	時期	
講義・演習 4単位（100時間）	看護の統合と実践Ⅰ	1	25	2年次	後期
	看護の統合と実践Ⅱ	1	25	3年次	前期・後期
	看護の統合と実践Ⅲ	1	25	3年次	後期
	看護の統合と実践Ⅳ	1	25	3年次	前期・後期
臨地実習 2単位（70時間）	看護の統合と実践実習	2	70	3年次	後期
合計	6	170			

看護の統合と実践 I

単位数	1単位	時期	2年次 後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断に必要な基礎的知識や技術を習得できる。 2. 事例を用いて臨床判断の実際を体験し、自己の思考のプロセスや援助を振り返ることができる。 3. 臨床判断能力を高めるための自己の課題を明らかにすることができる。 				
学習概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を取り巻く現状と臨床判断能力が求められる背景 2. 臨床判断とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床判断の定義 2) 臨床判断のプロセス（臨床判断モデル） 3) 臨床判断と臨床推論の違い 4) 臨床判断に必要な知識と技術 3. 看護実践の場における臨床判断の実際 4. 事例を用いて臨床判断を学ぶ ※ 演習（状況設定演習を複数回行う） <ol style="list-style-type: none"> 1) 演習オリエンテーション 2) 事例紹介 3) 臨床判断の実際と振り返り（気づく、解釈する、反応する、省察する） 4) 事例を通しての学びの共有 5. 臨床判断能力を高めるために… <ol style="list-style-type: none"> 1) 演習を通しての学びの共有 2) 臨床判断能力を高めるために必要なこと・大切なこと、自己の課題を考える 				
使用教材					
備考	<p>臨床判断とは、患者のニーズ、気がかり、健康問題について解釈し結論を出すこと、患者の反応から適切にその場で考え出して行う判断のことである。演習を通して、患者のサインや反応に気づく力、状況を解釈し、瞬時に反応する力、自己の行為を省察する力を養ってほしい。</p>				

看護の統合と実践Ⅱ

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 看護管理に関する基礎的知識について理解できる。 2. 医療安全や感染管理に関する基礎的知識を理解し、看護における医療安全や感染管理の意義と重要性を認識することができる。				
学習概要	看護管理 12時間（6回）	1. 看護管理の基本となるもの 1) 看護管理の基盤となる知識 2) 看護管理のプロセス 3) 看護の専門性と多職種連携 2. 看護職の仕事とその管理 1) 人を育て活かす 2) モノの管理 3) コストの管理 4) 情報の管理 5) 時間の管理 6) 看護提供システム 3. 看護の質の保証、質の向上 1) 看護管理と倫理 2) 医療安全 3) 医療・看護の質と評価 4. 看護と経営 5. 看護職とキャリア 6. 看護管理に求められる能力			
	医療安全 8時間（4回）	1. 医療安全の意味と重要性 2. 事故防止の考え方 3. 看護に関連する事故防止 1) 診療の補助の事故防止 2) 療養上の世話の事故防止 3) 看護職の労働安全衛生上の事故防止 4. 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 5. 組織的な安全管理体制への取り組み			
	感染管理 4時間（2回）	1. 感染の成立と基本的な感染予防策 2. 医療器具・処置関連感染対策、職業感染予防 3. 医療環境の管理 4. 部門別感染対策（外来、検査室、ICU等） 5. 医療関連感染サーベイランス			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 看護管理 第10版（医学書院） ・系統看護学講座：専門分野 医療安全 第4版（医学書院） 				
備考	チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけではなく看護に携わるすべての者が担う役割である。看護管理の視点から看護を考えるとともに看護職としての将来を描く機会としてほしい。また、医療安全や感染管理を学び看護職としての患者の命に携わる責任があることを認識してほしい。				

看護の統合と実践Ⅲ

単位数	1単位	時期	3年次 後期	担当	外部講師																				
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照																				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護・国際看護に関する基礎的知識を理解できる。 2. 救急看護に関する基礎的知識や技術を習得できる。 3. 看護を取り巻く社会の変遷と現状について理解し、看護の役割と機能や今日的課題について考えることができる。 																								
学習概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;"> 災害看護・国際看護 12時間（6回） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護学と国際看護学を学ぶ意義 2. 災害医療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の種類と特徴、災害による健康被害 2) 災害と法制度、災害時の支援体制と医療体制 3. 災害各期の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の特徴 2) 災害各期（超急性期・急性期・慢性期・静穏期）の特徴 3) 各期における保健医療の役割と看護 4) 各期における要援護者への看護 4. 看護における国際化の視点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の健康問題の現状 2) グローバル化と人間の安全保障 3) 国際保健における日本の役割 5. 国際看護学の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護学の定義・対象 2) 国際協力のしくみ、国際協力活動と看護 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 救急看護 12時間（6回） </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急処置法の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急処置の範囲と対象 2) 救急処置法の原則と実際 ※ 演習（BLS） 2. 救急看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急医療の現状 2) 救急看護の役割 3) 救急患者発生時の看護 ※ 演習（トリアージ） </td> </tr> </table>					災害看護・国際看護 12時間（6回）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護学と国際看護学を学ぶ意義 2. 災害医療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の種類と特徴、災害による健康被害 2) 災害と法制度、災害時の支援体制と医療体制 3. 災害各期の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の特徴 2) 災害各期（超急性期・急性期・慢性期・静穏期）の特徴 3) 各期における保健医療の役割と看護 4) 各期における要援護者への看護 4. 看護における国際化の視点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の健康問題の現状 2) グローバル化と人間の安全保障 3) 国際保健における日本の役割 5. 国際看護学の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護学の定義・対象 2) 国際協力のしくみ、国際協力活動と看護 	救急看護 12時間（6回）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急処置法の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急処置の範囲と対象 2) 救急処置法の原則と実際 ※ 演習（BLS） 2. 救急看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急医療の現状 2) 救急看護の役割 3) 救急患者発生時の看護 ※ 演習（トリアージ） 																
災害看護・国際看護 12時間（6回）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護学と国際看護学を学ぶ意義 2. 災害医療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の種類と特徴、災害による健康被害 2) 災害と法制度、災害時の支援体制と医療体制 3. 災害各期の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の特徴 2) 災害各期（超急性期・急性期・慢性期・静穏期）の特徴 3) 各期における保健医療の役割と看護 4) 各期における要援護者への看護 4. 看護における国際化の視点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の健康問題の現状 2) グローバル化と人間の安全保障 3) 国際保健における日本の役割 5. 国際看護学の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護学の定義・対象 2) 国際協力のしくみ、国際協力活動と看護 																								
救急看護 12時間（6回）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急処置法の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急処置の範囲と対象 2) 救急処置法の原則と実際 ※ 演習（BLS） 2. 救急看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 救急医療の現状 2) 救急看護の役割 3) 救急患者発生時の看護 ※ 演習（トリアージ） 																								
看護技術の卒業時の到達度	<p>【 救急救命処置の技術 】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">技術の種類</th> <th style="width: 15%;">演習</th> <th style="width: 15%;">実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急時の応援要請、一次救命処置（BLS）</td> <td>I</td> <td>I</td> </tr> <tr> <td>止血法の実施</td> <td>I</td> <td>III</td> </tr> </tbody> </table> <p>卒業時の到達レベル（看護師教育の技術項目と卒業時の到達度より引用）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">演習</th> <th style="width: 10%;">I</th> <th style="width: 65%;">モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: left;">実習</td> <td>I</td> <td></td> <td>単独で実施できる</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td></td> <td>実施が困難な場合は見学する</td> </tr> </tbody> </table>					技術の種類	演習	実習	救急時の応援要請、一次救命処置（BLS）	I	I	止血法の実施	I	III		演習	I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる	実習	I		単独で実施できる	III		実施が困難な場合は見学する
技術の種類	演習	実習																							
救急時の応援要請、一次救命処置（BLS）	I	I																							
止血法の実施	I	III																							
	演習	I	モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる																						
実習	I		単独で実施できる																						
	III		実施が困難な場合は見学する																						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門分野 災害看護学・国際看護学 第4版（医学書院） ・系統看護学講座：別巻 臨床外科看護総論 第11版（医学書院） 																								
備考	看護の統合と実践Ⅲでの学びを通して、看護を取り巻く社会の変遷と現状を理解し、日本だけでなく世界においてどのような看護の役割と機能が求められているかを考える機会としてほしい。																								

看護の統合と実践Ⅳ

単位数	1単位	時期	3年次 前・後期	担当	外部講師 学内教員
時間数	25時間	方法	講義・演習	評価	別紙参照
学習目標	1. 看護研究に関する基礎的知識を理解できる。 2. ケーススタディを通して自己の看護実践を振り返り、看護観を深めることができる。 3. 看護を科学的に実践し、看護の質の向上を図るための研究的態度を身につけることができる。				
学習概要	看護研究 20時間（10回）	1. 看護研究とは何か 2. リサーチクエスチョンをたてる 3. 情報の探索と吟味 1) 文献検索 2) 文献クリティーク 3) 文献レビュー 4. 研究計画書の作成 1) 研究の問いのレベルと研究デザインとの関係 2) 研究デザインの種類 3) 質的研究と量的研究 5. 研究における倫理 1) 看護研究における倫理 2) 倫理的配慮のポイント 6. 研究の実施 1) データの収集 2) データの分析 7. 研究を伝える 1) 論文・抄録の作成 2) 研究の発表と発表時の留意点 8. 看護研究の未来 1) 質の高い看護実践のために 2) 看護研究における今後の課題			
	ケーススタディ 4時間（2回）	1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの進め方 3. ケースレポートの作成 4. ケーススタディの発表			
使用教材	・かんたん看護研究 改訂第2版（南光堂）				
備考	看護研究法を学ぶことで臨床の場で遭遇する様々な問題を解決していく能力や論理的に物事を考え、伝える力を身につけることができる。看護を科学的に実践し、看護の質の向上を図るための研究的態度を身につけるとともに、これまでの看護実践を振り返り自己の看護観を深める機会としてほしい。				

看護の統合と実践実習

単位数	2単位	時期	3年次 後期	担当	学内教員
時間数	70時間	方法	臨地実習	評価	別紙参照
目的	医療チームの一員としての看護の役割を理解し、既習の知識・技術・態度を統合して看護を実践していく能力を身につけることができる。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織における看護管理の実際について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護におけるマネジメントの内容や看護管理者の役割について記述できる。 2) 病棟管理者に同行し、看護管理の場面や気づいたことを記述できる。 3) 振り返った場面をもとに、看護におけるマネジメントや看護管理者の役割について考察できる。 2. 複数の患者を受け持つことを通して、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理について考え、看護を実践できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の看護を実践するために必要な基礎的知識について記述できる。 2) 看護師に同行し、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理に関する場면을具体的に列挙できる。 3) 振り返った場面をもとに、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理について考察できる。 4) 受け持ち患者に必要な看護を考え、優先順位や時間管理を考慮して1日の行動計画を考えることができる。 5) 患者の状況に応じて必要な援助を選択し、患者の反応を確かめながら実施できる。 6) 患者の安全・安楽・自立等を考慮して援助が実施できる。 7) 自己の看護実践を振り返り、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理を行ううえで必要なこと・大切なことについて考察できる。 3. 医療チームの中で連携して行われている看護の役割と継続看護について理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップについて記述できる。 2) 医療チームにおける看護師の役割や継続看護について記述できる。 3) 夜間実習を行い、患者の夜間の状況や安全管理の場면을具体的に列挙できる。 4) 夜間実習や複数受け持ち実習を通して、医療チームの中で連携して行われている看護の役割と継続看護について考察できる。 4. 統合実習を振り返り、医療チームの一員として看護を行うために必要なこと・大切なことについて考察できる。 5. 統合実習を振り返り、自己の看護観を深めることができる。 6. 看護の職業人として倫理をわきまえた行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の健康と身だしなみを整えることができる。 2) 看護チームの一員として責任ある行動をとることができる。 3) 倫理的判断をもとに、相手を尊重した言動をとることができる。 4) 主体的に実習に取り組み、問題を解決しようと努力することができる。 				
実習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・管理実習、複数受け持ち実習・夜間実習を行う。 ・統合実習での体験を通して、医療チームの一員としての看護の役割について考察する。 				
備考	看護の統合と実践実習は、看護学生として最後の実習である。これまで学んできた知識・技術・態度を統合し、受け持つ対象のために自分の持っている力を発揮してほしい。また「看護とは何か、自分はどのような看護師になりたいか」について考え、看護職としての将来が描けることを期待する。				